

金沢工業大学 御中

平成24年度 授業調査 報告書

2013.10.15

有限会社 アイ・ポイント

INDEX

<1>本調査の全体像	2
<2>基本的な分析	7
<3>学年別の分析	15
<4>学部・学科別の分析	21
<5>科目区分別の分析	40
<6>同一学生群の分析	52
<7>授業への取り組み姿勢と授業の満足度の分析	58
<8>全体のまとめ	62

<1> 本調査の全体像

1) 調査の目的

本調査は下記に挙げる目的に従って実施した。

- 本調査は金沢工業大学(以下、KIT)の学生から1年間に受けた授業に対する評価と満足度を聞き、属性による違いや過去の回答との比較などから現状を把握することを目的としている。
- 一連の分析によって得られた情報を授業の改善に有効活用し、KIT全体の教育改善につなげていくことが最終的な目的となる。
- 平成17年度に質問項目を変更しており、今回が8年目となるため、8年間の時系列比較を行って学生の実態がどのように変わっているかを確かめている。(調査の集計自体は平成15年から実施している。)

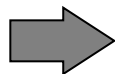
2) 調査の概略

今回の調査の概略は下記の通り。

項目	内容						
有効回答数	1年次生	31,682件					※クラス未記入の回答(2件)、科目名などの基本項目が全て未記入の回答(38件)は集計から除いた。
	2年次生	34,026件					
	3年次生	25,537件					
	4年次生	2,738件					
	合計有効回答数	93,983件					
年別回答数推移	回答数の推移は下記の通り。今回から前後期制となっている。						
	年度	春学期(夏期特別含む)	秋学期	冬学期	全回答数	調査票	
	平成15年度	30,514	28,157	25,464	84,135	旧調査票 (比較不可)	
	平成16年度	31,463	31,855	29,601	92,919		
	平成17年度	36,766	33,361	30,653	100,780	新調査票	
	平成18年度	36,518	33,803	31,734	102,055		
	平成19年度	35,723	33,919	32,275	101,917		
	平成20年度	37,693	34,103	32,698	104,494		
	年度	前期	後期	全回答数	調査票		
	平成21年度	42,446	43,962	86,408	新調査票		
	平成22年度	48,541	48,175	96,716			
	平成23年度	53,166	49,870	103,036			
	平成24年度	47,317	46,666	93,983			
対象科目	513科目						
実施方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実施期間:各学期の各授業科目の最終日に実施した。 ・ 実施方法:記名式で科目担当教員が授業アンケートを配付、受講学生が回収し大学に提出した。 ・ 回答用紙はOMR形式とし、回収後即座に読み込み処理を行った。 						
調査主体	学校法人 金沢工業大学						
集計	有限会社 アイ・ポイント						

3) 以前との設問の比較

	旧アンケート内容(平成15～16年度)
A	この科目は興味を持って受講することができましたか。
B	1回の授業に対する予習・復習はどの程度行いましたか。
C	授業が分からない時、オフィスアワー(OH)は有効でしたか。
D	授業の分からない点はオフィスアワー(OH)を利用する以外に、どのような行動を取りましたか。
E	学習支援計画書の記載内容は理解できましたか。
F	教科書・指導書の内容は理解できましたか。
G	授業の進度は内容を理解するのに適切でしたか。
H	課題またはレポート等は授業内容の理解を深めるのに役立ちましたか。
I	自己点検授業はあなたの学習に効果的でしたか。
J	授業の理解を深めるために、最も多く利用した場所はどこですか。
K	あなたはこの科目に満足していますか。



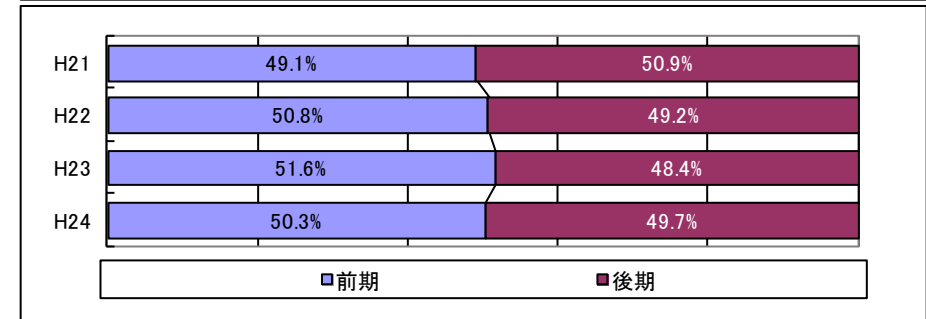
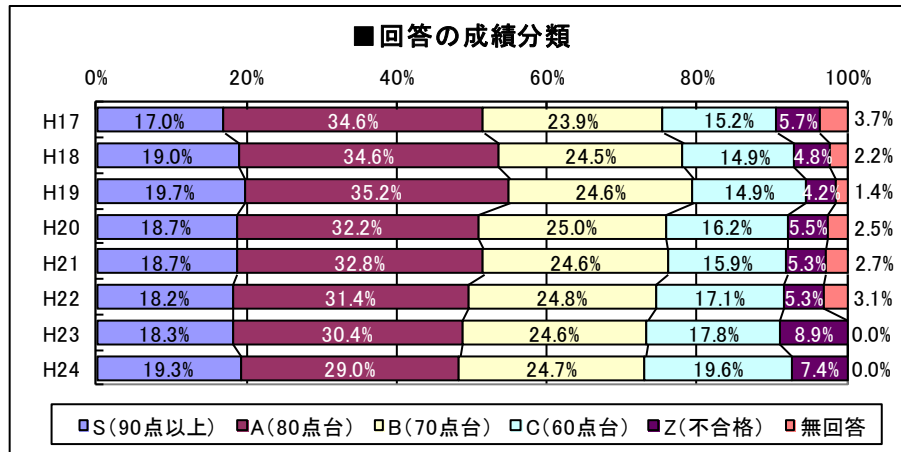
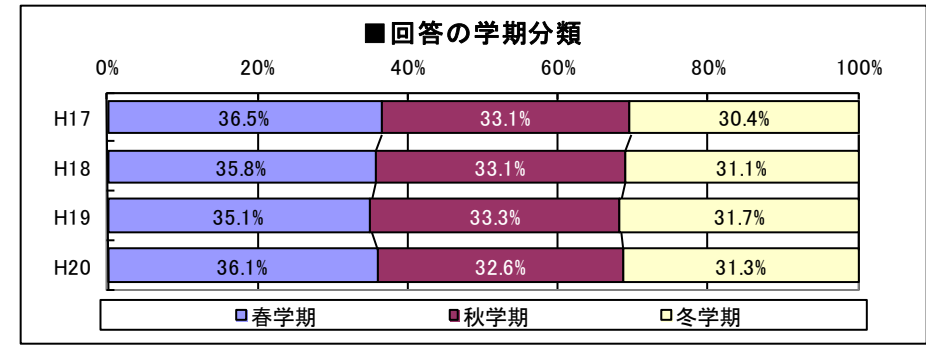
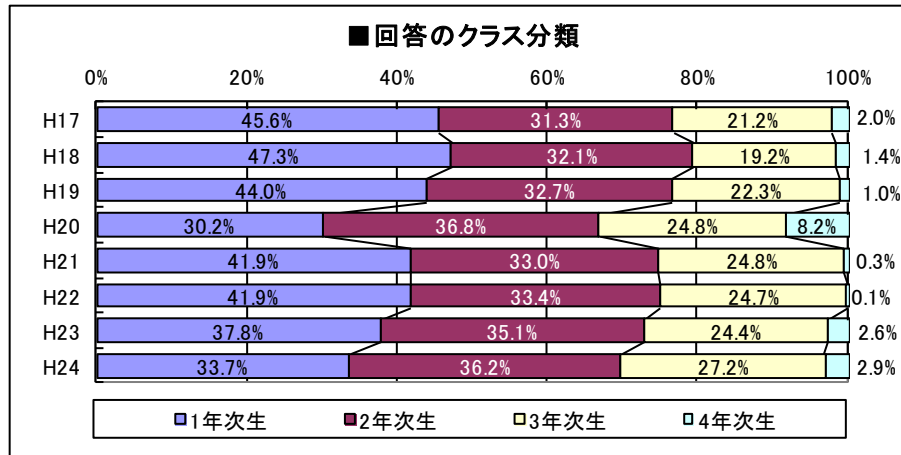
	新アンケート内容(平成17年度以降)	場面	内容
A	受講前、この科目に興味はありましたか。	受講前	学生の姿勢
B	最初の授業で学習支援計画書の説明を受けて、この授業の概要や進め方、身につく能力を理解できましたか。	受講当初	授業支援
C	授業を受ける際、熱意を持って受講し、理解するために努力しましたか。	受講中	学生の姿勢
D	1回の授業に対する予習・復習、課外学習活動はどの程度行いましたか。	受講中	学生の姿勢
E	教科書・指導書の内容は授業の理解のために適切でしたか。	受講中	授業支援
F	課題またはレポート等は授業内容の理解を深めるのに役立ちましたか。	受講中	授業支援
G	授業内容は学習支援計画書に沿っていましたか。	受講中	授業内容
H	授業の進度は内容を理解するのに適切でしたか。	受講中	授業内容
I	授業内容をよく理解するための、学習相談(オフィスアワー、チューターなど)は有効でしたか。	受講中	授業支援
J	授業や学習相談を通して、教員の熱意を感じることができましたか。	受講中	教員の姿勢
K	授業を終えて、あなたはこの科目に満足していますか。	受講後	総合満足度

下記のような観点で以前の調査との比較を行った。

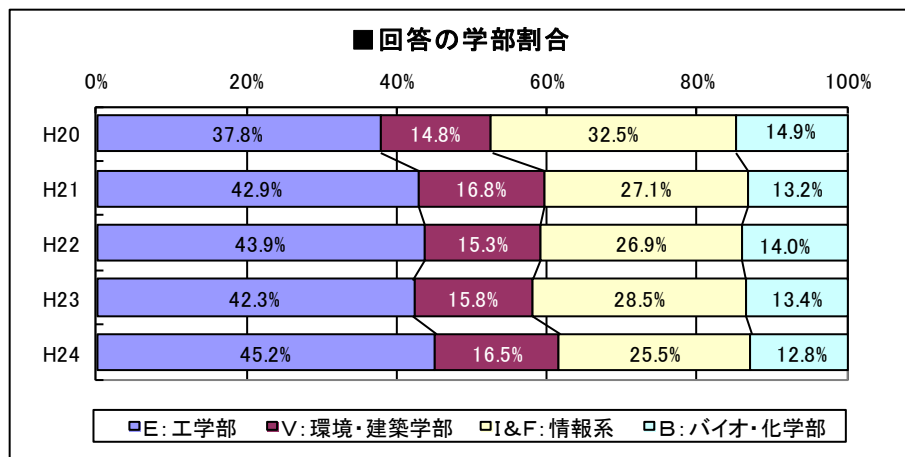
- 上記の通り平成17年度に質問の見直しを行っているため、一部の設問では以前との比較は行っていない。
- 新アンケートの「D」「F」「H」「K」の設問は平成15年度より同じ内容となっているため、全ての期間に渡って比較ができるが、他の設問はH17年の変更後のみの期間で比較を行っている。

<1-2> 回答者の基本属性

- 今回の回答者の基本属性は下記の通りであった。
- 回答者のクラス分類では「1年次生」が33.7%、「2年次生」が36.2%、「3年次生」が27.2%、「4年次生」は2.9%であり、前回と比べると「2年生」と「3年次生」がやや増加し、「1年生」が減少していた。
- 成績分類を見ると「S」が19.3%、「A」が29.0%、「B」が24.7%、「C」が19.6%、「Z」が7.4%であった。
- H21より学期が前期と後期の2期制となったが、今回は前期の回答が50.3%、後期が49.7%であり、ほぼ半々となっていた。



- 今回の「1年次生」より新たな学部体制となっているが、「F:情報フロンティア学部」は、これまでの「I:情報学部」と同じ系統であるため、全体の学部別集計では「I&F:情報系」として集計をおこなっている。ただし、学科体制と科目区分は異なっているため、「1年次生」と「2～4年次生」は別に集計している。
- 学部別の割合を見ると「E:工学部」が45.2%と最も多く、次いで「I&F:情報系」が25.5%、「V:環境・建築学部」が16.5%、「B:バイオ・化学部」が12.8%という割合であり、以前と比べて「E:工学部」の割合の高さが目立っていた。



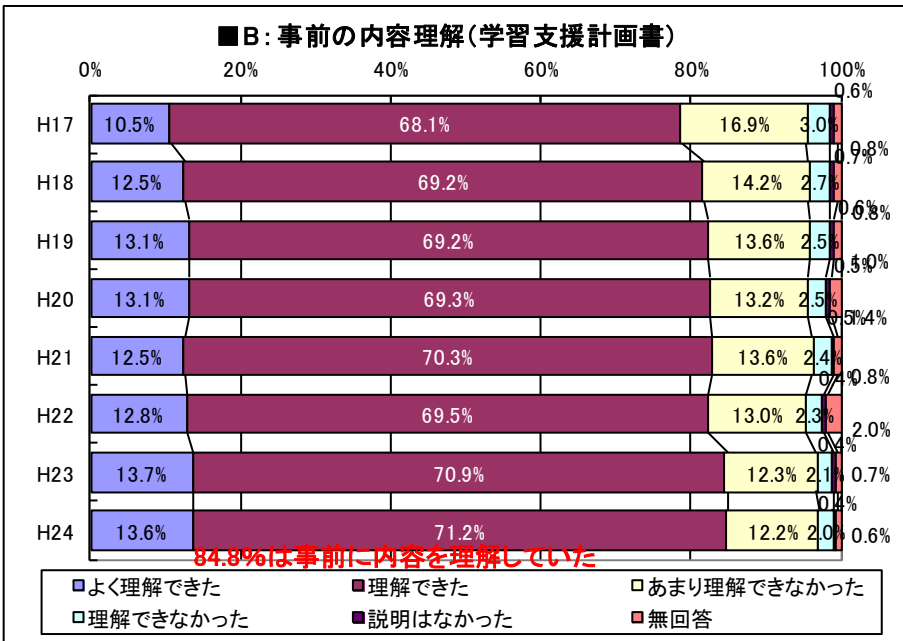
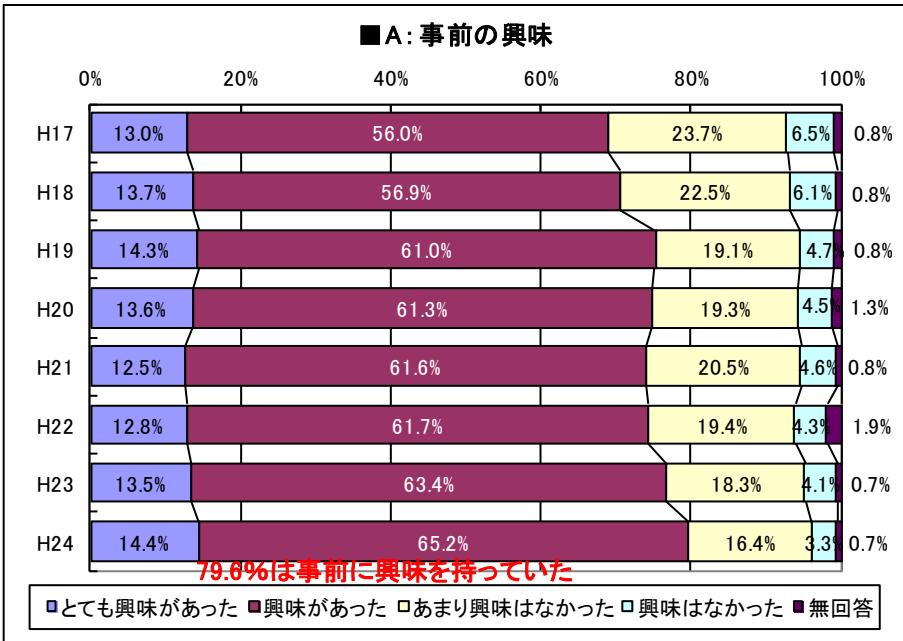
※上記はすべて4学部制の学部割合であり、H20年度は「1年次生のみ」、H21年度は「1年次生～2年次生」、H22年度は「1年次生～3年次生」、H23年度は「1年次生～4年次生」の割合となる。

※H24年度は「I:情報学部」と「F:情報フロンティア学部」を一緒にして「情報系」として扱っている。

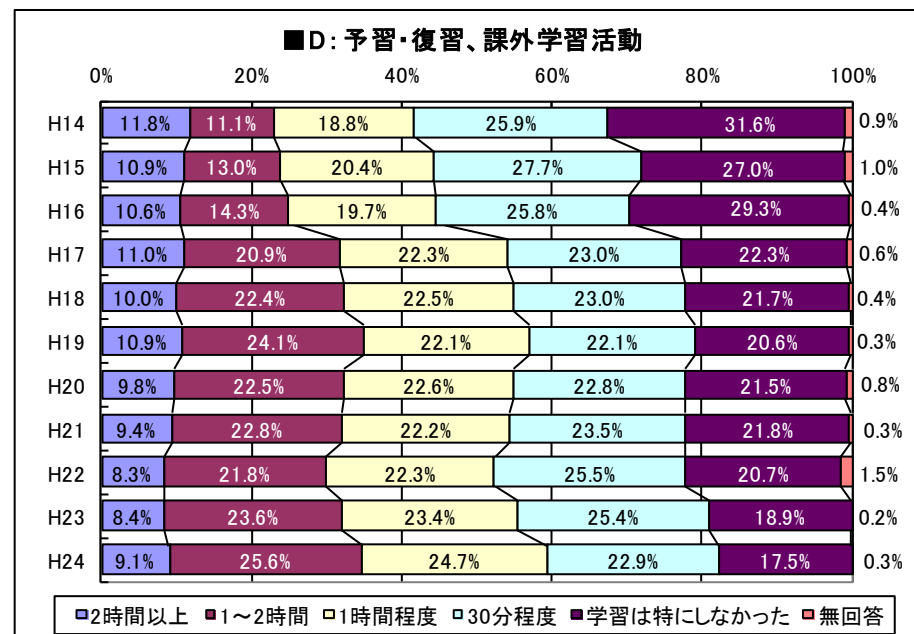
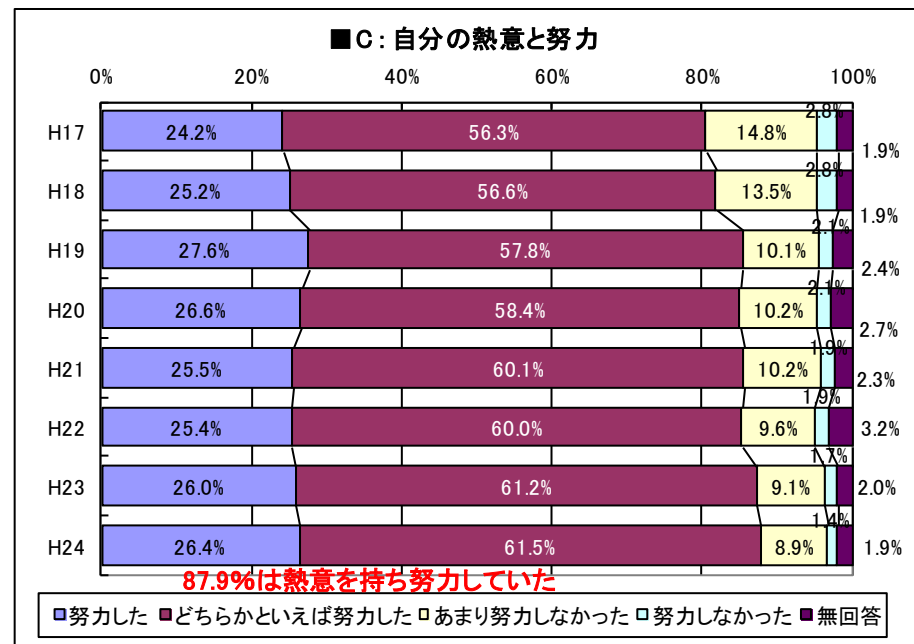
<2> 基本的な分析

<2-1>全項目の基本集計と経年変化

- 「A:事前の興味」では、「とても興味があった」が14.4%、「興味があった」が65.2%であり、合わせると79.6%の学生が事前に興味を持って授業を受けたと答えていた。
- 授業に対する興味はH22から今回にかけて急速に強くなってきており、今回はこれまでで最も高くなっていました。
- 「B:事前の内容理解(学習支援計画書)」では、「よく理解できた」が13.6%、「理解できた」が71.2%であり、合わせて84.8%が事前に授業内容を理解できたと答えていた。
- 「事前の内容理解」はH19からH22まではほとんど変化が見られず、H23にはやや高まったものの、今回は前回とほぼ同様となっていました。

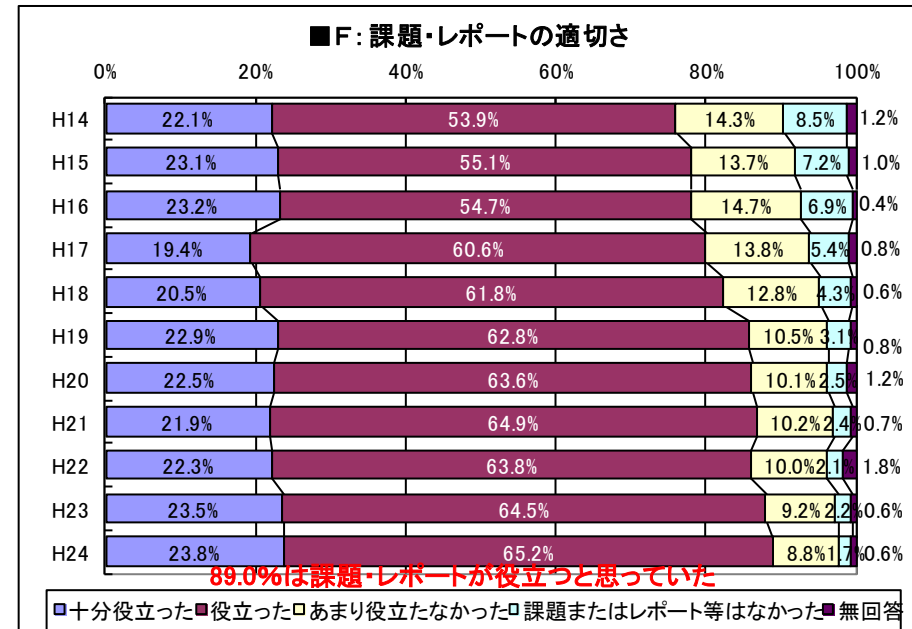
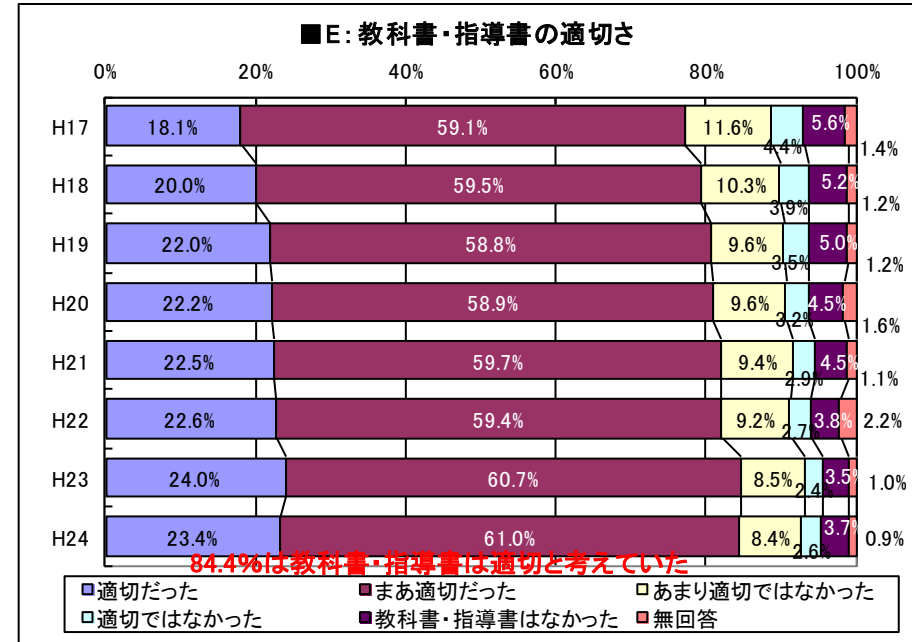


- 「C:自分の熱意と努力」は「授業を受ける際、熱意を持って受講し、理解するために努力しましたか?」という質問であったが、「努力した」が26.4%、「どちらかといえば努力した」が61.5%であり、合計すると87.9%が熱意を持って努力したと回答していた。
- 前項と同様にH19からH22までは大きな変化は見られなかったが、H23に肯定的な意見がやや増加し、今回は更に増加して、これまでで最も多くなっていた。
- 「D:予習・復習、課外学習活動」は「1回の授業に対する予習・復習、課外学習時間はどの程度行いましたか?」という質問であったが、最も多かったのは「1～2時間」の25.6%であり、次いで「1時間程度」が24.7%、「30分程度」が22.9%と続いていた。「学習は特にしなかった」は17.5%であった。
- 以前との比較では、「1～2時間」「1時間程度」がこれまでで最も多くなっていた。一方、「学習は特にしなかった」はH22から減少が続いており、今回はこれまでで最も少なくなっており、学生の学習時間は増加してきていることが分かった。



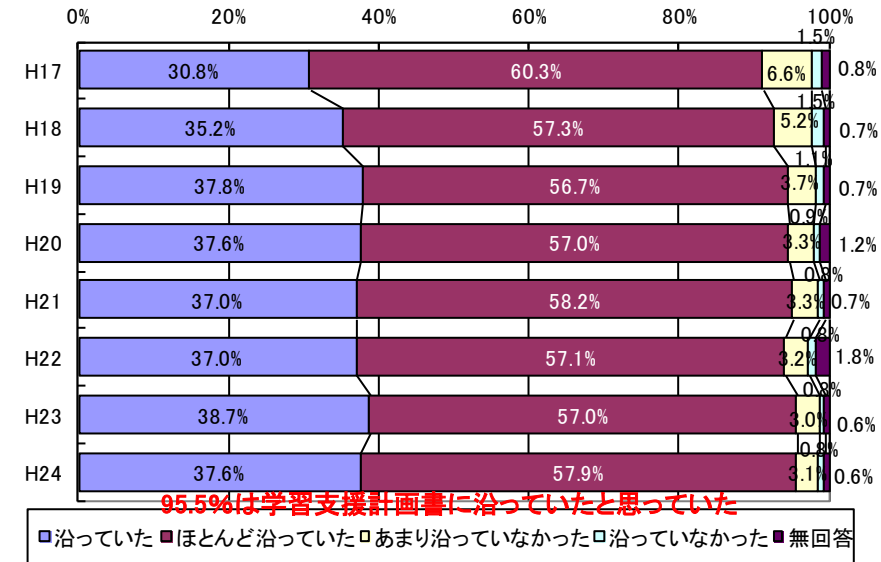
※H16までの設問:「1回の授業に対する予習・復習はどの程度行いましたか」

- 「E:教科書・指導書の適切さ」は「教科書・指導書の内容は授業の理解のために適切でしたか?」という質問であるが、「適切だった」が23.4%、「まあ適切だった」が61.0%であり、合わせて84.4%が肯定的な回答であった。
- 肯定的な意見はわずかずつではあるもののH17より継続的に増加しており、前回にはこれまでで最高となった。今回は前回よりわずかに下がったが、大きな変化ではなかった。
- 「F:課題・レポートの適切さ」は「課題またはレポート等は授業内容の理解を深めるために役立ちましたか?」という質問であるが、「十分役立った」が23.8%、「役立った」が65.2%であり、合わせて89.0%が肯定的な意見であった。
- この問いに関しては、わずかに例外はあるものの調査開始から継続的に肯定的な意見が増加しており、今回もH23を1ポイント上回り、これまでで最も高くなっていた。調査開始のH14には76.0%で、比べると13ポイント増加しており、かなり改善が進んでいるものと思われる。

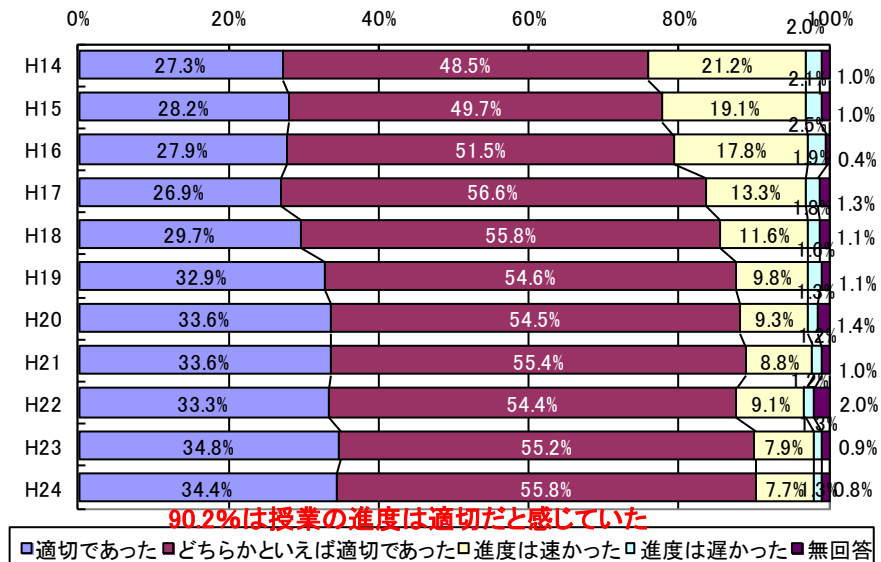


- 「G:学習支援計画書との一致」は「授業内容は学習支援計画書に沿っていましたか?」という質問であるが、「沿っていた」が37.6%、「ほとんど沿っていた」が57.9%であり、合わせると95.5%が学習支援計画書に問題はないと感じているようであった。
- この質問に対しては調査開始当初より肯定的な意見が9割以上を占め、変動は非常に少なかったが、今回も前回とほぼ横並びで大きな変化は見られなかった。ただし、「沿っていた」だけを見ると前回より1.1ポイント低下していた。
- 「H:授業の進度の適切さ」は「授業の進度は内容を理解するのに適切でしたか?」という質問であるが、「適切であった」が34.4%、「どちらかといえば適切であった」が55.8%であり、合わせると90.2%が授業の進度は適切だったと答えていた。
- この質問に関しても、例外はあるもののH14から継続的に肯定的な意見が増加してきていたが、前回から今回にかけてはほとんど変化が見られなかった。

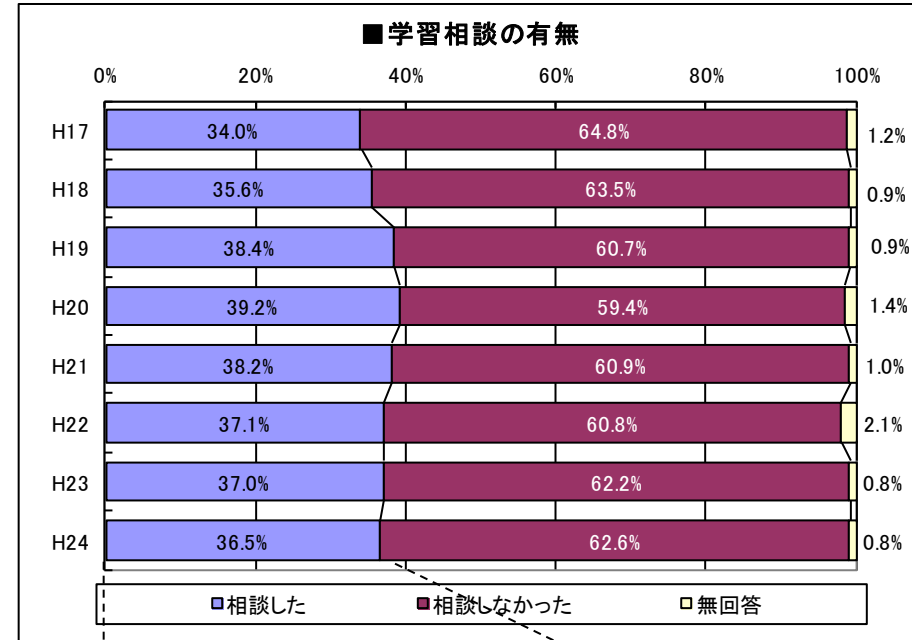
■ G: 学習支援計画書との一致



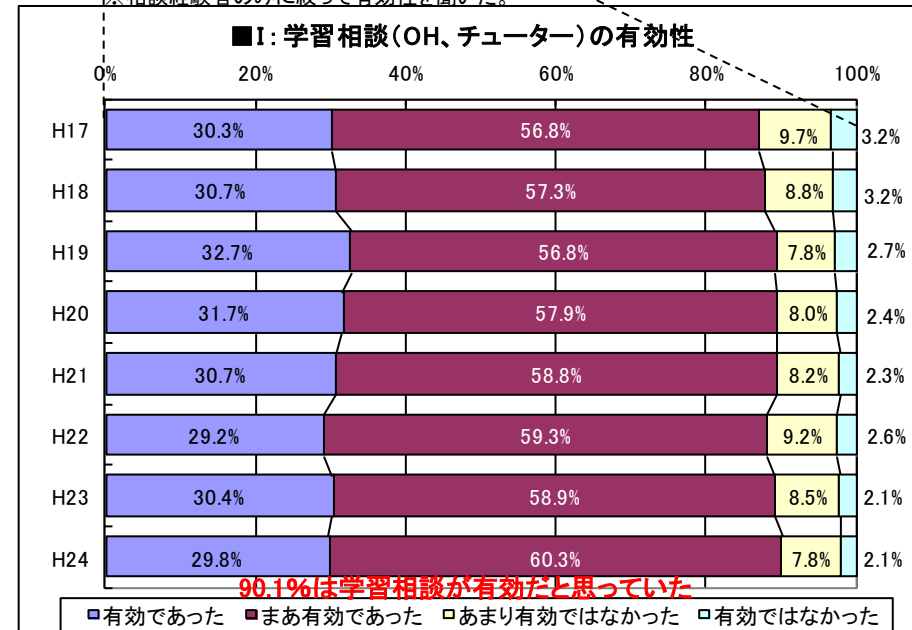
■ H: 授業の進度の適切さ



- 「I:学習相談(OH、チューター)の有効性」は「授業内容をよく理解するための、学習相談(オフィスアワー、チューターなど)は有効でしたか?」という質問であったが、まず「学習相談の有無」だけを確認すると、「相談した」が36.5%、「相談しなかった」が62.6%となっていた。
- 以前と比較すると、「相談した」の割合はH20からわずかずつつではあるがH20から継続的に減少する傾向が続いており、今回も前回を0.5ポイント下回っていた。
- 学習相談の経験がある学生に対して、「学習相談の有効性」の評価を見たところ、「有効であった」が29.8%、「まあ有効であった」が60.3%であり、合わせると90.1%が学習相談が有効だと感じていた。
- 学習相談が有効であったという回答は前回までほぼ横這いが続いていたが、今回は前回を0.8ポイント上回っており、わずかな差ではあるがこれまでで最も高くなっていた。



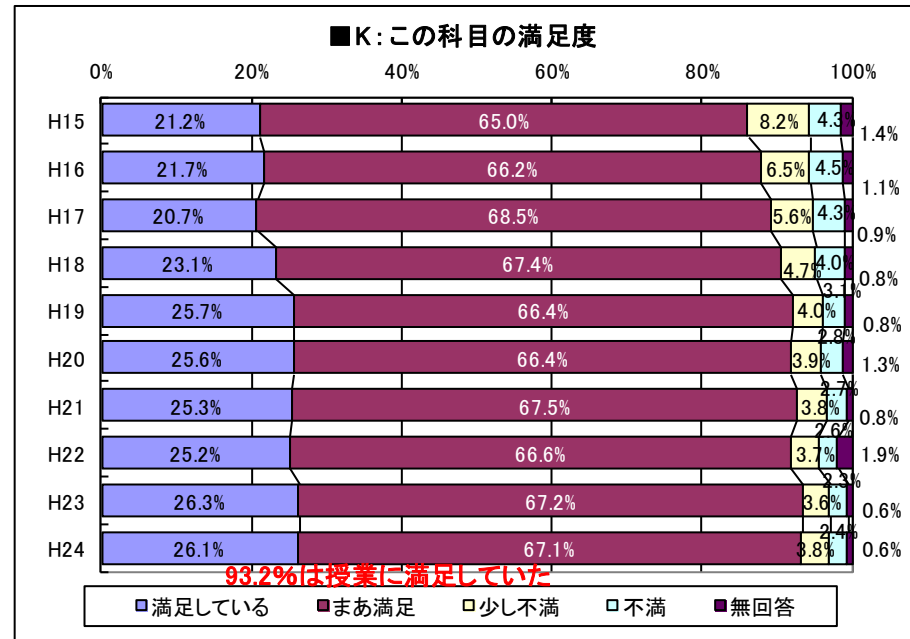
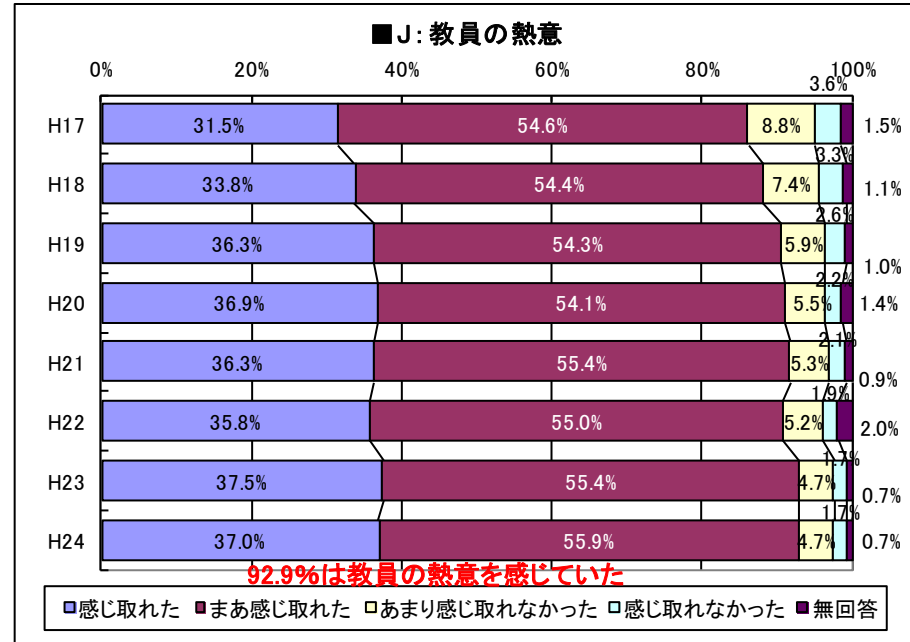
※相談経験者のみに絞って有効性を聞いた。



- 「J:教員の熱意」は「授業や学習相談を通して、教員の熱意を感じることができましたか?」という質問であるが、「感じ取れた」が37.0%、「まあ感じ取れた」が55.9%であり、合わせて92.9%が肯定的な意見であった。
- 肯定的な意見はH22に少し減少したものの、H23にはわずかに増加し、今回は前回と同じで横這いとなっていた。ただし、「感じ取れた」だけを見ると0.5ポイント減少していた。
- 「K:この科目の満足度」に関しては「満足している」が26.1%、「まあ満足」が67.1%であり、合わせると93.2%が肯定的な意見であった。
- 以前との比較すると、H20とH22にわずかに低下したことを除けば継続的に満足度が上がる傾向にあったが、今回は前回は0.3ポイント下回る結果となっていた。

■満足している層の経年変化

年度	満足の割合	前年度との差
H15	86.2%	—
H16	87.9%	+1.7
H17	89.1%	+1.3
H18	90.5%	+1.4
H19	92.1%	+1.5
H20	92.0%	-0.1
H21	92.8%	+0.8
H22	91.8%	-1.0
H23	93.5%	+1.7
H23	93.2%	-0.3

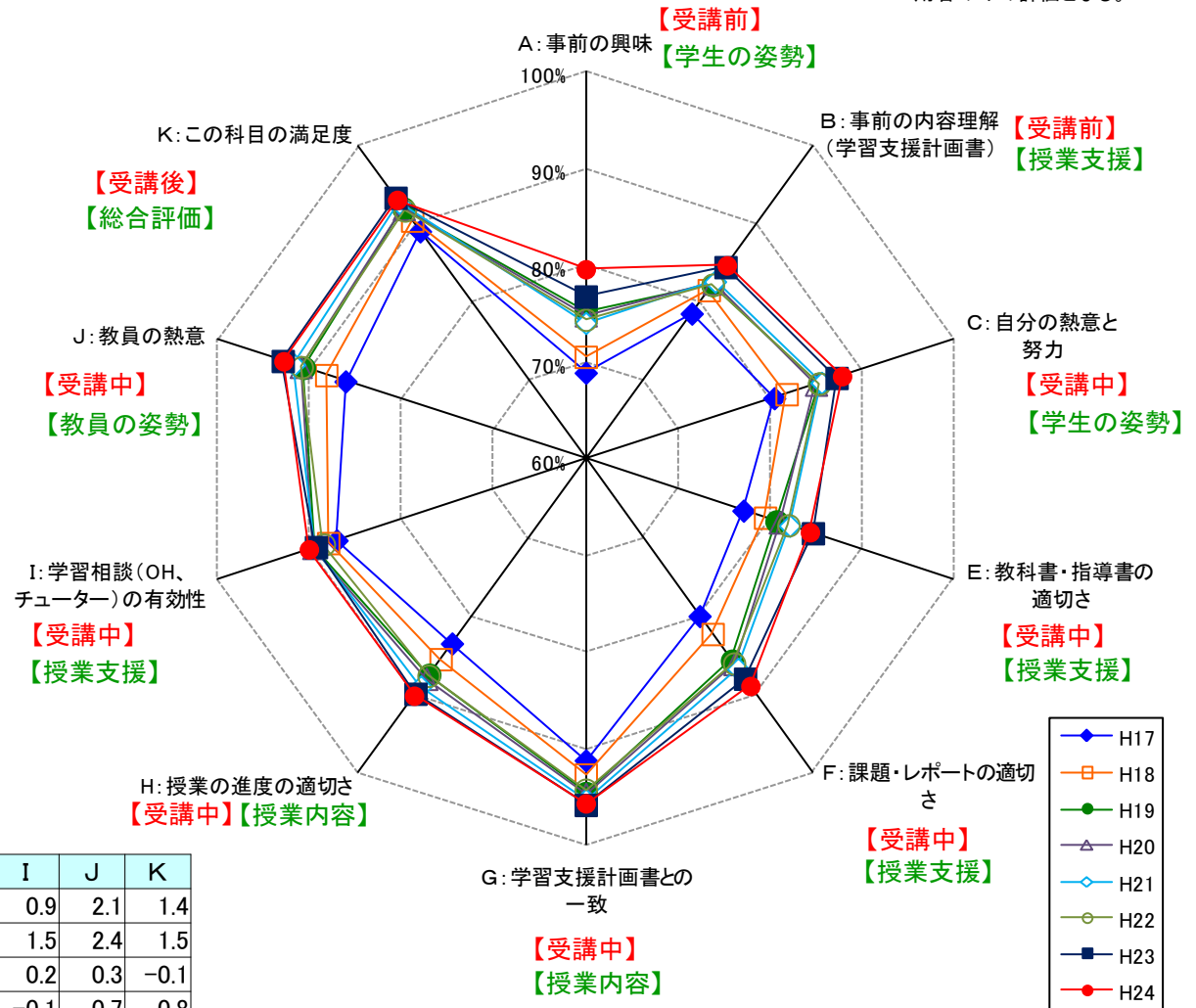


<2-2> 肯定的な意見の経年変化比較

- 肯定的な意見の合計をレーダーチャートにまとめたところ、右のようになった。
- 「D: 予習・復習、課外学習活動」は加えておらず、「I: 学習相談(OH、チューター)の有効性」は利用経験者の評価だけをプロットしている。
- 質問によって評価の見方は異なるが、肯定的な評価の割合だけを見ると、「G: 学習支援計画書との一致」「J: 教員の熱意」「K: この科目の満足度」が高く、「A: 事前の興味」の低さが目立っていた。
- 以前との比較では、今回は全体的に非常に高いレベルにあり、「E: 教科書・指導書の適切さ」「G: 学習支援計画書との一致」「J: 教員の熱意」「K: この科目の満足度」の4項目がわずかに前回を下回っていた。
- 「A: 事前の興味」は前回を2.8ポイント上回り、これまでで最も高くなっていた。

■ 比較可能な項目の経年変化比較レーダーチャート

※「I: 学習相談の有効性」は「相談しなかった」を除いた上で「有効であった」「まあ有効であった」の割合を集計した。利用者のみの評価となる。

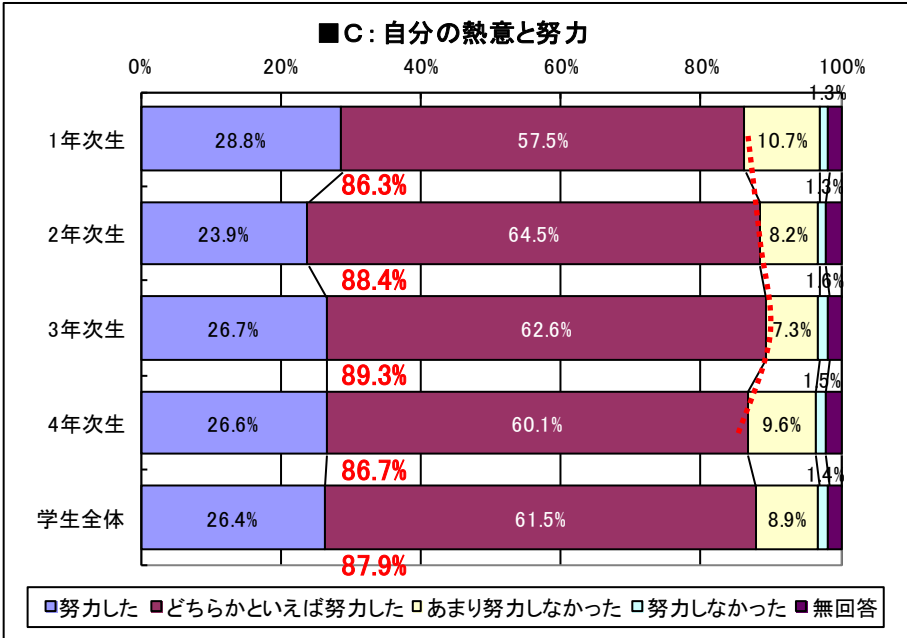
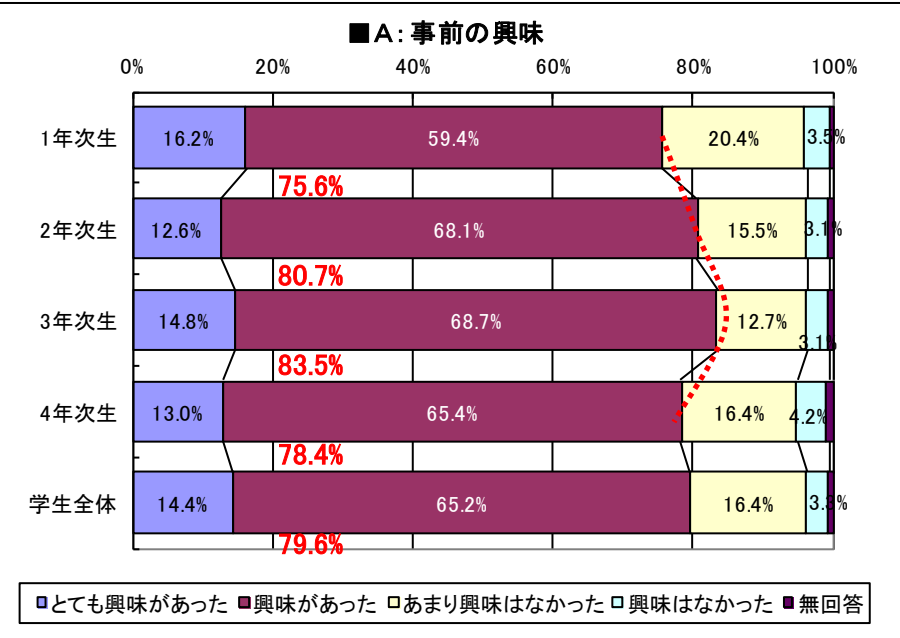
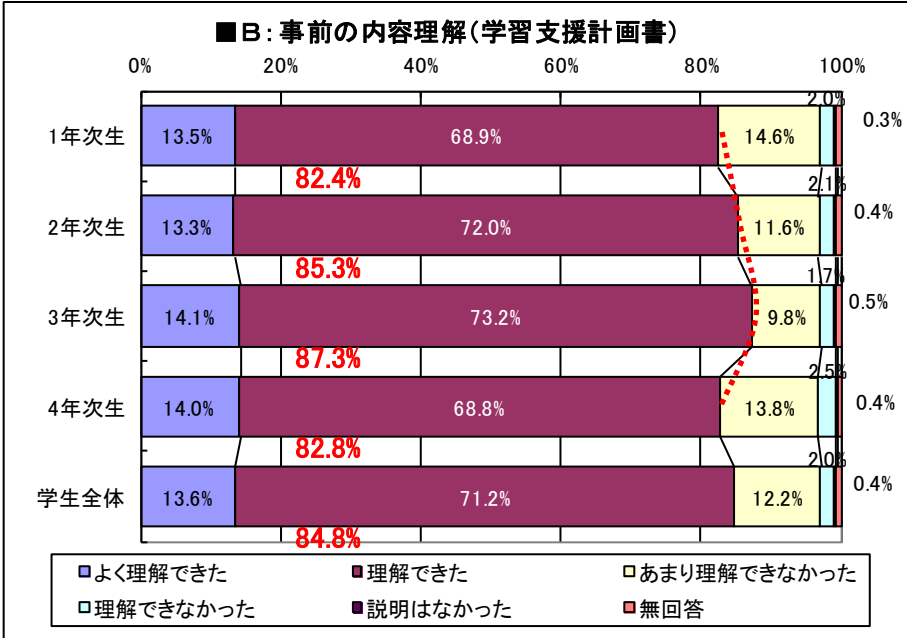


■ 肯定的な意見の差(単位:ポイント)

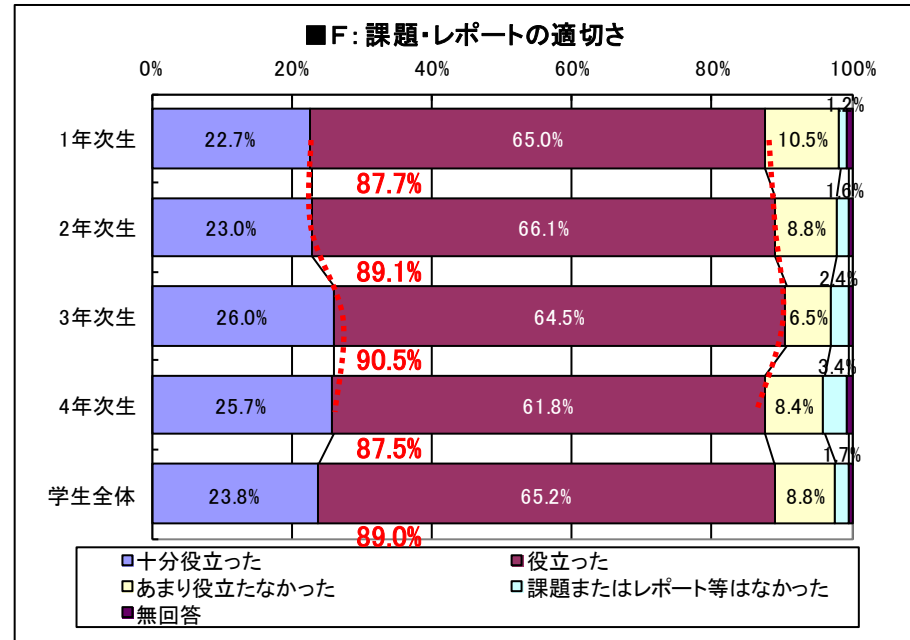
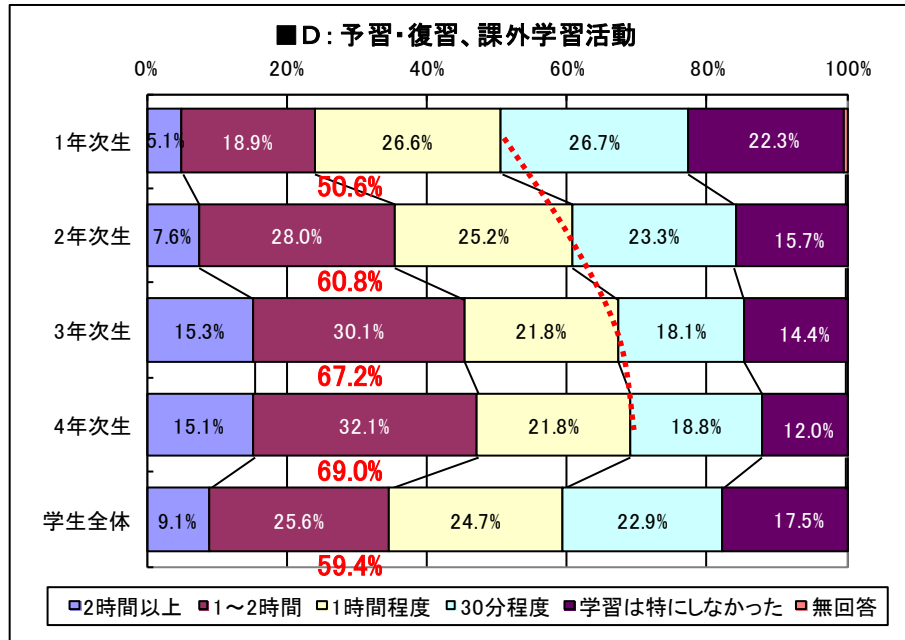
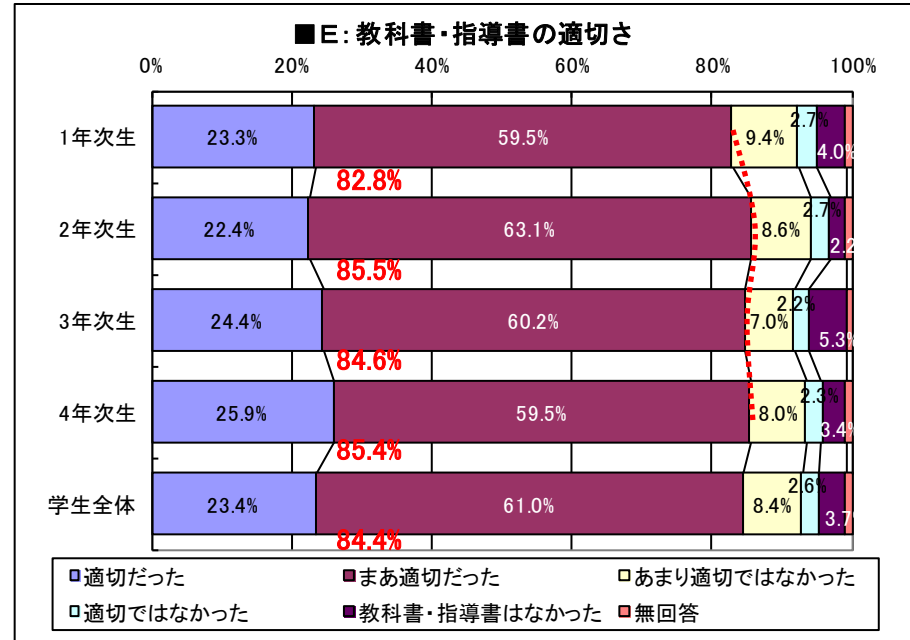
	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
H17からH18の上昇	1.6	3.0	1.3	2.4	2.3	1.5	2.0	0.9	2.1	1.4
H18からH19の上昇	4.7	0.7	3.6	1.2	3.4	1.9	2.0	1.5	2.4	1.5
H19からH20の上昇	-0.4	0.2	-0.4	0.3	0.4	0.1	0.5	0.2	0.3	-0.1
H20からH21の上昇	-0.8	0.2	0.6	1.1	0.6	0.6	1.0	-0.1	0.7	0.8
H21からH22の上昇	0.3	-0.4	-0.3	-0.1	-0.7	-1.0	-1.4	-1.1	-0.8	-1.0
H22からH23の上昇	2.4	2.2	1.9	2.7	1.9	1.6	2.3	0.9	2.1	1.7
H23からH24の上昇	2.8	0.2	0.6	-0.3	0.9	-0.2	0.3	0.8	-0.1	-0.3

<3> 学年別の分析

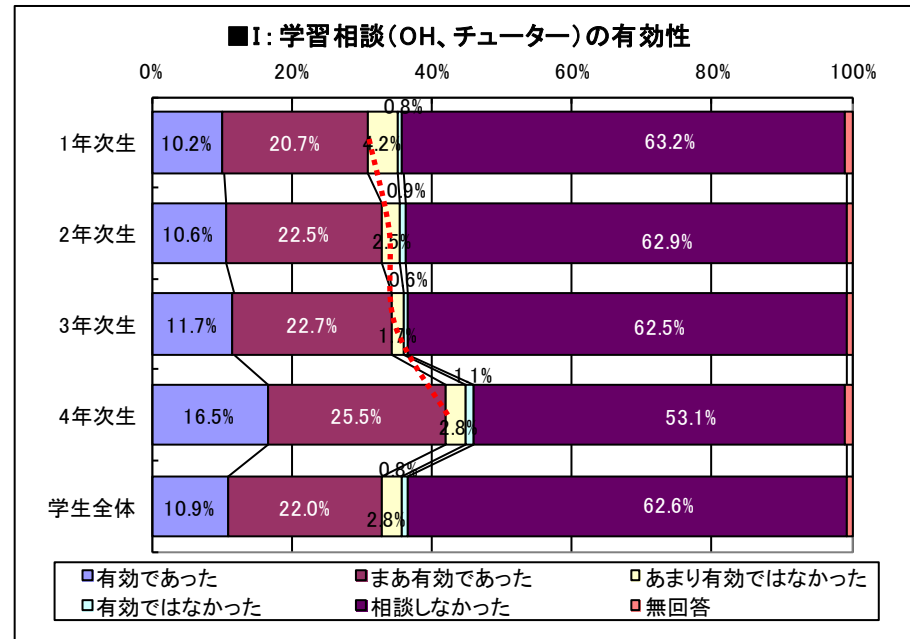
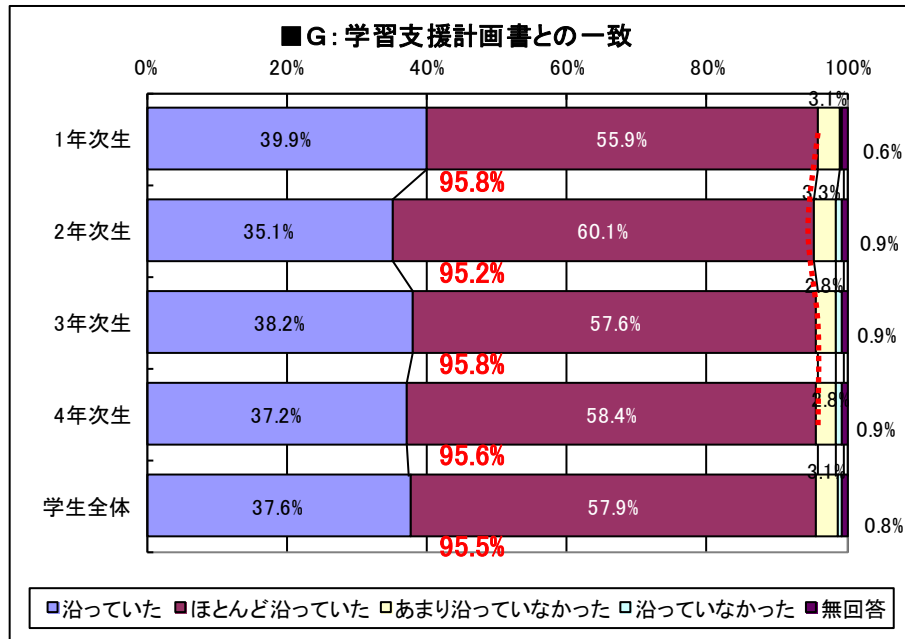
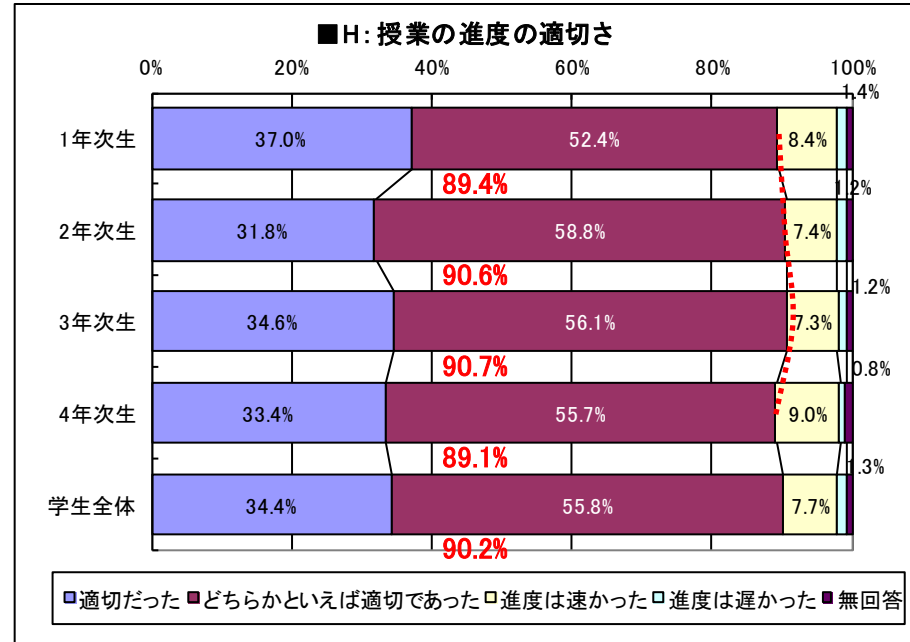
- 「A: 事前の興味」を学年別に比較すると、「3年次生」の83.5%が興味を持っていたと答えており、最も高かった。次いで「2年次生」が80.7%、「4年次生」が78.4%、「1年次生」では75.6%であり、「1年次生」の興味の低さが気になる点と言える。
- 「B: 事前の内容理解」も「3年次生」で肯定的な意見が87.3%と最も高く、次いで「2年次生」が85.3%と続いていた。最も低かったのは「1年次生」の82.4%であったが、「4年次生」も82.8%と差がなかった。「1年次生」が学習支援計画書に慣れていない点は理解できるが、「4年次生」が低い点は気になる点である。
- 「C: 自分の熱意と努力」は学年による差が非常に少なかったものの、やはり「3年次生」が89.3%と最も努力しており、次いで、「2年次生」が88.4%、「4年次生」が86.7%、「1年次生」が86.2%と続いている、ここでも「1年次生」の積極性が最も低かった。



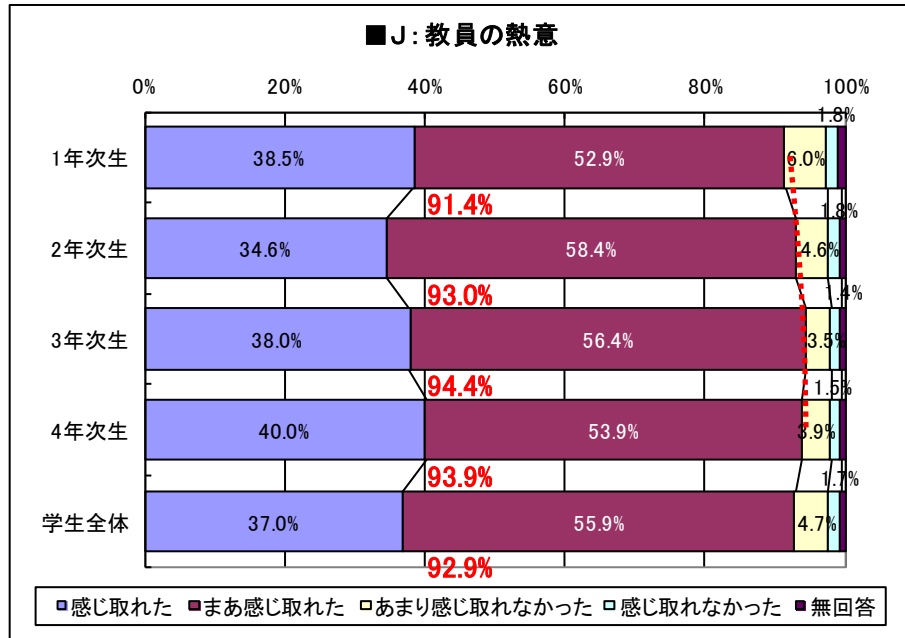
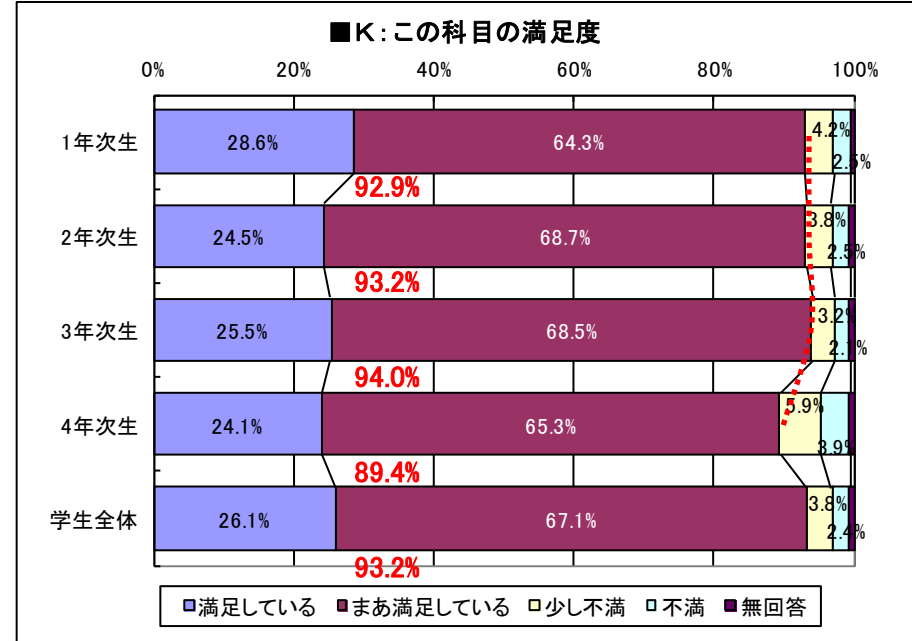
- 「D:予習・復習、課外学習活動」を「1時間程度」までの合計で比較すると、高学年ほど勉強している傾向が見られ、最も多い「4年次生」では69.0%、最も少ない「1年次生」では50.6%となっていた。「学習は特にしなかった」という回答を見ても同じ傾向であり、「4年次生」の12.0%に対して「1年次生」は22.3%であり、10.3ポイントの差がついていた。
- 「E:教科書・指導書の適切さ」に関しては学年による差がほとんどなく、肯定的な意見は「2年次生」(85.5%)と「4年次生」(85.4%)でほぼ同じであり、「1年次生」が82.8%とやや少なかった。
- 「F:課題・レポートの適切さ」も「十分役立った」と「役立った」の合計で比較すると学年による差は小さく、最も多い「3年次生」(90.5%)と最も少ない「4年次生」(87.5%)との差は3.0ポイントであった。ただし、「十分役立った」という回答だけで比較すると「3年次生」(26.0%)と「4年次生」(25.7%)が高く、「1年次生」(22.7%)と「2年次生」(23.0%)が低くなっており、高学年の評価の高さがうかがえた。



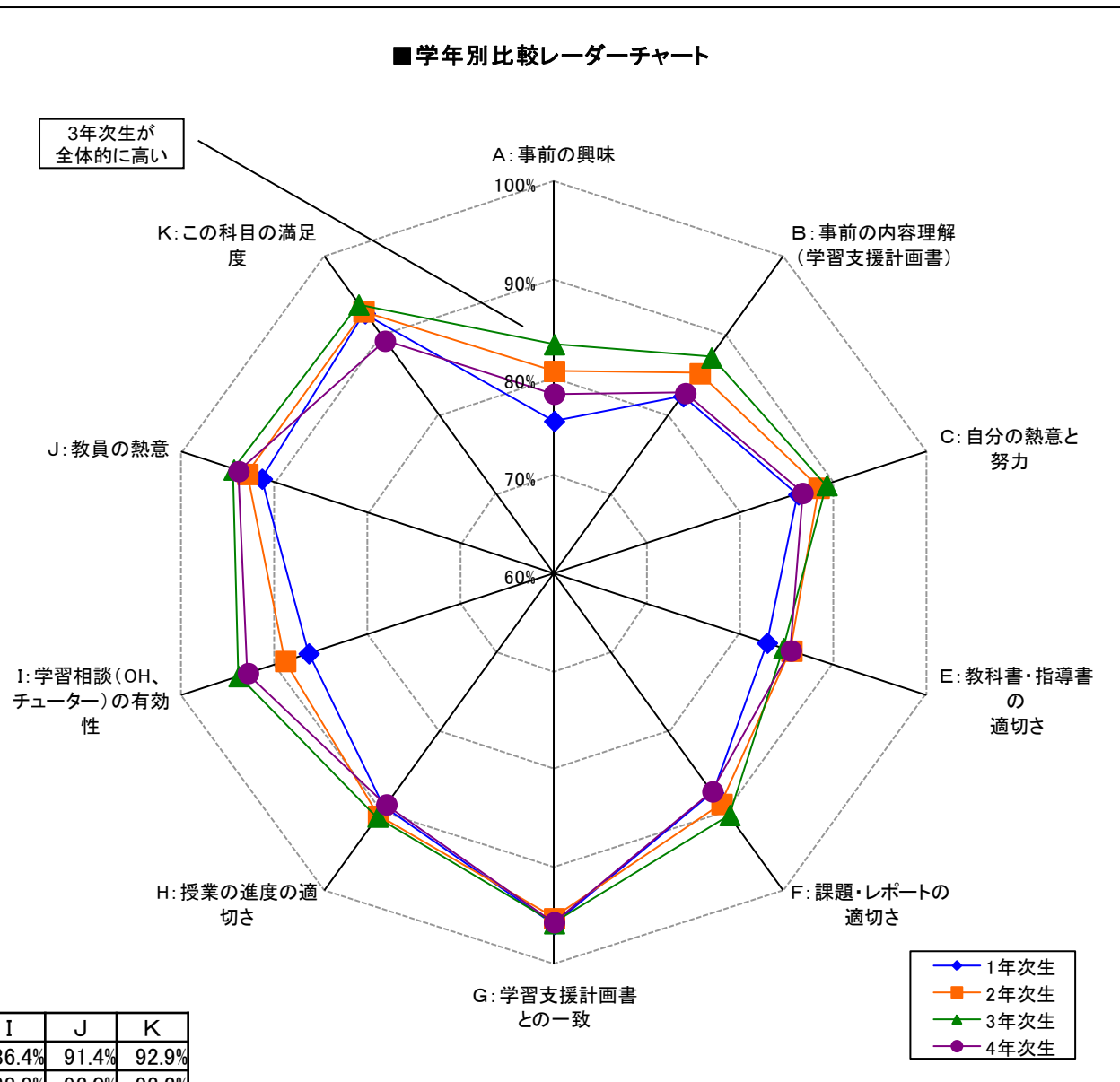
- 「G:学習支援計画書との一致」で学年別に肯定的な意見の合計を比較すると、いずれの学年も95.0%以上が肯定的な意見であり、差はほとんど見られなかった。「沿っていた」という回答だけで比較すると「1年次生」が39.9%とやや高く、最も低い「2年次生」(35.1%)とでは4.8ポイントの差となっていた。
- 「H:授業の進度の適切さ」も学年による差は非常に小さく、「適切だった」と「どちらかといえば適切であった」の合計ではほとんど差が見られなかった。「適切だった」だけの比較では「2年次生」が31.8%と最も低く、「1年次生」が37.0%で最も高かった。
- 「I:学習相談(OH、チューター)の有効性」で「相談しなかった」という回答を学年別に比べると、「4年次生」が53.1%と非常に少なく、他の学年は63%前後で近い割合であった。また、「有効であった」と「まあ有効であった」の合計でも「4年次生」は42.0%と非常に高い評価をしており、他の学年との差が見られた。



- 「J:教員の熱意」も「感じ取れた」と「まあ感じ取れた」の合計で比較すると、いずれも9割以上が肯定的な意見であったが、「1年次生」は91.4%とやや低めとなっていた。「感じ取れた」という回答だけで比較すると「4年次生」が40.0%と最も高く、最も低い「2年次生」の34.6%とはやや差がついていた。
- 「K:この科目の満足度」で「満足している」と「まあ満足している」の合計で比較すると、「4年次生」が89.4%とやや低めであったが、他の学年は93%前後と全体的に満足度は高かった。
- 「満足している」という回答だけでは「1年次生」が28.6%とやや高めであり、他の学年の25%前後とは差が見られた。



- 学年別に肯定的な意見の割合をレーダーチャートにプロットして比較を行った。
- 全体的に「3年次生」で肯定的な意見が多く、特に「A:事前の興味」「B:事前の内容理解」の高さが目立っており、授業開始前の興味や理解が全体の高さにつながっているのではないかと考えられた。
- 「3年次生」に次いで「2年次生」がやや高めであり、「E:教科書・指導書の適切さ」が高く、「A:事前の興味」「B:事前の内容理解」「C:自分の熱意と努力」「K:この科目の満足度」なども「3年次生」に次ぐ高さであった。
- 「4年次生」は全体的に中庸な評価となっていたが、「K:この科目の満足度」の低さが目立っていた。
- 「1年次生」は全体的に低く、特に「A:事前の興味」「E:教科書・指導書の適切さ」「I:学習相談」の低さが目立っていたが、「K:この科目の満足度」はそれほど低くなかった。

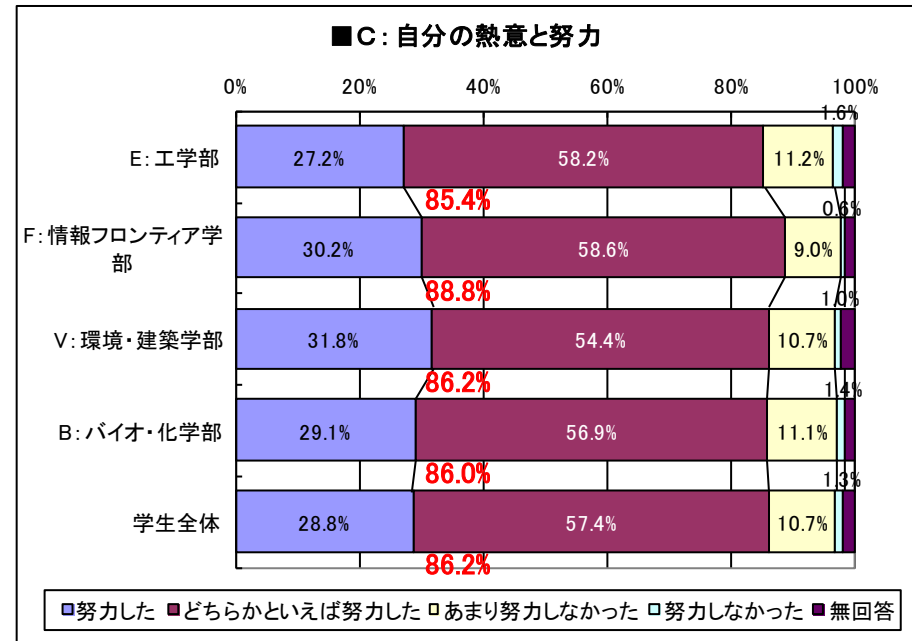
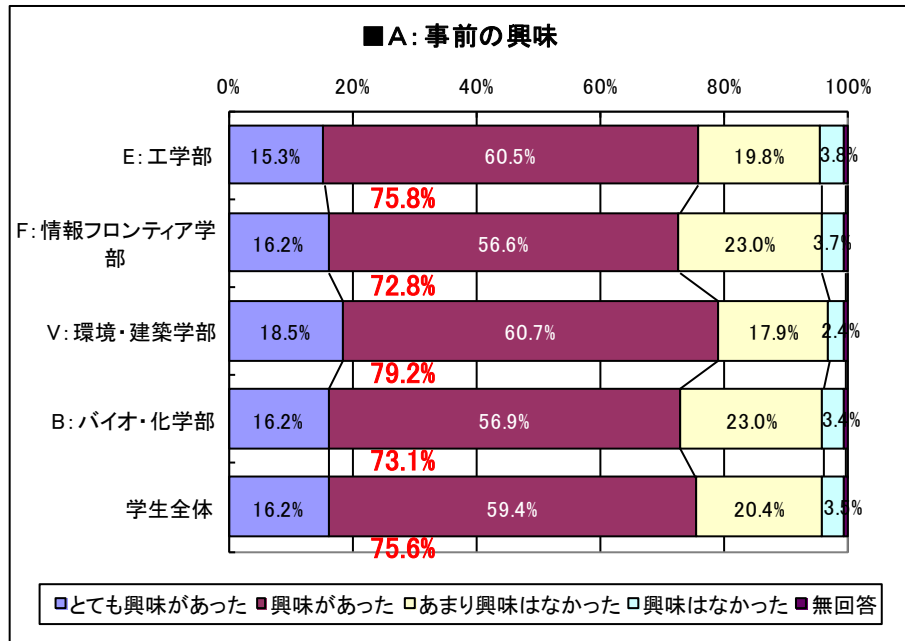
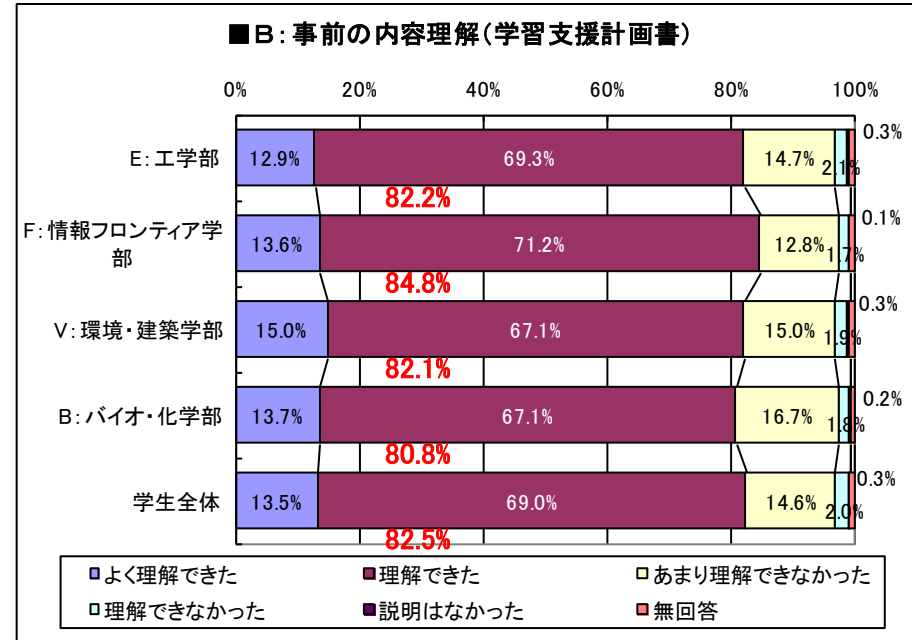


■ 学年別比較

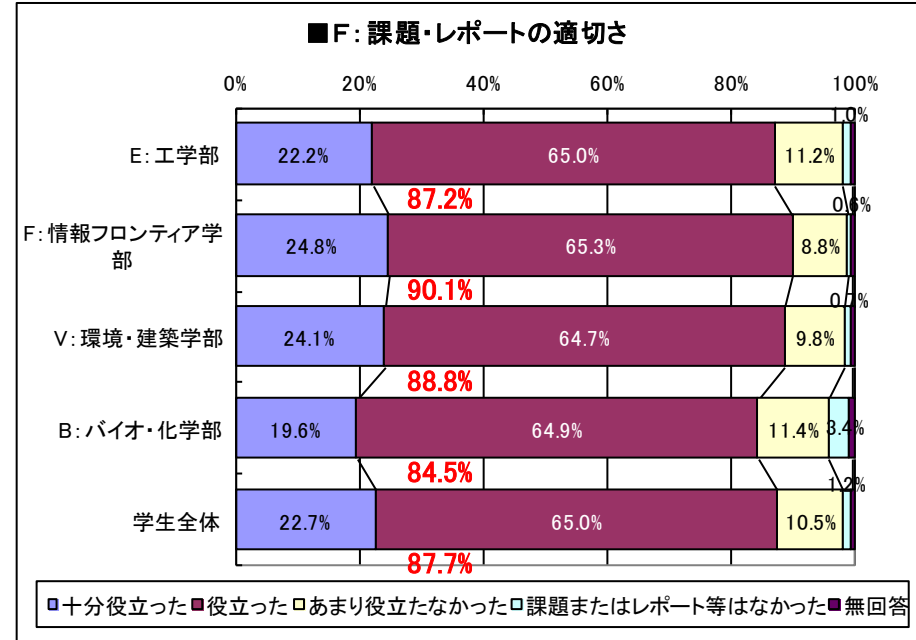
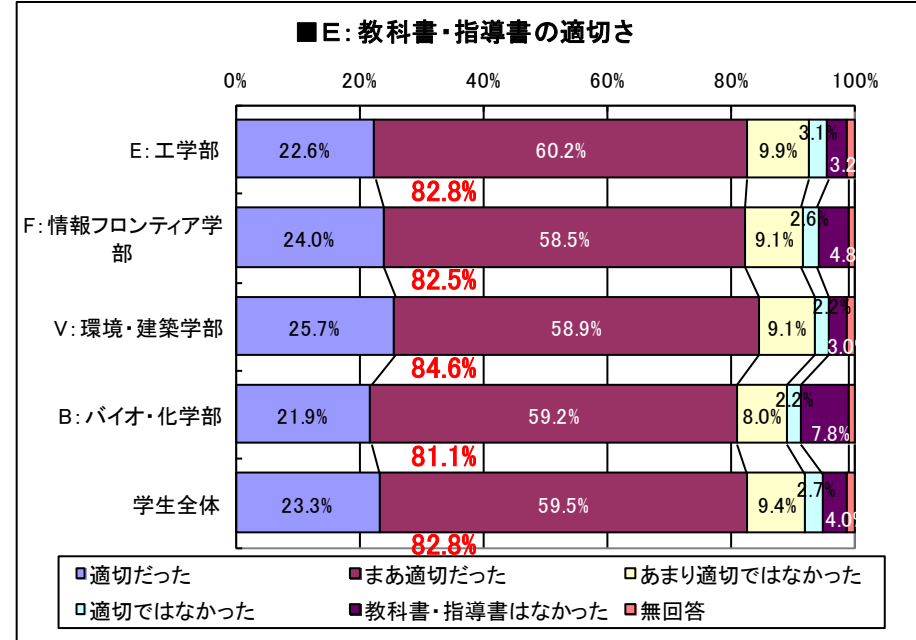
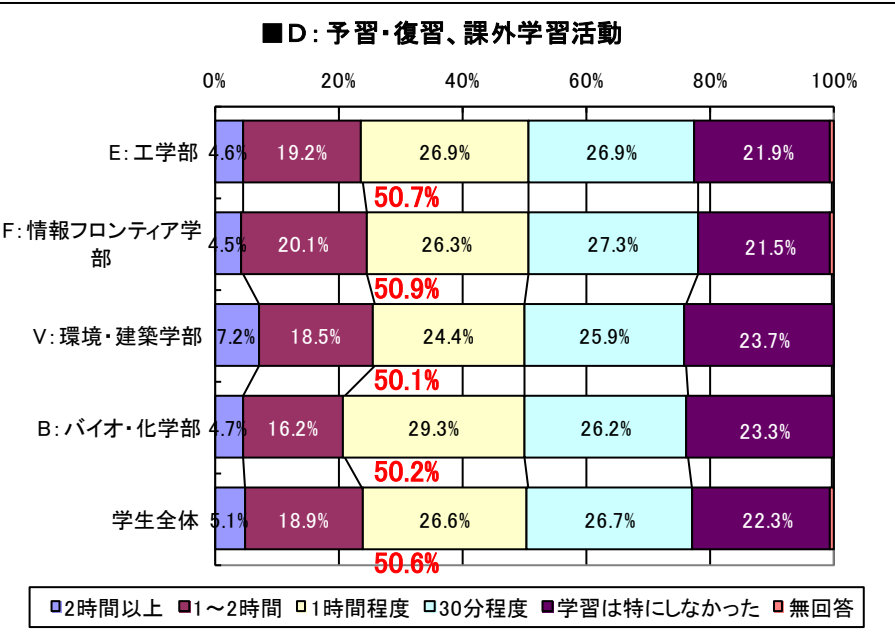
	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
1年次生	75.6%	82.4%	86.3%	82.8%	87.7%	95.8%	89.4%	86.4%	91.4%	92.9%
2年次生	80.7%	85.3%	88.4%	85.5%	89.1%	95.2%	90.6%	88.9%	93.0%	93.2%
3年次生	83.5%	87.3%	89.3%	84.6%	90.5%	95.8%	90.7%	93.9%	94.4%	94.0%
4年次生	78.4%	82.8%	86.7%	85.4%	87.5%	95.6%	89.1%	92.9%	93.9%	89.4%

<4> 学部・学科別の分析

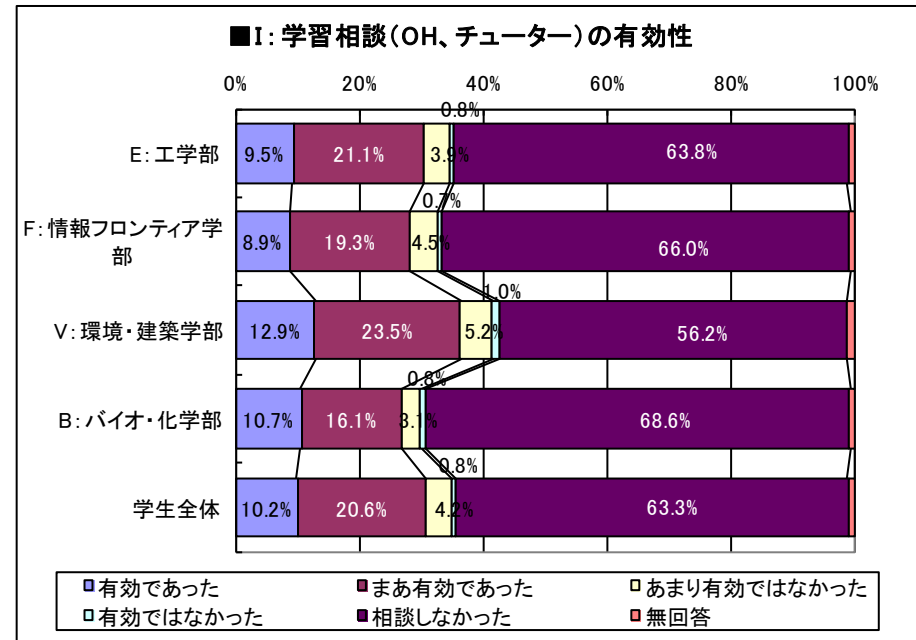
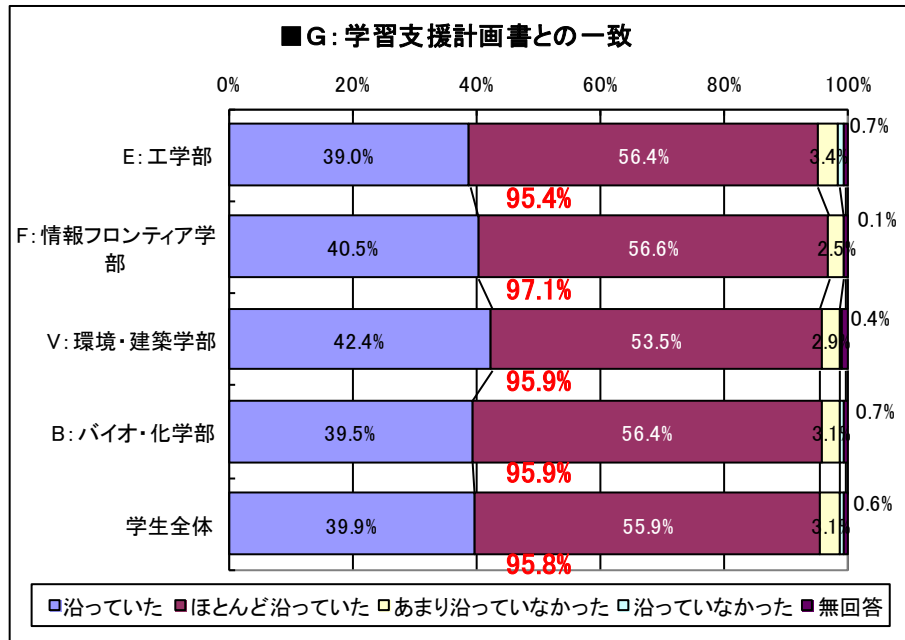
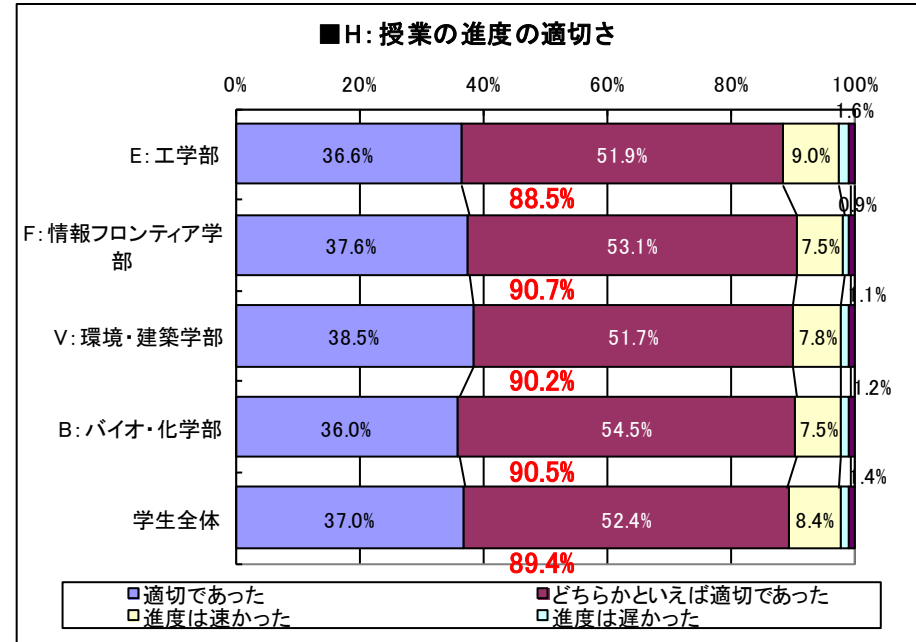
- 今回より、「1年次生」だけ学部構成が異なるため、別集計とした。また、留年生は集計から除外している。
- 「A:事前の興味」を「とても興味があった」と「興味があった」の合計で比較すると、「V:環境・建築学部」が79.2%で最も高く、次いで「E:工学部」が75.8%、「B:バイオ・化学部」が73.1%と続き、「F:情報フロンティア学部」が72.8%で最も低かった。
- 「B:事前の内容理解」の肯定的な意見の比較では、「F:情報フロンティア学部」が84.8%と最も高く、「E:工学部」が82.2%、「V:環境・建築学部」が82.1%であり、「B:バイオ・化学部」は80.8%と最も低かった。
- 「C:自分の熱意と努力」の肯定的な意見は「F:情報フロンティア学部」が88.8%とやや高かったが、他の学部間では差が小さく、「V:環境・建築学部」が86.2%、「B:バイオ・化学部」が86.0%、「E:工学部」が85.4%という結果であった。ただし、「努力した」という回答だけで比較すると、「E:工学部」の27.2%が目立って低かった。



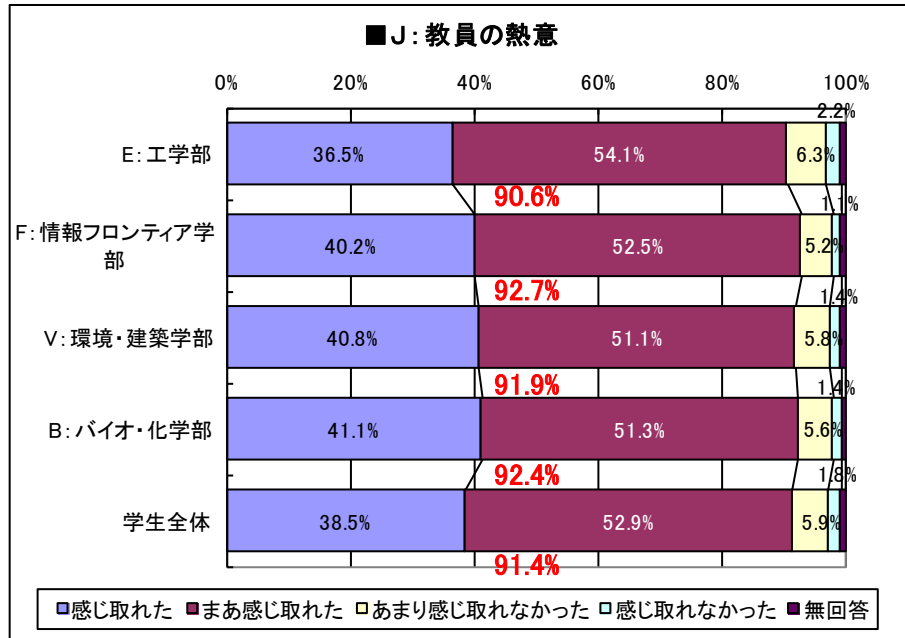
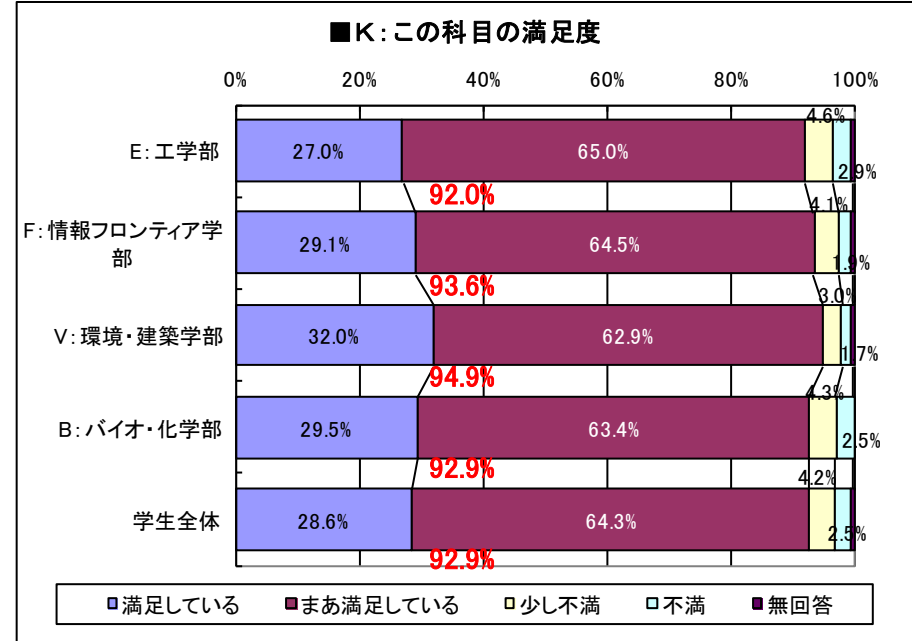
- 「D:予習・復習、課外学習活動」については「1時間程度」までの合計で比較したところ、4学部共に50%程度でほとんど差が見られなかったが、「1～2時間」までの合計を見ると、「V:環境・建築学部」の学習時間がやや長く、「B:バイオ・化学部」が短い傾向が見られた。
- 「E:教科書・指導書の適切さ」の肯定的な意見では学部による差はあまり大きくなく、最も高かった「V:環境・建築学部」(84.6%)と最も低かった「B:バイオ・化学部」(81.1%)の差は3.5ポイントであった。
- 「F:課題・レポートの適切さ」の肯定的な意見の比較では、「F:情報フロンティア学部」が90.1%と最も高く、次いで「V:環境・建築学部」が88.8%、「E:工学部」が87.2%であり、「B:バイオ・化学部」では84.5%と、やや厳しい評価となっていた。



- 「G:学習支援計画書との一致」は全体的に肯定的な意見が非常に多く、いずれの学部でも95%以上が肯定的な意見であった。「沿っていた」という回答だけを見ると、「V:環境・建築学部」が42.4%とやや多かった。
- 「H:授業の進度の適切さ」も学部間の差は少なかったが、「E:工学部」で肯定的な意見が88.5%とやや少な目であった。他の学部ではいずれも90%以上が肯定的な意見で、差はほとんどなかった。
- 「I:学習相談(OH、チューター)の有効性」に関して「相談しなかった」という回答で比較すると、「V:環境・建築学部」が56.2%と非常に少なく、「B:バイオ・化学部」が68.6%とやや多かった。そして、「V:環境・建築学部」では「有効であった」と「まあ有効であった」の合計が36.4%と高い評価となっていた。



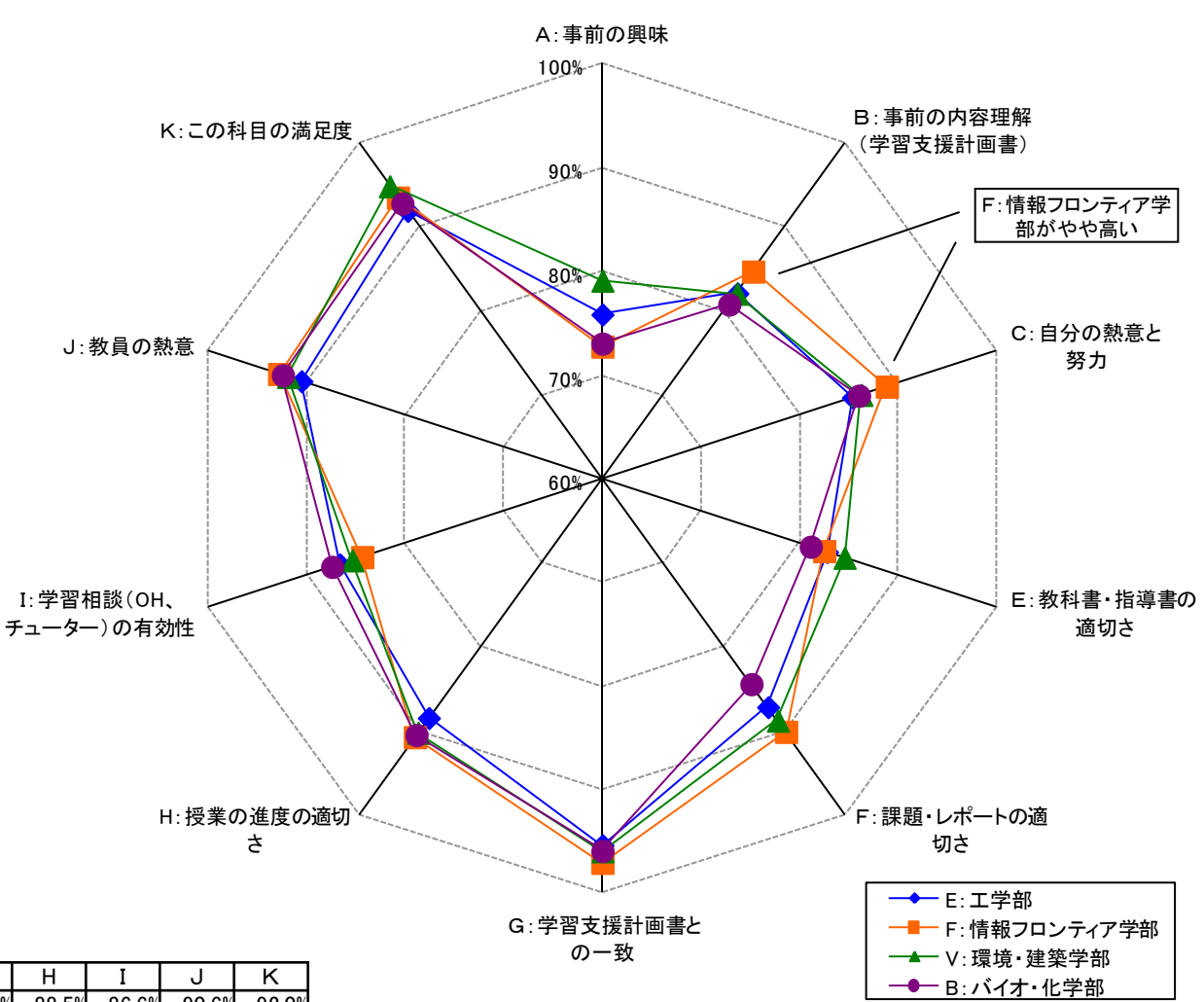
- 「J:教員の熱意」は全学部で肯定的な意見が9割以上を占めており、非常に評価が高いと言える。差は少ないものの「F:情報フロンティア学部」が最も高く、次いで「B:バイオ・化学部」「V:環境・建築学部」「E:工学部」と続いていた。
- 「K:この科目の満足度」も「満足している」と「まあ満足している」の合計はいずれの学部も9割以上であり、全体的に満足度は高いと言える。ここでも差は少なかったものの「V:環境・建築学部」が94.9%で最も満足度が高く、次いで「F:情報フロンティア学部」が93.6%、「B:バイオ・化学部」が92.9%、「E:工学部」が92.0%と続いていた。



- 1年次生の肯定的な意見の割合を学部別に比較したところ、右のレーダーチャートのようになった。
- 学部の差は全体的にそれほど大きくなく、特定の学部が全体的に高いとか低いといった傾向は見られなかった。
- 「A: 事前の興味」は学部による差がやや大きく、「V: 環境・建築学部」の高さが目立っていた。また、「F: 課題・レポートの適切さ」も学部による差が大きく、「B: バイオ・化学学部」の低さが目立っていた。
- 学部の特徴としては、「B: 事前の内容理解」と「C: 自分の熱意と努力」で「F: 情報フロンティア学部」が高い点が目立っており、努力している様子がうかがえた。
- 「K: この科目の満足度」は学部による差が小さく、他に「G: 学習支援計画書との一致」「J: 教員の熱意」でも差が小さかった。

■ 学部別比較レーダーチャート
(1~3年次生のみ)

※「I: 学習相談の有効性」は「相談しなかった」を除いた上で「有効であった」「まあ有効であった」の割合を集計した。利用者からのみの評価となる。



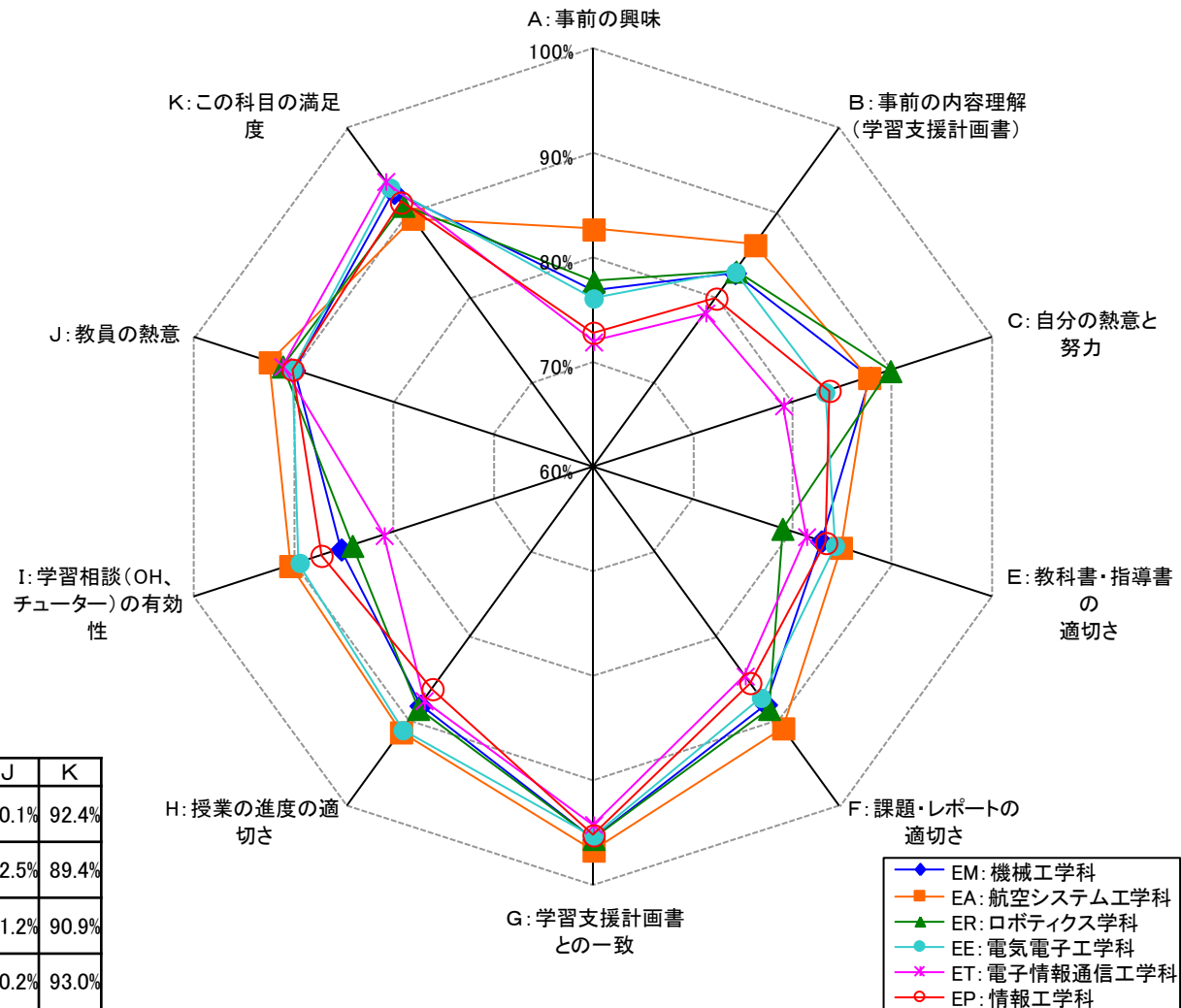
■ 学部別比較

	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
E: 工学部	75.9%	82.2%	85.4%	82.8%	87.2%	95.4%	88.5%	86.6%	90.6%	92.0%
F: 情報フロンティア学部	72.8%	84.8%	88.8%	82.5%	90.1%	97.1%	90.7%	84.4%	92.7%	93.6%
V: 環境・建築学部	79.2%	82.1%	86.2%	84.6%	88.8%	95.9%	90.2%	85.4%	91.9%	94.9%
B: バイオ・化学学部	73.1%	80.8%	86.0%	81.1%	84.5%	95.9%	90.5%	87.4%	92.4%	92.9%

<4-3> 肯定的な意見の学科別比較(1年次生)

- 今回の「1年次生」から学科構成が新しくなっているため、「1年次生」だけは別に集計をおこなった。また、学科の数が多いため、学科別の比較は全体での比較を行わず、学部毎に分けて比較した。
- 工学部の6学科で比較したところ、全体的に「EA:航空システム工学科」が高く、特に「A:事前の興味」「B:事前の内容理解」の高さが目立っていた。
- 一方、全体的に低めであったのは「ET:電子情報通信工学科」と「EP:情報工学科」であり、この2学科は特に「A:事前の興味」の低さが目立っていた。
- 他には「ER:ロボティクス学科」が特徴的であり、「C:自分の熱意と努力」が高く「E:教科書・指導書の適切さ」が低かった。
- 項目別に見ると「A:事前の興味」「C:自分の熱意と努力」「I:学習相談(OH、チューター)の有効性」などは学科による差が大きかったが、主要な指標である「K:この科目の満足度」は学科による差が小さく、評価は集中していた。

■工学部 学科別比較レーダーチャート

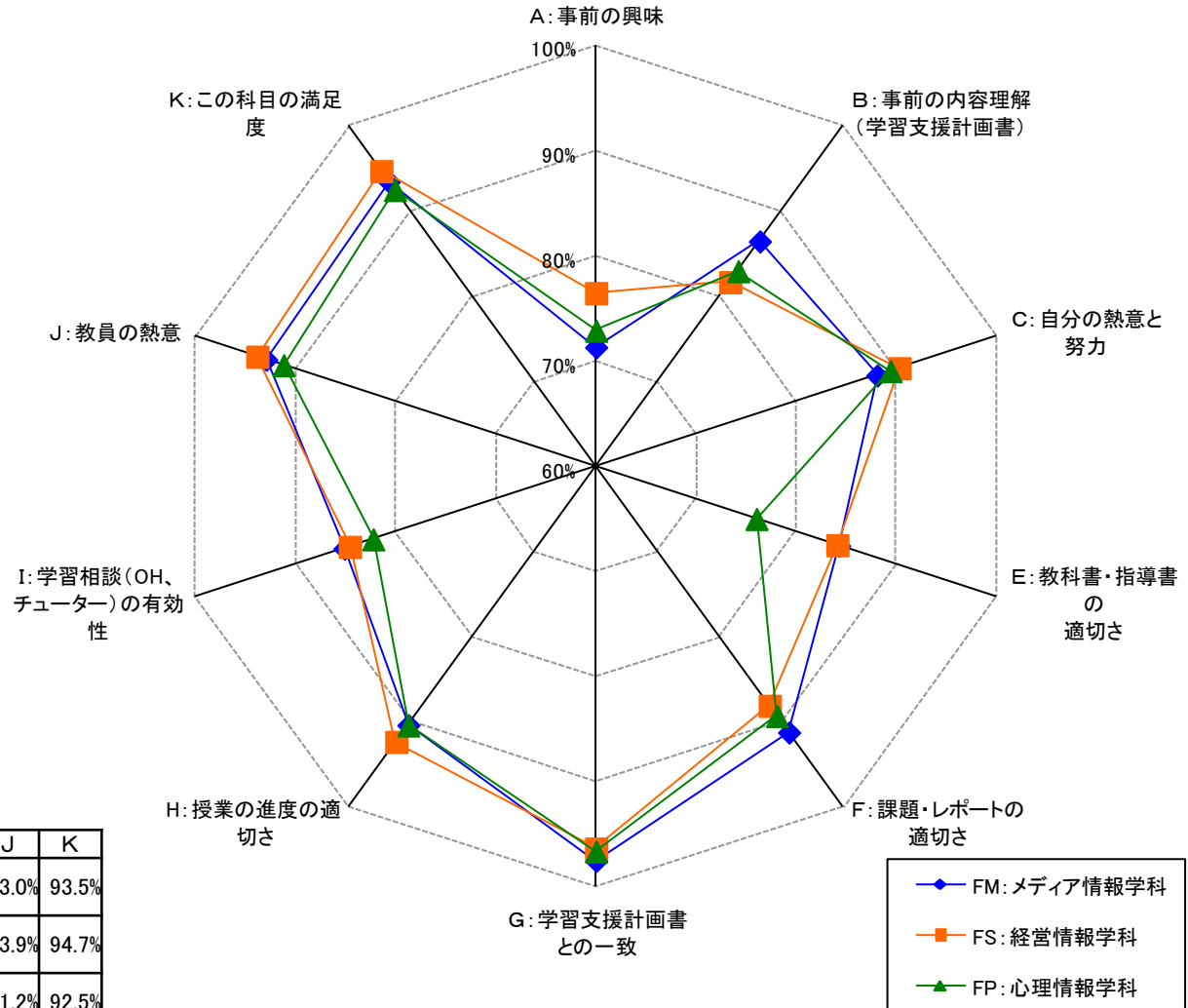


■工学部 学科別比較

	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
EM: 機械工学科	76.9%	83.0%	87.8%	82.8%	88.0%	95.5%	88.1%	85.3%	90.1%	92.4%
EA: 航空システム工学科	82.7%	86.2%	87.7%	84.8%	90.8%	96.6%	91.3%	90.4%	92.5%	89.4%
ER: ロボティクス学科	77.8%	83.1%	89.8%	79.0%	88.5%	95.5%	88.5%	84.2%	91.2%	90.9%
EE: 電気電子工学科	76.1%	83.1%	83.2%	84.2%	87.2%	95.2%	91.0%	89.5%	90.2%	93.0%
ET: 電子情報通信工学科	72.0%	78.2%	79.1%	81.4%	84.6%	94.1%	87.5%	81.0%	91.2%	93.8%
EP: 情報工学科	72.9%	79.9%	83.7%	83.3%	85.4%	95.1%	86.2%	87.3%	90.2%	91.3%

- 情報フロンティア学部の3学科では、それほど大きな差ではないものの、学科による特徴が見られた。
- 「FS:経営情報学科」は全体的に肯定的な意見が多く、差は小さいものの「A:事前の興味」「J:教員の熱意」「K:この科目の満足度」などが高めであった。
- 「FM:メディア情報学科」は全体的に中庸な結果であったが、「B:事前の内容理解」の高さは目立っていた。
- 「FP:心理情報学科」はやや低めの項目が見られ、特に「E:教科書・指導書の適切さ」が低く、「I:学習相談(OH、チューター)の有効性」や「J:教員の熱意」も低かった。

■情報フロンティア学部 学科別比較レーダーチャート

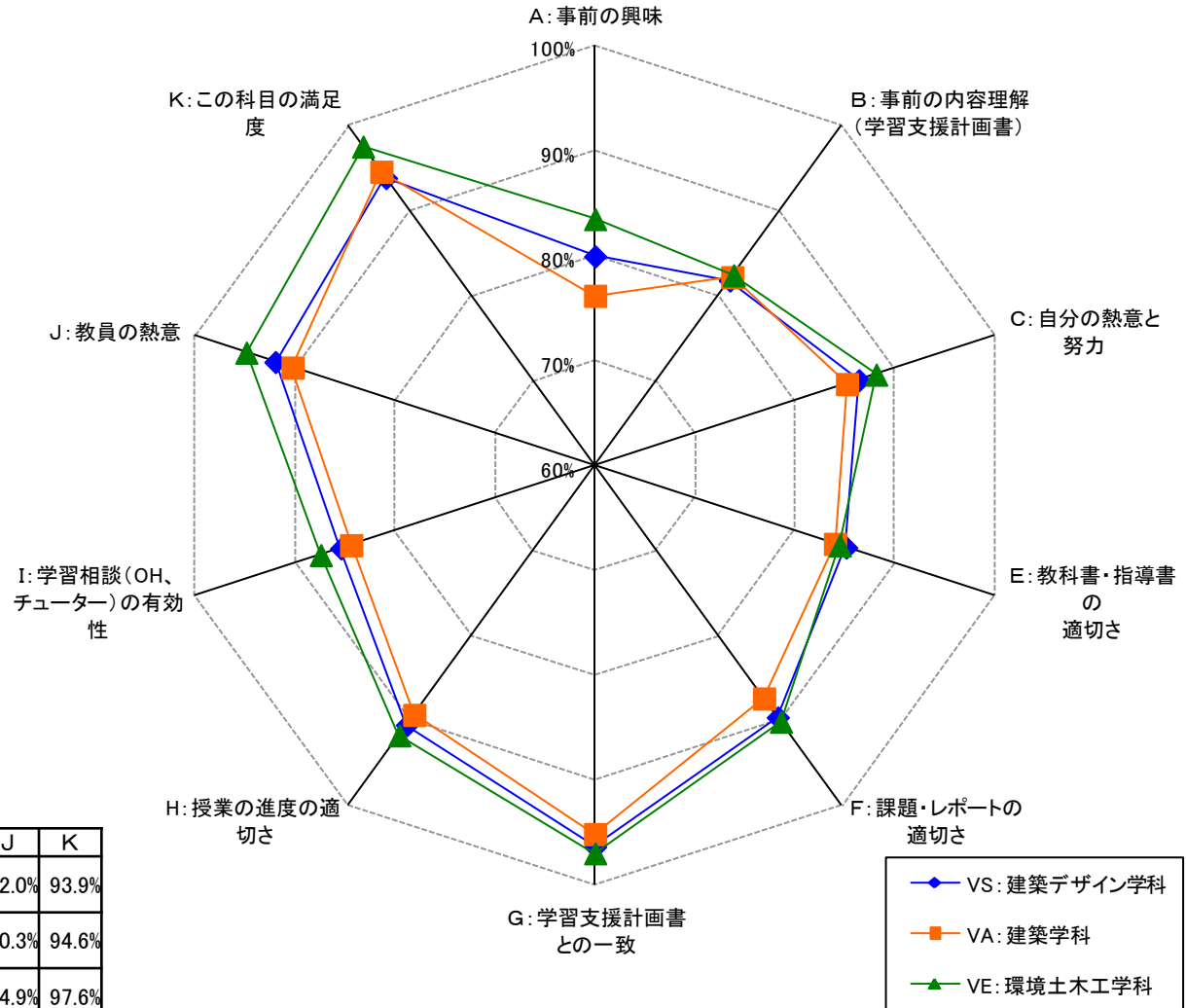


■情報フロンティア学部 学科別比較

	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
FM:メディア情報学科	71.4%	86.5%	88.1%	84.3%	91.2%	97.4%	90.4%	85.2%	93.0%	93.5%
FS:経営情報学科	76.5%	81.7%	90.3%	84.1%	88.1%	96.3%	92.3%	84.6%	93.9%	94.7%
FP:心理情報学科	72.9%	83.0%	89.4%	76.0%	89.3%	96.6%	90.4%	82.3%	91.2%	92.5%

- 環境・建築学部の3学科に関しては、学科間の差は非常に小さく、いずれの学科も似た傾向になっていた。
- 差は小さいものの全体的に高めであったのは「VE:環境土木工学科」であり、特に「A:事前の興味」「J:教員の熱意」「K:この科目の満足度」の高さが目立っており、授業が充実していた様子がうかがえる。
- 一方、全体的に低かったのは「VA:建築学科」で、ほとんどの項目で最も低くなっており、特に「A:事前の興味」の低さが目立っていた。
- 「VS:建築デザイン学科」は全体的に中庸な結果となっていたが、「K:この科目の満足度」はわずかな差ではあるが、最も低くなっていた。

■環境・建築学部 学科別比較レーダーチャート

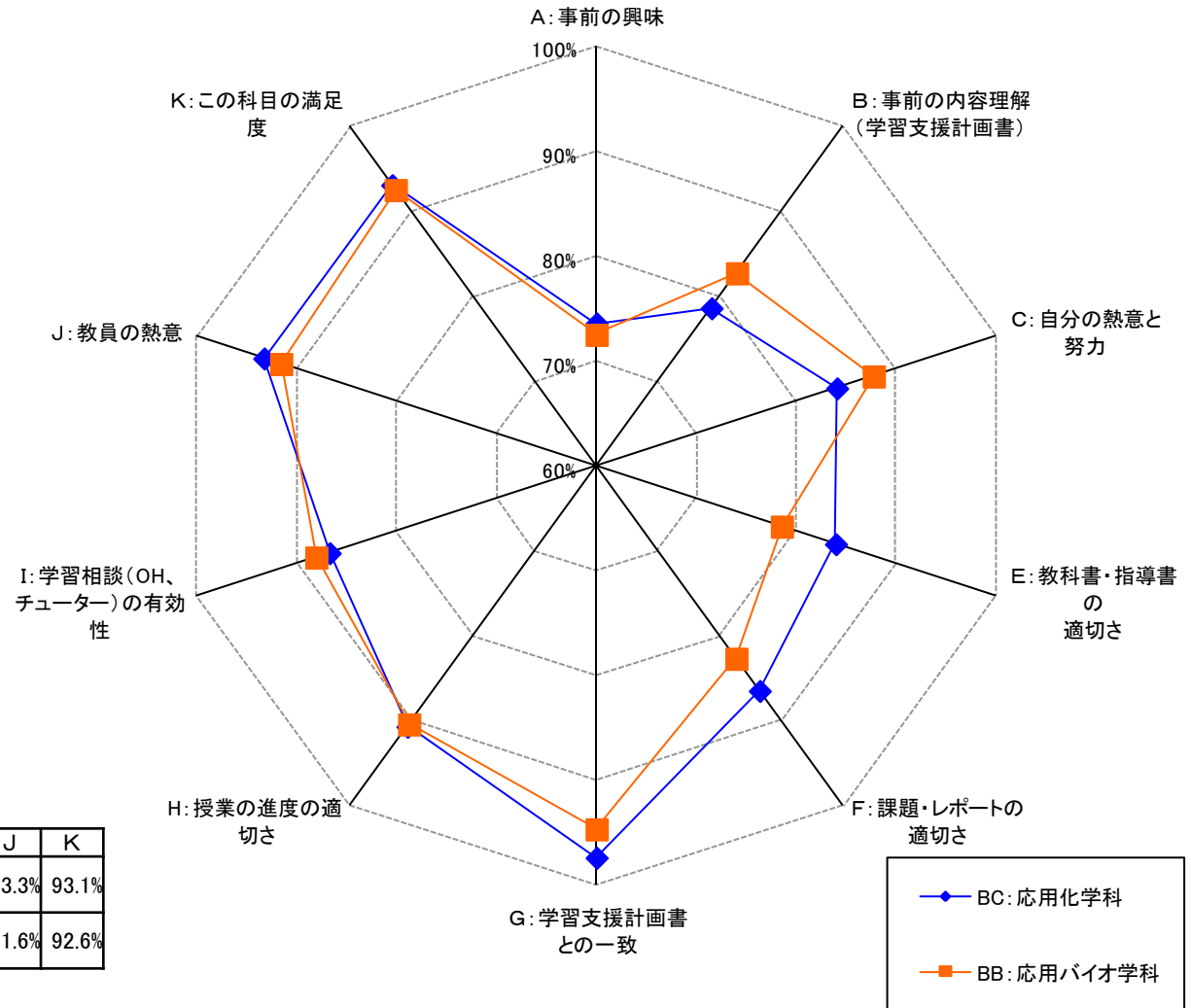


■環境・建築学部 学科別比較

	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
VS: 建築デザイン学科	80.0%	81.8%	86.4%	85.1%	89.6%	96.3%	90.5%	85.4%	92.0%	93.9%
VA: 建築学科	76.2%	82.2%	85.2%	84.0%	87.4%	95.1%	89.3%	84.4%	90.3%	94.6%
VE: 環境土木工学科	83.5%	82.4%	88.1%	84.5%	90.1%	96.9%	91.7%	87.5%	94.9%	97.6%

- バイオ・化学部の2学科の比較では、項目によって高いものと低いものが混在していた。
- 「BC:応用化学科」は「E:教科書・指導書の適切さ」「F:課題・レポートの適切さ」「G:学習支援計画書との一致」が高く、「B:事前の内容理解」「C:自分の熱意と努力」が低かった。
- 「BB:応用バイオ学科」は「B:事前の内容理解」「C:自分の熱意と努力」が高かった。
- 主要な指標である「A:事前の興味」と「K:この科目の満足度」に関しては2つの学科間にほとんど差が見られなかった。

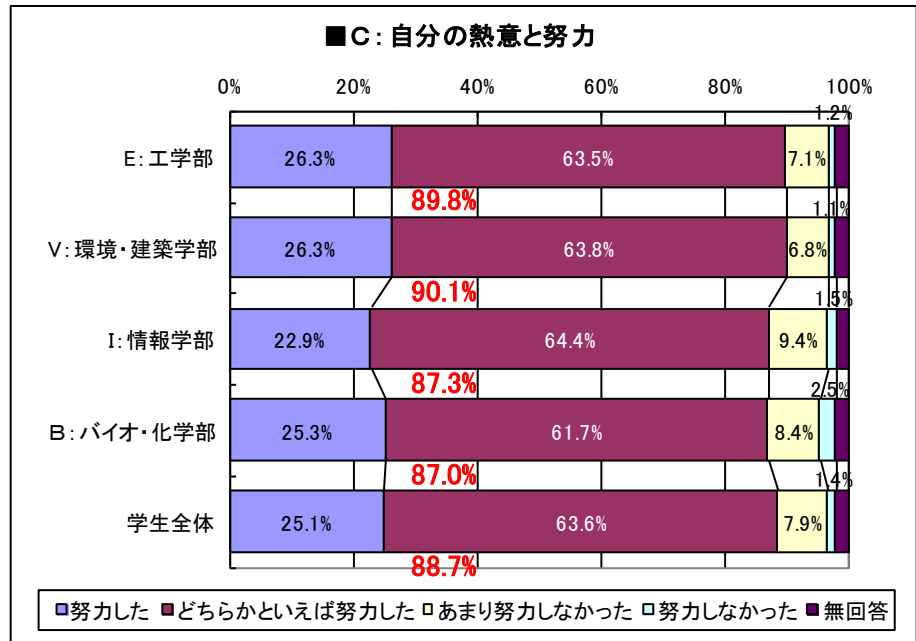
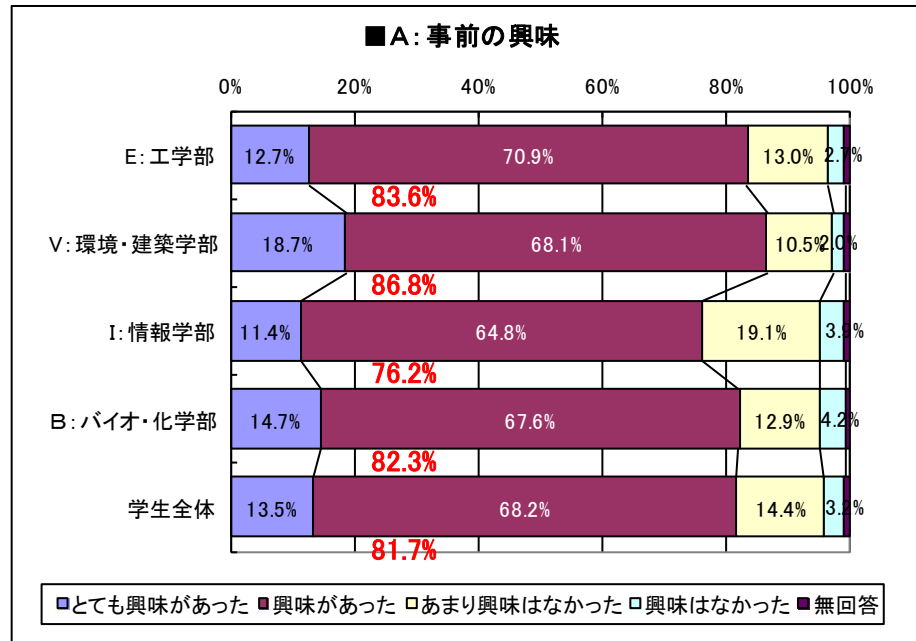
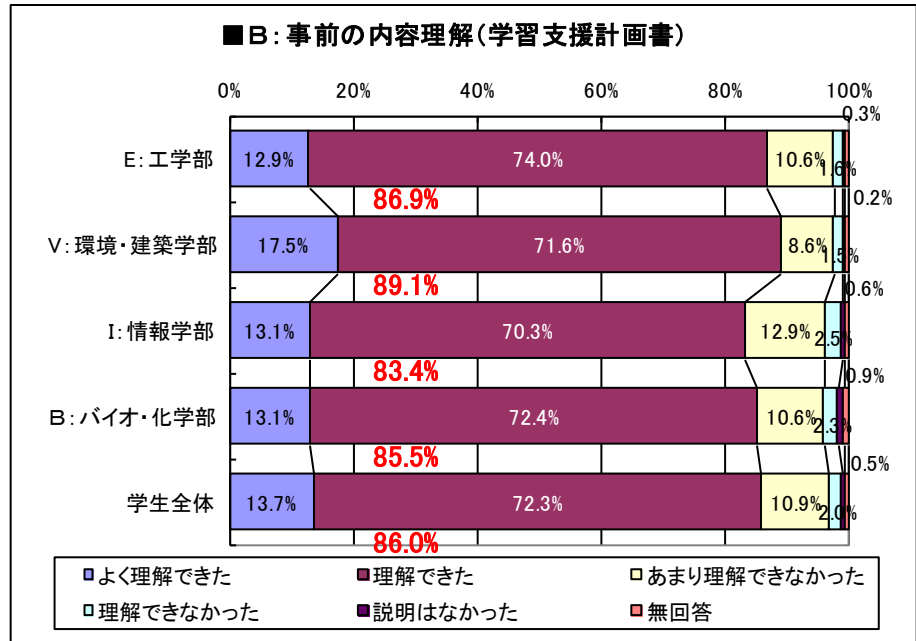
■ バイオ・化学部 学科別比較レーダーチャート



■ バイオ・化学部 学科別比較

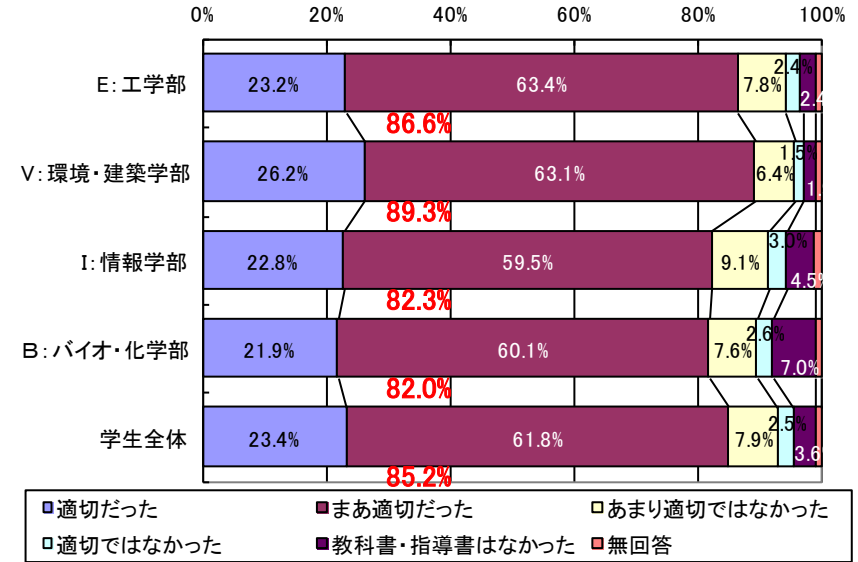
	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
BC: 応用化学科	73.6%	78.6%	84.1%	84.0%	86.5%	97.3%	90.7%	86.7%	93.3%	93.1%
BB: 応用バイオ学科	72.5%	82.8%	87.8%	78.6%	82.7%	94.6%	90.4%	88.1%	91.6%	92.6%

- 「2~4年次生」の学部構成は同一となっているので、一括で学部別の比較を行った。
- 「A:事前の興味」を肯定的な意見の合計で比較すると、「V:環境・建築学部」が86.8%で最も多く、次いで「E:工学部」「B:バイオ・化学部」「I:情報学部」の順となっており、「V:環境・建築学部」と「I:情報学部」との差は10.6ポイントと大きかった。
- 「B:事前の内容理解」では、学部間の差はそれほど大きくなかったが「V:環境・建築学部」で肯定的な意見が最も多く、89.1%であった。また、「よく理解できた」だけを見ても「V:環境・建築学部」が17.5%で最も多く、理解度の高さがうかがえた。
- 「C:自分の熱意と努力」も学部間の差は小さく、最も高い「V:環境・建築学部」で90.1%、最も低い「B:バイオ・化学部」で87.0%であり、その差は3.1ポイントであった。

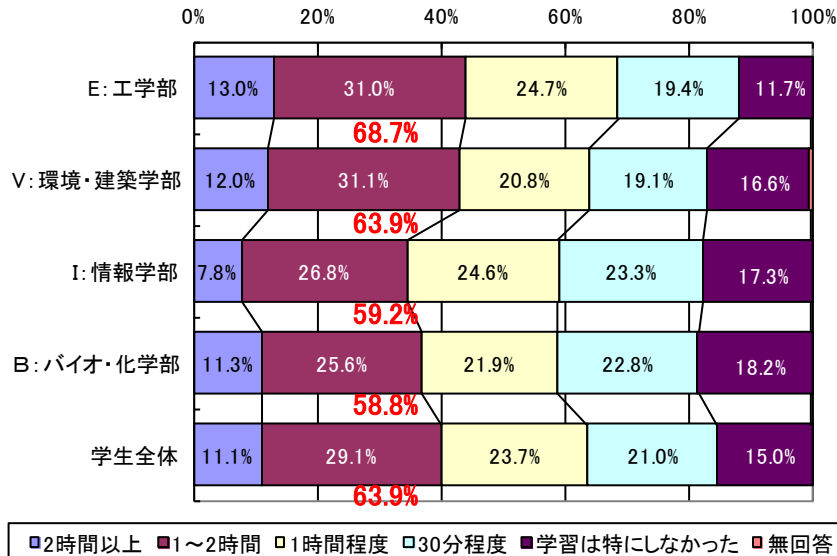


- 「D:予習・復習、課外学習活動」に関して「1時間程度」までの合計で比較すると、「E:工学部」が68.7%と最も多く、次いで「V:環境・建築学部」が63.9%、「I:情報学部」が59.2%、「B:バイオ・化学部」が58.8%であり、比較的大きな差がついていた。
- 「E:教科書・指導書の適切さ」を肯定的な意見の合計で比較すると、「V:環境・建築学部」が89.3%で最も高く、「E:工学部」が86.6%で続いていた。一方、「B:バイオ・化学部」は82.0%、「I:情報学部」が82.3%であり、この2学部は厳しい評価となっていた。
- 「F:課題・レポートの適切さ」の肯定的な意見を見ると、「V:環境・建築学部」と「E:工学部」は9割を超えているが、「B:バイオ・化学部」と「I:情報学部」はやや低めとなっており、ここでも2つに分かれていた。

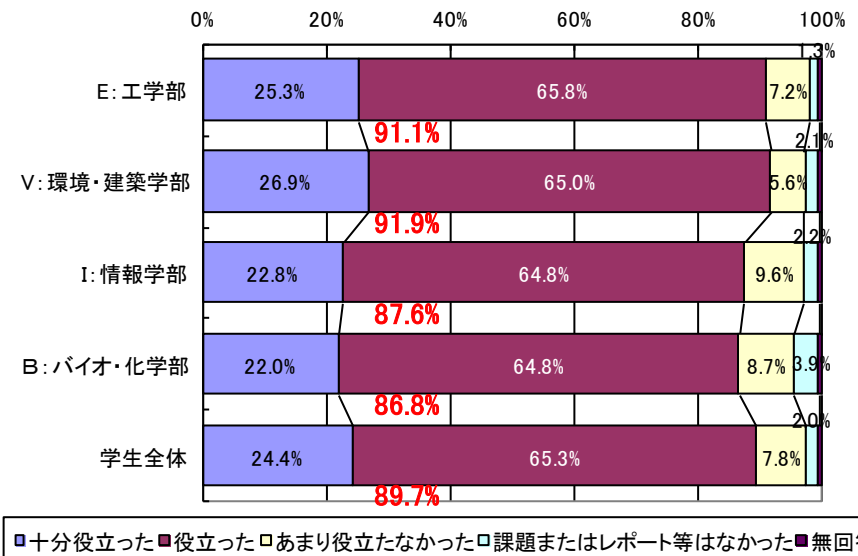
■ E: 教科書・指導書の適切さ



■ D: 予習・復習、課外学習活動

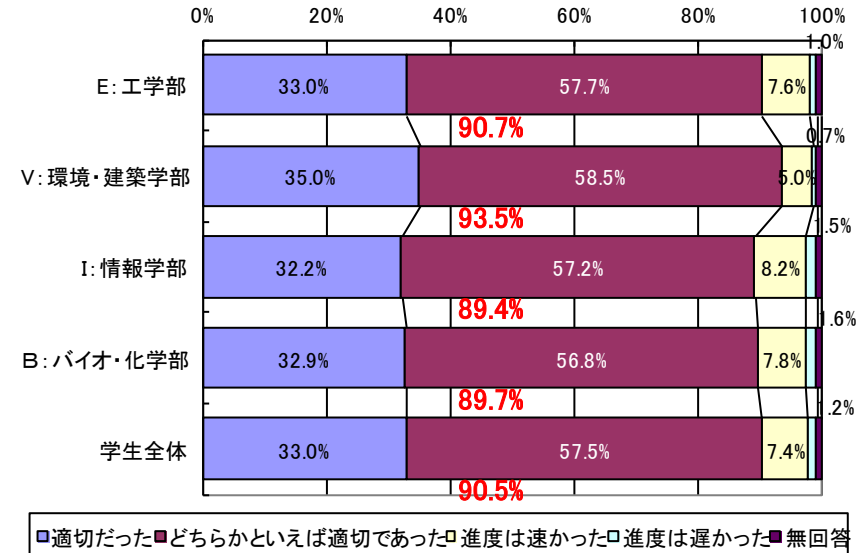


■ F: 課題・レポートの適切さ

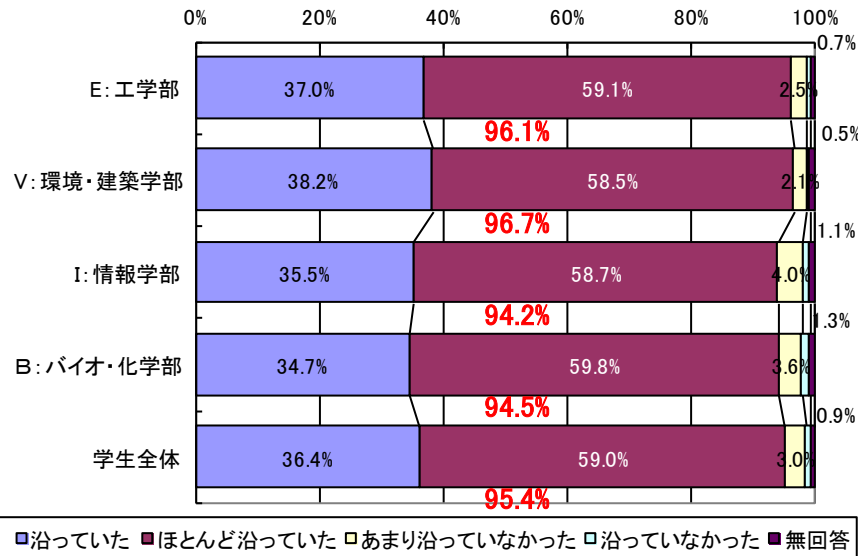


- 「G:学習支援計画書との一致」はいずれの学部も9割以上が肯定的な意見であり、評価は非常に高かった。しかし、「V:環境・建築学部」「E:工学部」の2学部と「I:情報学部」「B:バイオ・化学部」の2学部の間にはわずかな差はあるが差がついており、やはりここでも2分化の傾向が見られた。
- 「H:授業の進度の適切さ」の肯定的な意見を見ると、「V:環境・建築学部」が93.5%で他の学部とやや差がついており、「E:工学部」(90.7%)、「B:バイオ・化学部」(89.7%)、「I:情報学部」(89.4%)の3学部はほぼ同じ結果となっていた。
- 「I:学習相談(OH、チューター)の有効性」において「相談しなかった」という回答で比較すると、「V:環境・建築学部」が52.6%で、他の学部と比べて低さが目立っていた。そして、「E:工学部」(62.9%)、「I:情報学部」(64.8%)、「B:バイオ・化学部」(66.8%)の3学部の間には大きな差は見られなかった。「V:環境・建築学部」では、「有効であった」と「まあ有効であった」の合計が43.8%であり、高い評価となっていた。

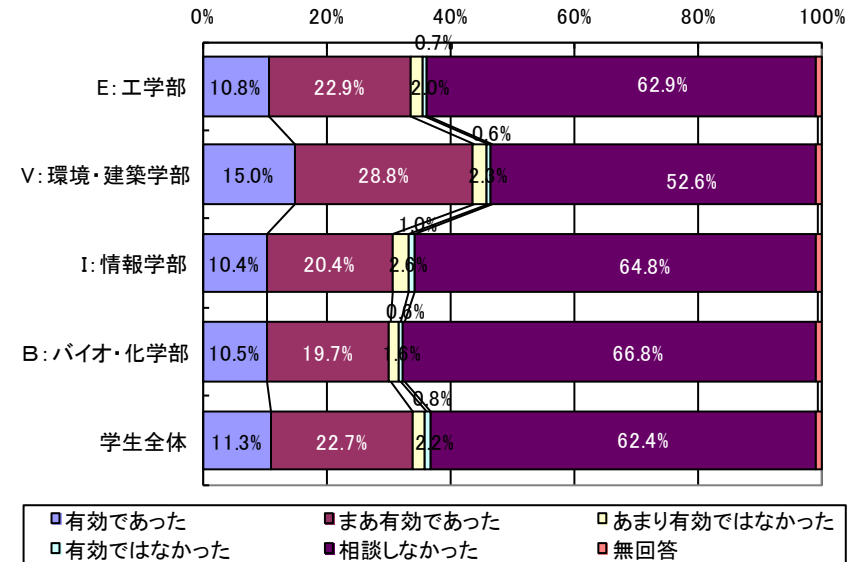
■H: 授業の進度の適切さ



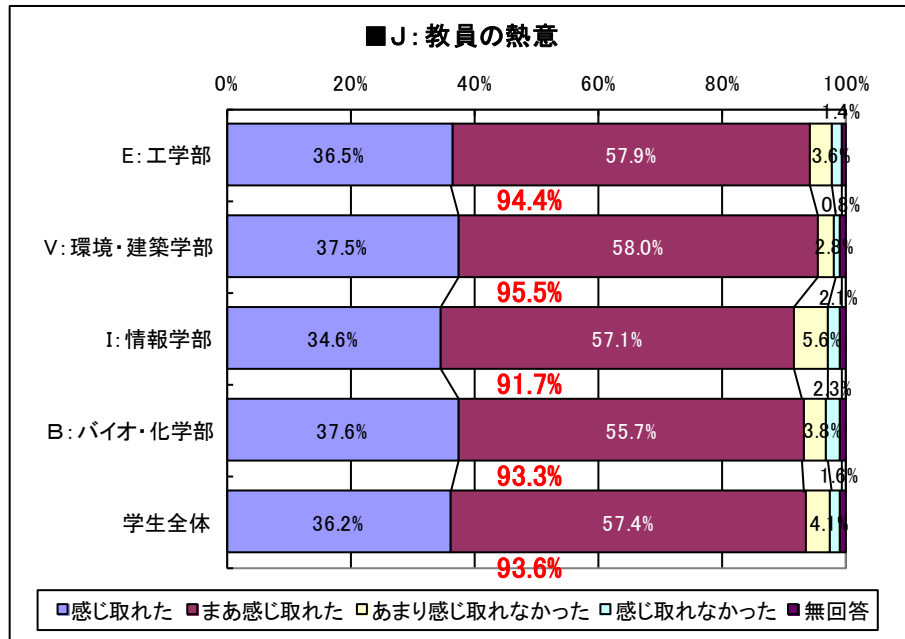
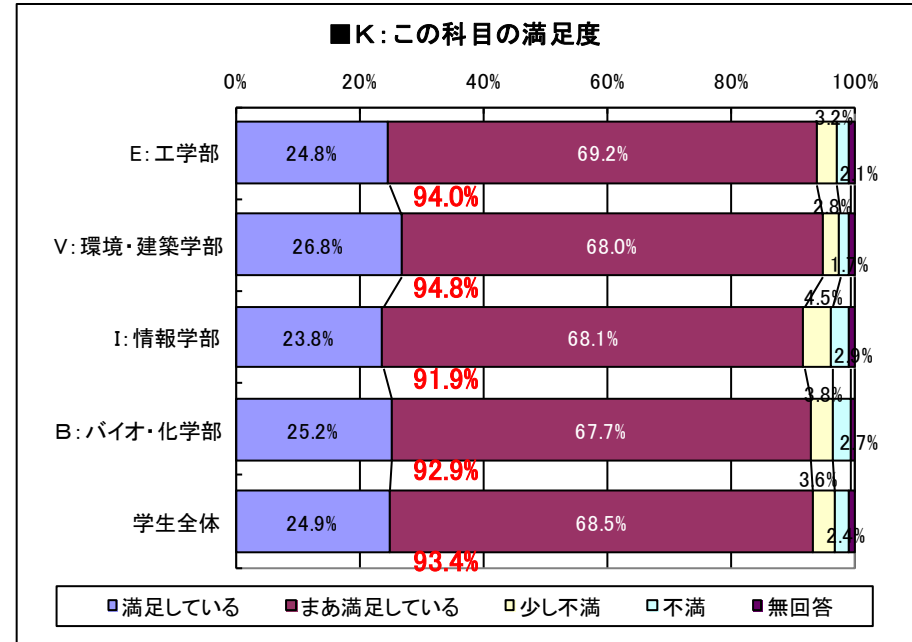
■G: 学習支援計画書との一致



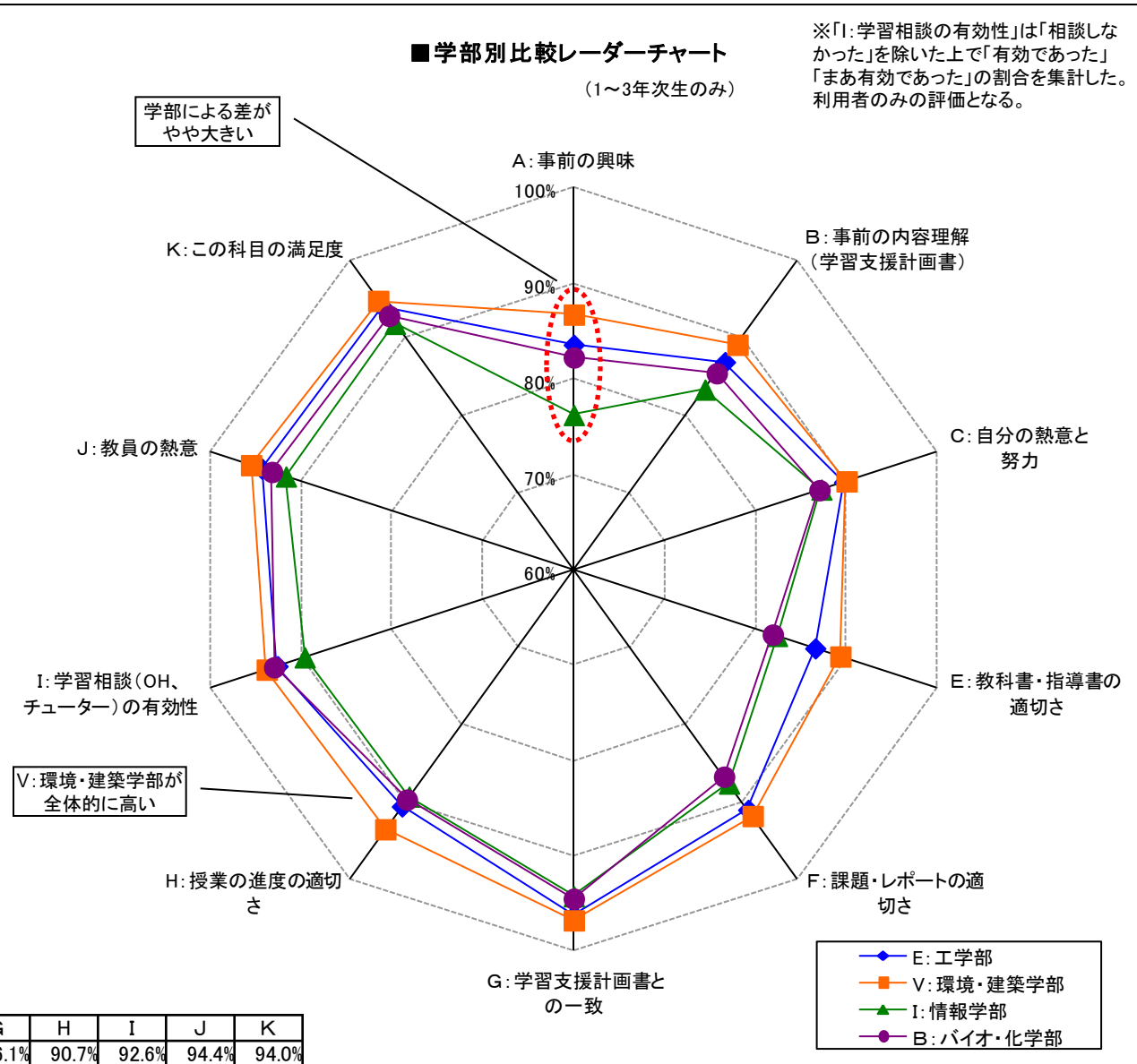
■I: 学習相談(OH、チューター)の有効性



- 「J:教員の熱意」はすべての学部で9割以上が肯定的な意見であり、評価は高いと言える。特に「V:環境・建築学部」では95.5%が教員に熱意を感じており、非常に高い評価であった。
- 「K:この科目の満足度」に関してもすべての学部で9割以上が肯定的な意見であり、満足度は非常に高いと言える。学部による差はそれほど大きくなかったが、「V:環境・建築学部」では94.8%が満足という回答であり、次いで「E:工学部」が94.0%、「B:バイオ・化学部」が92.9%、「I:情報学部」が91.9%と続いており、ここでも「V:環境・建築学部」と「E:工学部」の2学部の評価の高さがうかがえた。



- 肯定的な意見の割合を学部別に比較したところ、右のレーダーチャートのようになった。
- 全体の傾向として、「A:事前の興味」は学部による差が大きめで、「E:教科書・指導書の適切さ」でもやや差が見られたが、その他の項目では学部間の差はそれほど見られなかった。
- 学部別に見ると「V:環境・建築学部」がすべての項目で最も高く、授業に関して非常に充実している様子がうかがえた。
- 一方、「I:情報学部」は全体的に低く、特に「A:事前の興味」が非常に低かった。また、「B:バイオ・化学部」も全体的にやや低めであった。
- 「E:工学部」はすべての項目で中庸な評価であり、これといった特徴は見られなかった。



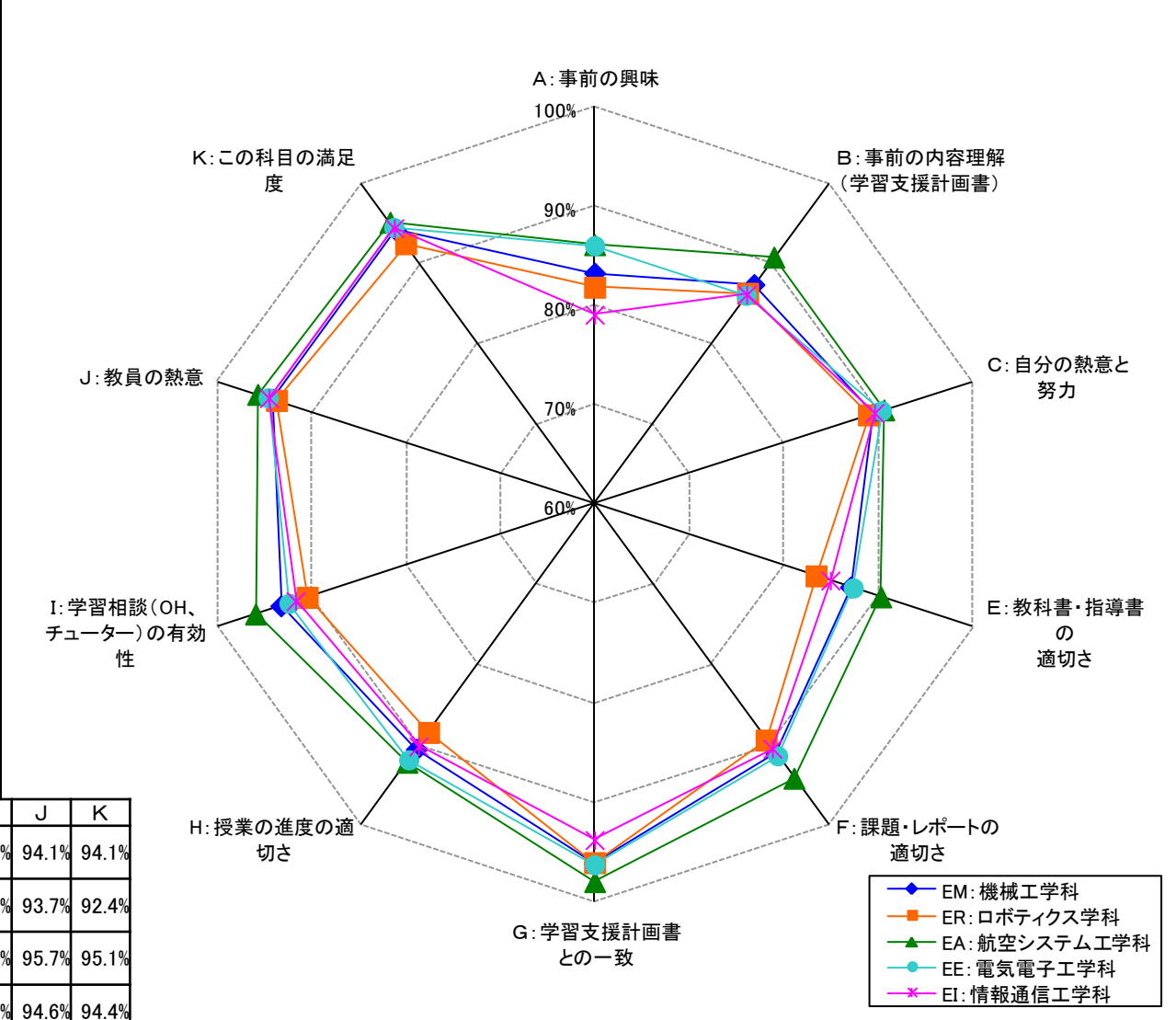
■ 学部別比較

	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
E:工学部	83.6%	86.9%	89.8%	86.6%	91.1%	96.1%	90.7%	92.6%	94.4%	94.0%
V:環境・建築学部	86.8%	89.1%	90.1%	89.3%	91.9%	96.7%	93.5%	93.8%	95.5%	94.8%
I:情報学部	76.2%	83.4%	87.3%	82.3%	87.6%	94.2%	89.4%	89.6%	91.7%	91.9%
B:バイオ・化学部	82.3%	85.5%	87.0%	82.0%	86.8%	94.5%	89.7%	93.0%	93.3%	92.9%

<4-6> 肯定的な意見の学科別比較(2~4年次生)

- 学科構成が同じ2~4年次生全体で学科別の比較を行った。学科の数が多いため、学科別の比較は全体での比較を行わず、学部毎に分けて比較した。
- 工学部の5学科で比較したところ、すべての項目で「EA:航空システム工学科」が最も高く、特に「B:事前の内容理解」「E:教科書・指導書の適切さ」「F:課題・レポートの適切さ」「I:学習相談(OH、チューター)の有効性」などは高さが目立っていた。
- 次いで「EM:機械工学科」と「EE:電気電子工学科」がやや高めであり、特に「EE:電気電子工学科」の「A:事前の興味」は「EA:航空システム工学科」と同程度となっていた。
- 一方、全体的に低かったのは「ER:ロボティクス学科」と「EI:情報通信工学科」であった。特に「ER:ロボティクス学科」は教科書や課題・レポート、授業の進度など、授業の進め方に不満を感じているようであり、「EI:情報通信工学科」は「A:事前の興味」と「G:学習支援計画書との一致」の低さが目立っていた。

■工学部 学科別比較レーダーチャート

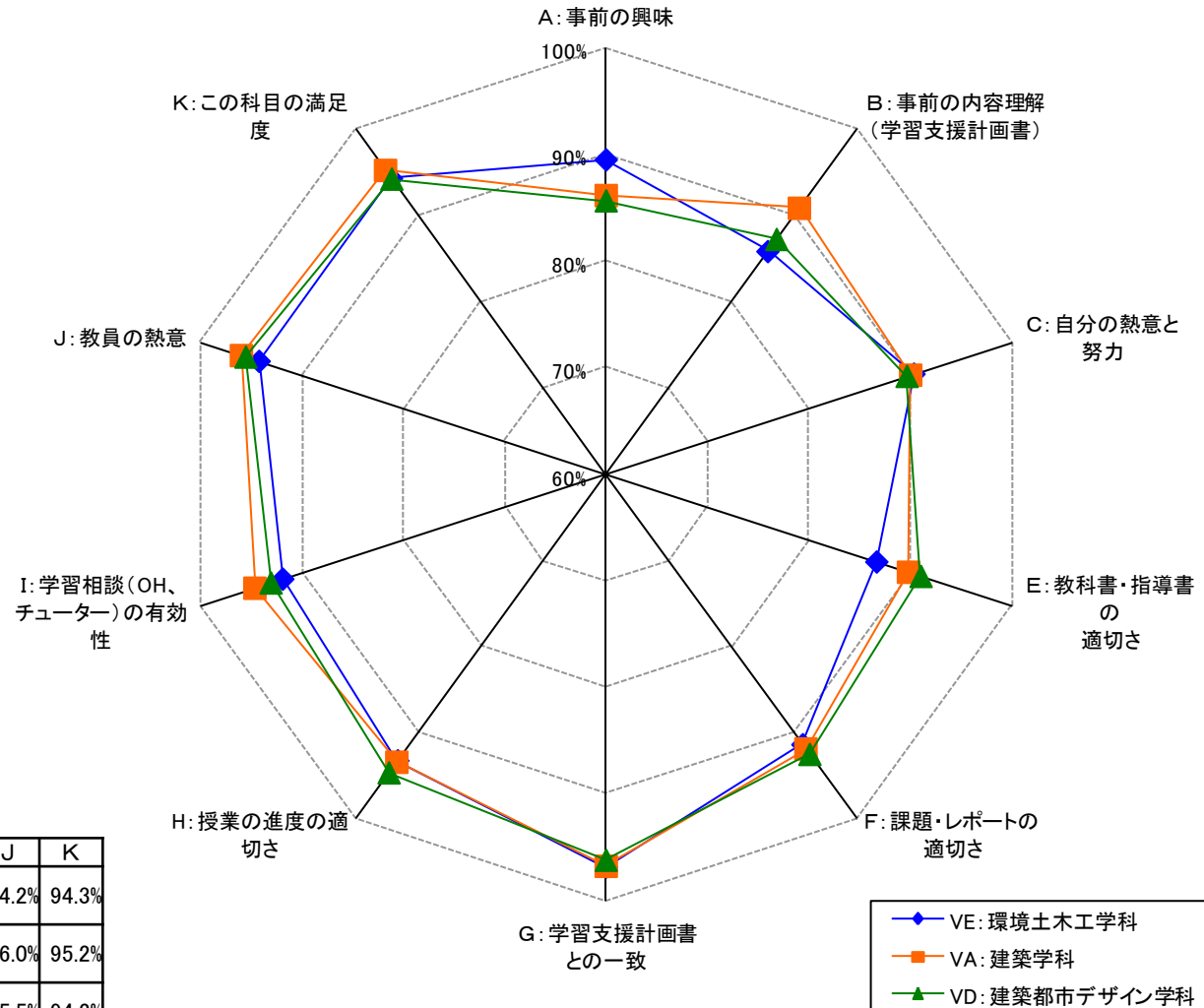


■工学部 学科別比較

	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
EM: 機械工学科	83.3%	87.3%	89.5%	87.1%	91.1%	96.2%	90.5%	93.2%	94.1%	94.1%
ER: ロボティクス学科	81.8%	86.2%	89.0%	83.5%	89.4%	96.1%	88.5%	90.5%	93.7%	92.4%
EA: 航空システム工学科	86.1%	90.7%	90.6%	90.3%	94.2%	98.1%	92.2%	95.9%	95.7%	95.1%
EE: 電気電子工学科	86.0%	86.0%	90.4%	87.4%	91.4%	96.3%	91.9%	92.4%	94.6%	94.4%
EI: 情報通信工学科	79.1%	86.1%	89.7%	85.0%	90.5%	93.9%	90.2%	91.7%	94.5%	94.3%

- 環境・建築学部の3学科は学科間の差はそれほど大きくなかった。
- 項目によって学科の評価が異なっており、特定の学科の評価が全体的に高いという傾向は見られなかったが、「VA:建築学科」は「B:事前の内容理解」や「K:この科目の満足度」などがやや高めであった。
- 「VE:環境土木工学科」は「A:事前の興味」は高かったものの、「E:教科書・指導書の適切さ」は低めであり、「B:事前の内容理解」や「J:教員の熱意」などもやや低かった。
- 「VD:建築都市デザイン学科」はいくつか最高評価の項目もあるが、全体的には中庸な結果で、目立った特徴は見られなかった。

■環境・建築学部 学科別比較レーダーチャート

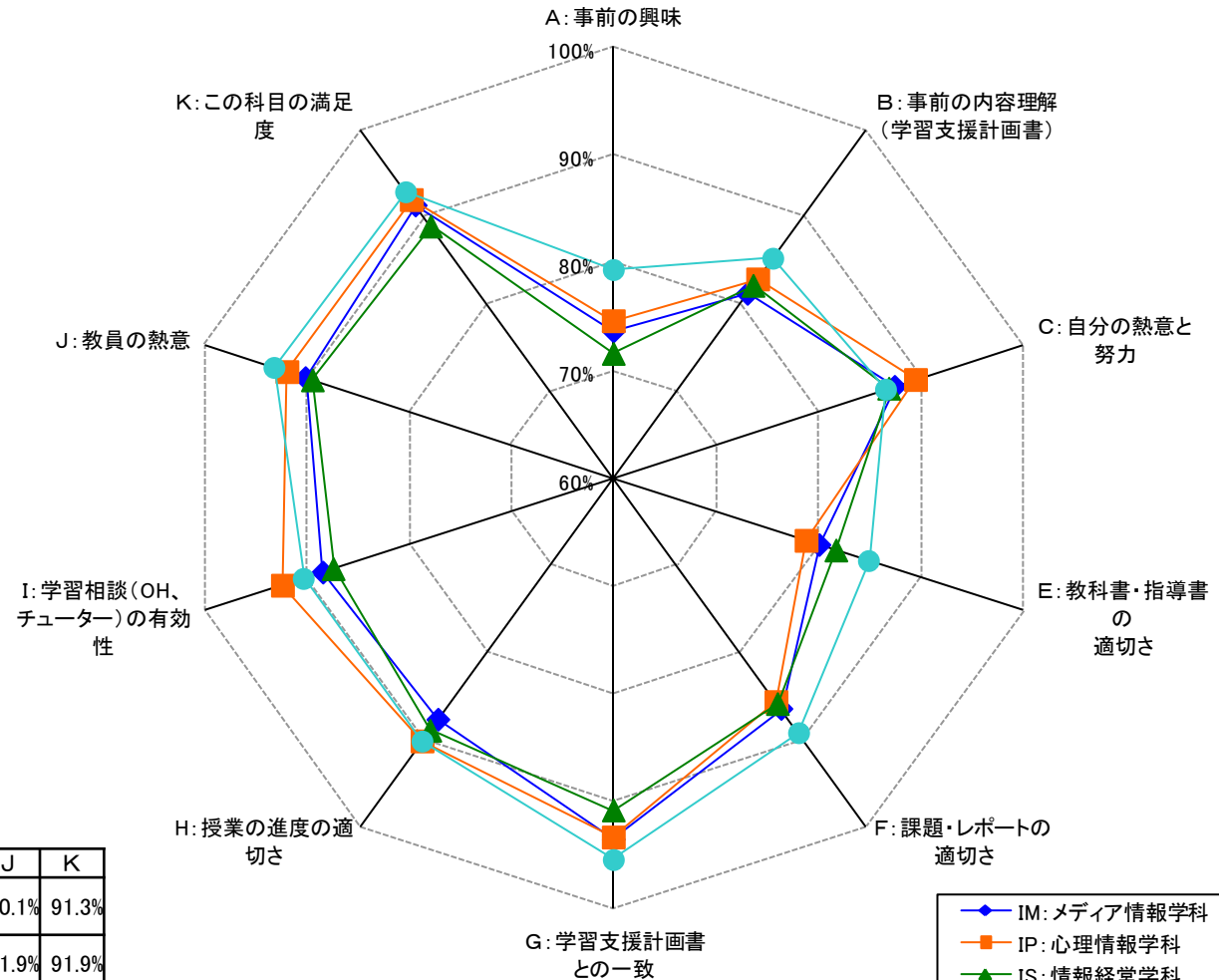


■環境・建築学部 学科別比較

	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
VE:環境土木工学科	89.5%	85.8%	90.4%	86.7%	91.4%	96.9%	93.2%	91.9%	94.2%	94.3%
VA:建築学科	86.1%	90.8%	90.0%	89.8%	91.9%	96.8%	93.4%	94.6%	96.0%	95.2%
VD:建築都市デザイン学科	85.6%	87.2%	89.7%	91.1%	92.5%	96.2%	94.6%	93.0%	95.5%	94.2%

- 情報学部の4学科を比較したところ、全体的に「IC:情報工学科」が高かった。特に「A:事前の興味」「B:事前の内容理解」「E:教科書・指導書の適切さ」「F:課題・レポートの適切さ」などの評価は目立って高く、「K:この科目の満足度」も差はわずかではあるが最も高かった。
- 次いで「IP:心理情報学科」でやや高めな項目があり、「C:自分の熱意と努力」「I:学習相談(OH、チューター)の有効性」では最も高かった。
- 「IS:情報経営学科」は全体的にやや低めであり、特に「A:事前の興味」「K:この科目の満足度」が低い点が目についた。
- 「IM:メディア情報学科」は「H:授業の進度の適切さ」が低めであったが、その他には大きな特徴は見られなかった。

■情報学部 学科別比較レーダーチャート

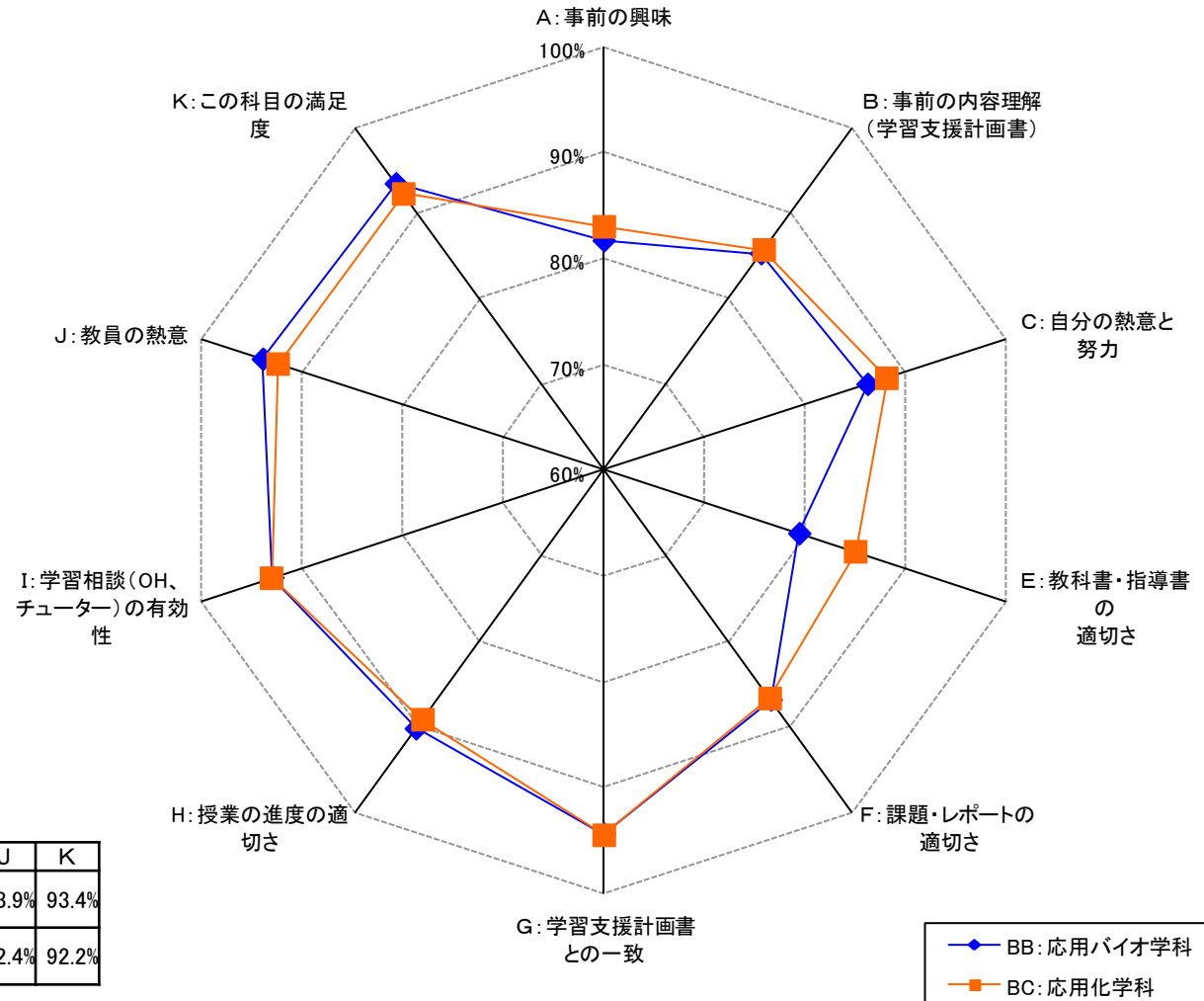


■情報学部 学科別比較

	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
IM: メディア情報学科	73.6%	81.2%	87.5%	80.1%	86.5%	93.6%	87.7%	88.4%	90.1%	91.3%
IP: 心理情報学科	74.6%	82.8%	89.5%	78.8%	85.7%	93.4%	90.2%	92.3%	91.9%	91.9%
IS: 情報経営学科	71.5%	82.1%	86.9%	81.7%	85.9%	90.9%	89.0%	87.4%	89.4%	88.9%
IC: 情報工学科	79.3%	85.2%	86.6%	84.9%	89.3%	95.5%	90.2%	90.3%	93.2%	92.8%

- バイオ・化学部の2学科を比較すると、いくつかの項目で「BB:応用バイオ学科」の評価が低いものが見られた。
- 「BB:応用バイオ学科」は「E:教科書・指導書の適切さ」の低さが目立っており、「C:自分の熱意と努力」もやや低かった。
- 「K:この科目の満足度」は、差は少ないものの「BB:応用バイオ学科」の方がわずかに高かった。

■ バイオ・化学部 学科別比較レーダーチャート

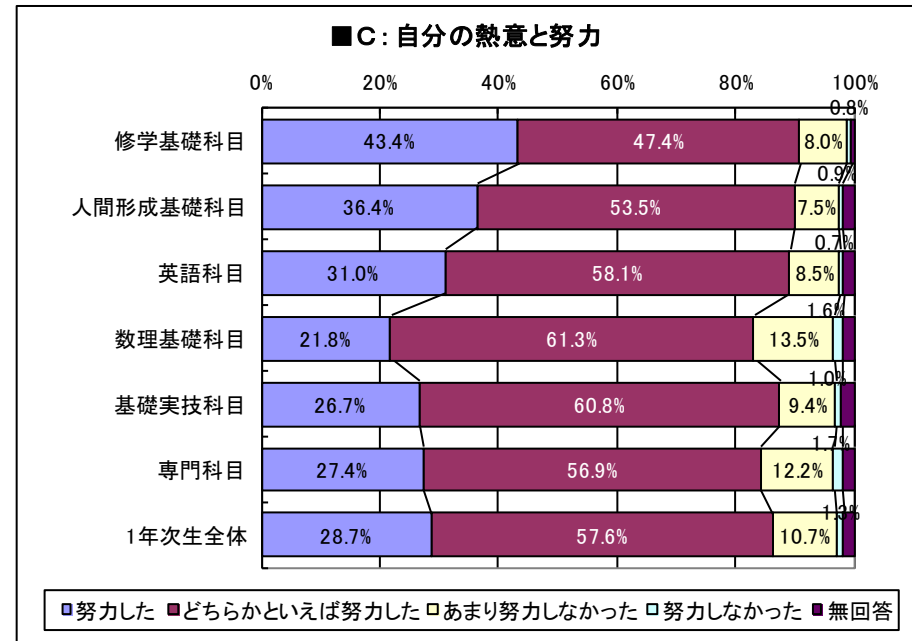
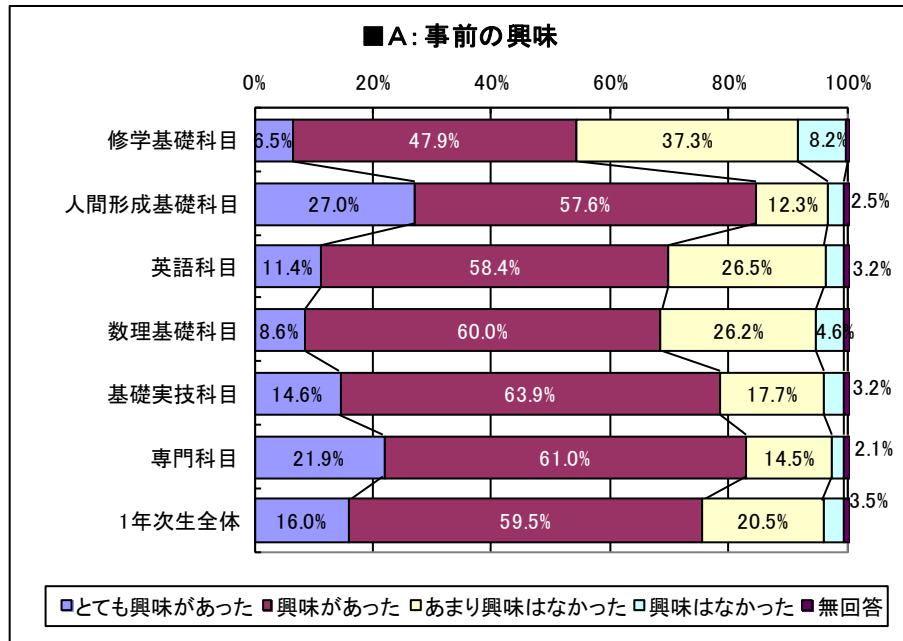
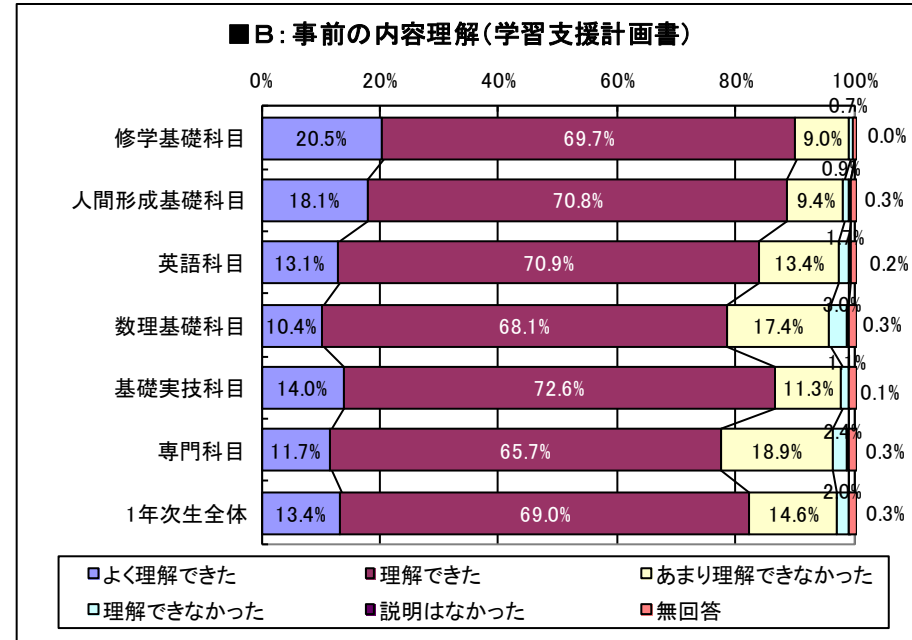


■ バイオ・化学部 学科別比較

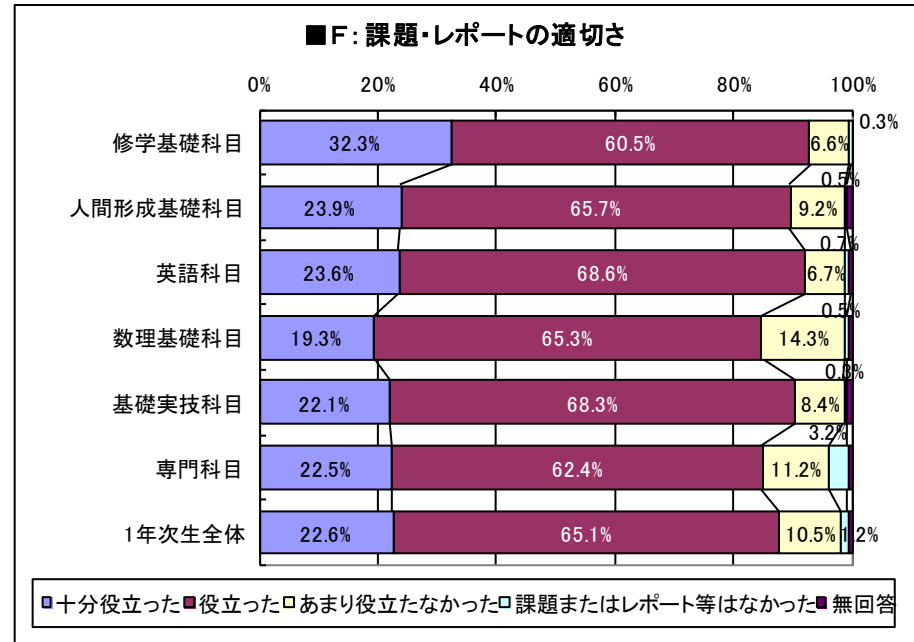
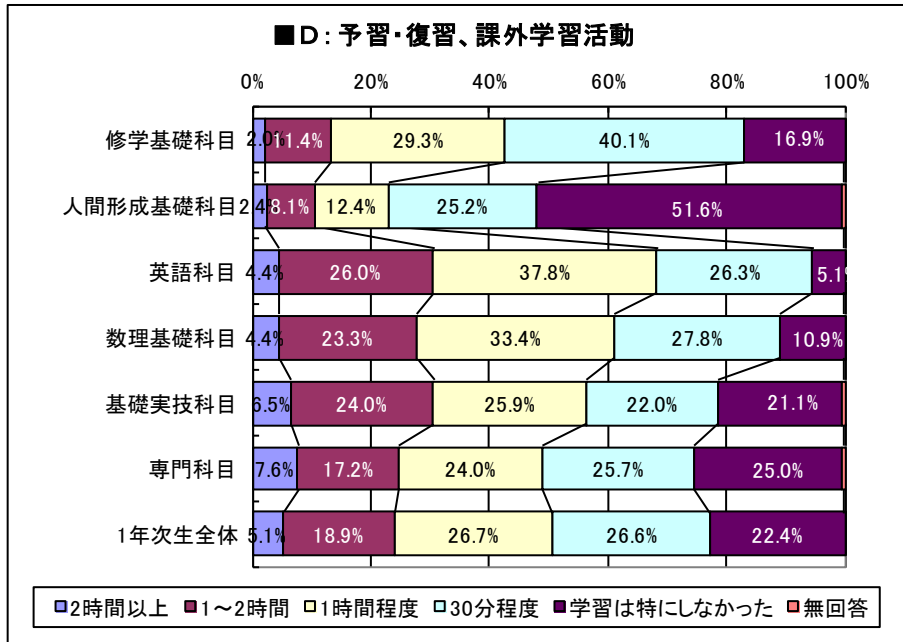
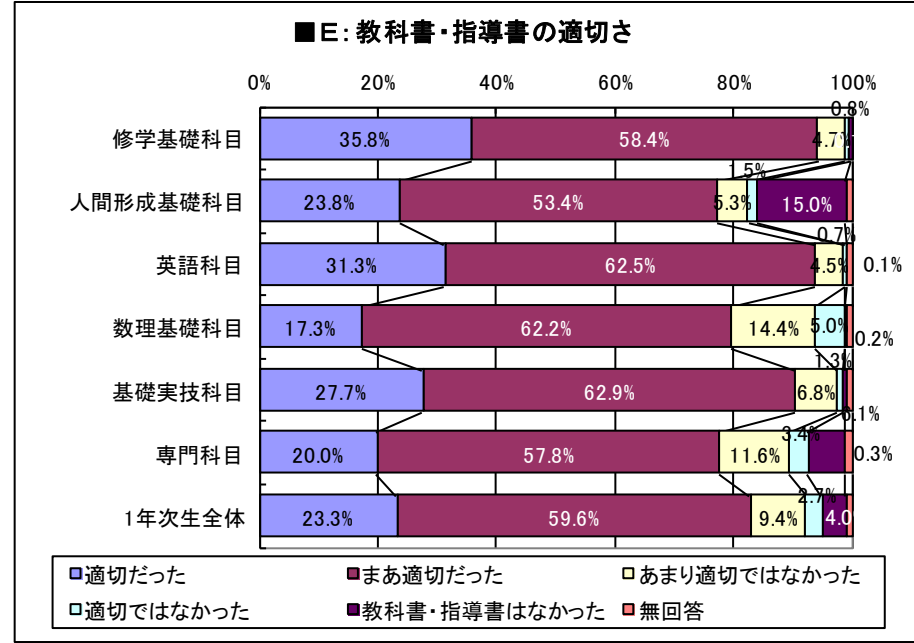
	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
BB: 応用バイオ学科	81.7%	85.3%	86.2%	79.4%	86.8%	94.4%	90.2%	92.9%	93.9%	93.4%
BC: 応用化学科	83.0%	85.7%	88.1%	85.0%	86.7%	94.5%	89.2%	93.1%	92.4%	92.2%

<5>科目区分別の分析

- 今回の1年次生はこれまでと科目区分が異なっているため、1年次生だけで6つの科目区分での比較を行った。
- 「A:事前の興味」では「人間形成基礎科目」と「専門科目」で肯定的な意見が多く、興味を惹いていると言える。特に「人間形成基礎科目」では「とても興味があった」という回答が27.0%と非常に多かった。一方で「修学基礎科目」は興味があった回答を合計した肯定的な意見が54.4%と少なかった。
- 「B:事前の内容理解」では「修学基礎科目」で肯定的な意見が最も多く、次いで「人間形成基礎科目」「基礎実技科目」と続いており、これらの科目は事前に内容が理解しやすいようであった。一方で「専門科目」「数理基礎科目」は低く、理解しにくい様子が見えてきた。
- 「C:自分の熱意と努力」に関して、「努力した」と「どちらかといえば努力した」の合計で比べるとそれほど差は大きくなく、「数理基礎科目」「専門科目」が低い程度であった。しかし、「努力した」だけで見ると「修学基礎科目」「人間形成基礎科目」などが非常に高く、「数理基礎科目」の低さが目立っていた。

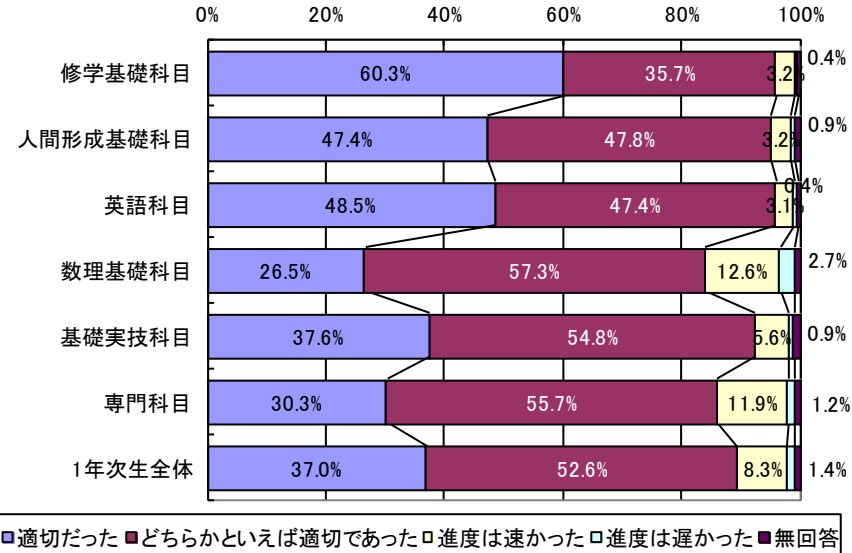


- 「D:予習・復習、課外学習活動」に関して、「学習は特にしなかった」という回答で比較すると、「人間形成基礎科目」では51.6%であり、他の科目区分と大きな差が見られた。その他に目立った特徴としては、「修学基礎科目」では「30分程度」が40.1%と多く、勉強時間は短いようであった。他の学科区分の差はそれほど大きくなかったが、「1時間程度」までをあわせると「英語科目」が多く、「2時間以上」だけを見ると「専門科目」が多かった。
- 「E:教科書・指導書の適切さ」で肯定的な意見を比較すると、科目区分によって大きな差が見られた。肯定的な意見が多く評価が高かったのは「修学基礎科目」「英語科目」「基礎実技科目」であり、厳しい評価だったのは「人間形成基礎科目」「数理基礎科目」「専門科目」であった。また、「人間形成基礎科目」では「教科書・指導書はなかった」が15.0%を占めていた。
- 「F:課題・レポートの適切さ」は科目区分による差が少なかったが、「数理基礎科目」「専門科目」がやや厳しい評価となっていた。また、「十分役立った」という回答だけを見ると「修学基礎科目」が32.3%と高かった。

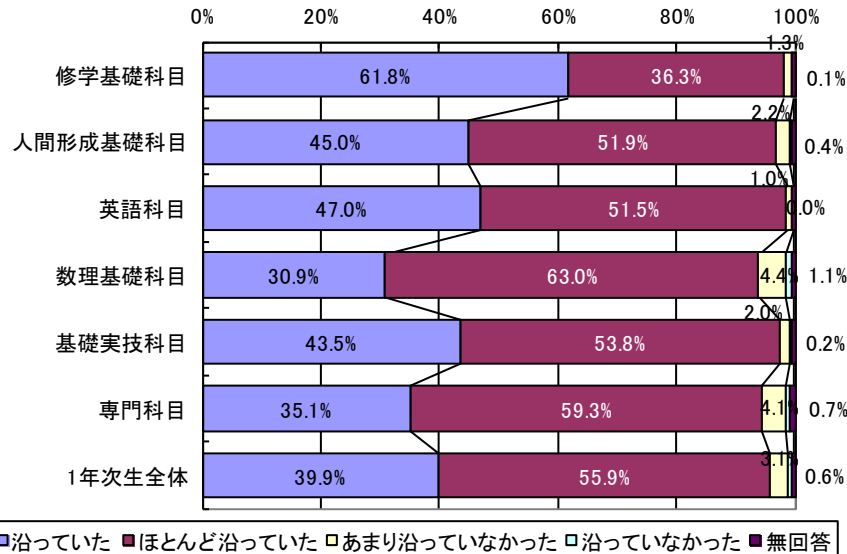


- 「G:学習支援計画書との一致」で「沿っていた」と「ほぼ沿っていた」の合計で比較すると、すべての科目区分で9割以上が肯定的な意見であり、評価は非常に高かった。「沿っていた」だけで比較すると科目区分の差が見られ、「修学基礎科目」が61.8%と高く、「数理基礎科目」「専門科目」は3割台で低かった。
- 「H:授業の進度の適切さ」で肯定的な意見の合計を比較すると、「数理基礎科目」「専門科目」が低く、1年次生は進度に不満を持っているようであった。「適切だった」という回答だけを見ると「修学基礎科目」では60.3%で、強く満足している様子が見え、「英語科目」「人間形成基礎科目」の満足度も高かった。
- 「I:学習相談の有効性」において「相談しなかった」という回答で比較すると、「修学基礎科目」では50.9%と非常に少なかった。一方で「人間形成基礎科目」「専門科目」では7割前後と非常に多く、学習相談を利用していない科目区分が見えてきた。そして、「有効であった」を見ると「修学基礎科目」で17.7%と高く、学習相談を有効に活用している様子が見えた。

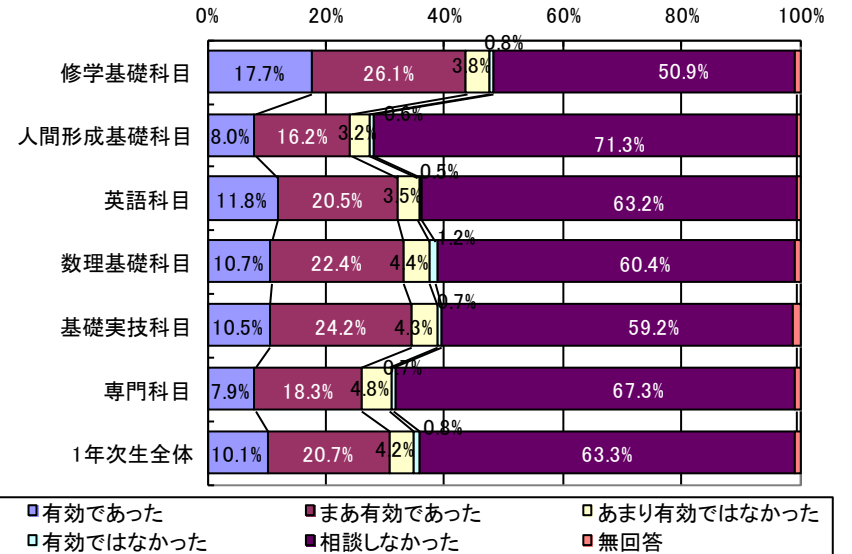
■H: 授業の進度の適切さ



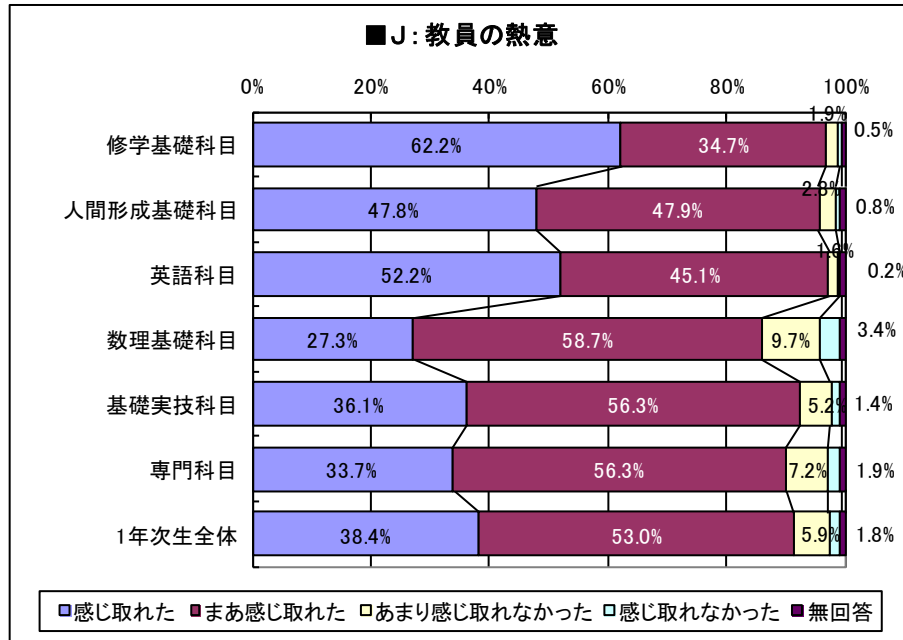
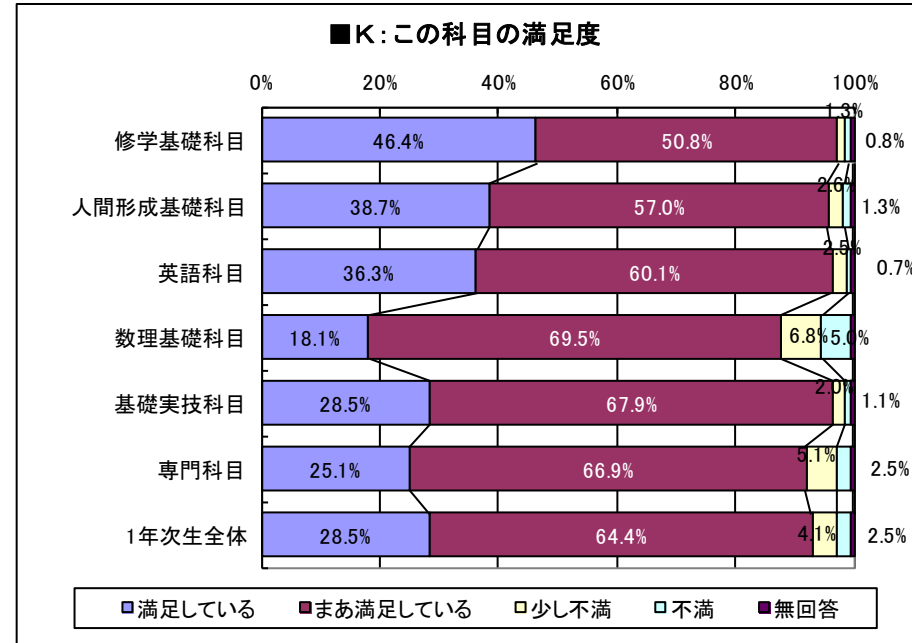
■G: 学習支援計画書との一致



■I: 学習相談(OH、チューター)の有効性

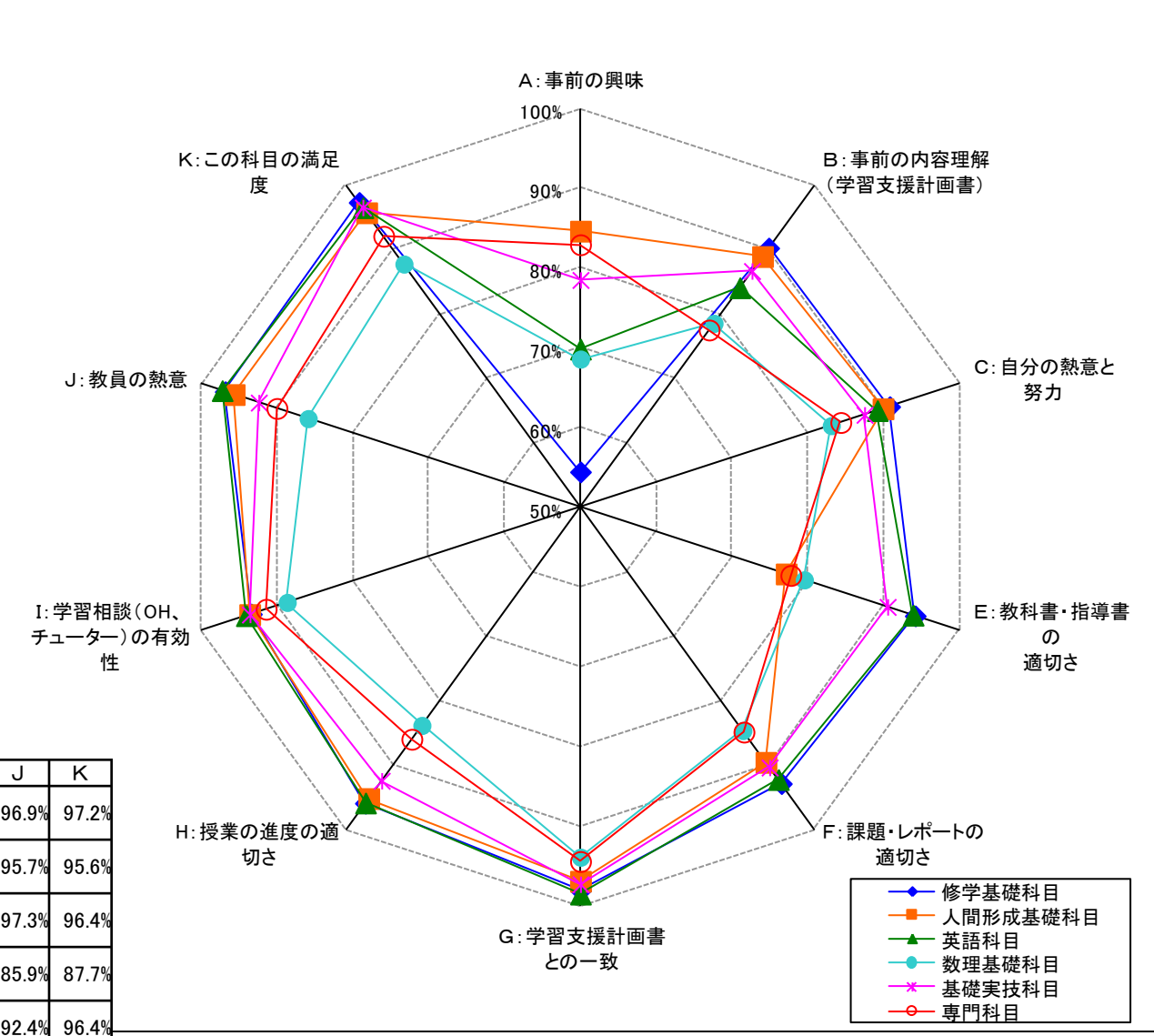


- 「J:教員の熱意」で「感じ取れた」と「まあ感じ取れた」の合計で比較すると、「英語科目」「修学基礎科目」「人間形成基礎科目」の3つの科目で評価が高かったが、「感じ取れた」だけをみると「修学基礎科目」が62.2%と突出していた。一方で「数理基礎科目」「専門科目」「基礎実技科目」はいずれも評価が低く、特に「数理基礎科目」が低かった。ただし、いずれの科目でも85%以上は肯定的な意見であり、大きな課題は感じられなかった。
- 「K:この科目の満足度」についても肯定的な意見の合計は「数理基礎科目」がやや低かったものの、いずれの科目区分でも85%を超えており、満足度は非常に高いと言える。特に「修学基礎科目」では「満足している」という回答が46.4%と非常に高く、「人間形成基礎科目」(38.7%)、「英語科目」(36.3%)でも3割を超えていた。一方、「数理基礎科目」は満足度がやや低く、「満足している」という回答は18.1%であった。



- 1年次生は専門系の科目区分が1つだけなので、一般科目系と専門系を分けることなく全体で比較を行った。
- 科目区分別の比較を見ると、全体的に科目によって非常に大きな差が見られたが、特に「A:事前の興味」の差は大きく、「修学基礎科目」が非常に低い点が目についた。そして、「数理基礎科目」「英語科目」もそれほど高くなく、事前の興味の低さが感じられた。
- 科目区分別に見ると「修学基礎科目」は「A:事前の興味」が非常に低かったものの「K:この科目の満足度」は最も高く、他の項目でも最も高いものが多くあった。また、「英語科目」も「A:事前の興味」は低い但他的項目には高いものがいくつか見られ、「修学基礎科目」と同じような傾向であった。
- 「数理基礎科目」は全体的に低く、「K:この科目の満足度」の低さも目立っていた。
- 「専門科目」の「A:事前の興味」は「人間形成基礎科目」に次ぐ高さであったが、その他の項目は低めであった。

■ 科目区分別比較レーダーチャート



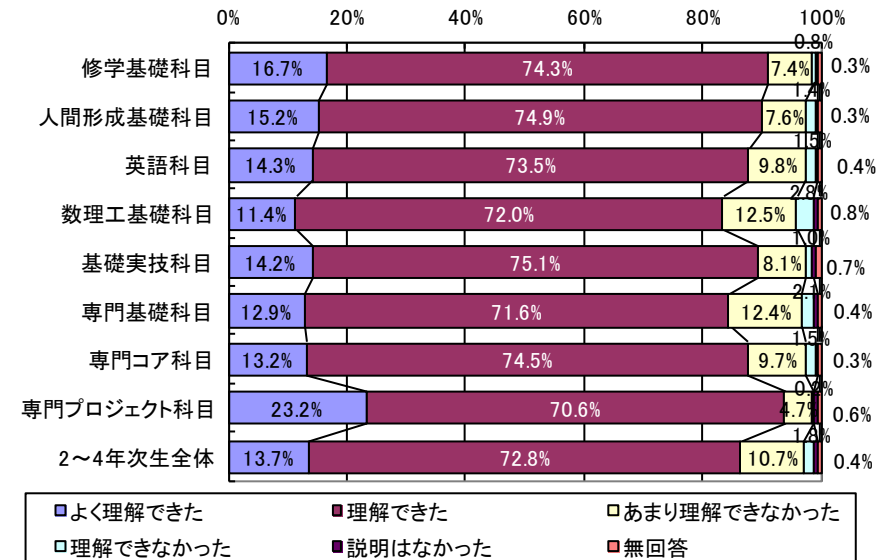
■ 科目の評価比較

	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
修学基礎科目	54.4%	90.2%	90.8%	94.2%	92.9%	98.1%	95.9%	93.4%	96.9%	97.2%
人間形成基礎科目	84.6%	88.9%	89.9%	77.1%	89.6%	96.9%	95.2%	93.6%	95.7%	95.6%
英語科目	69.8%	84.0%	89.2%	93.9%	92.2%	98.6%	95.9%	94.1%	97.3%	96.4%
数理基礎科目	68.6%	78.5%	83.1%	79.5%	84.7%	93.9%	83.9%	88.7%	85.9%	87.7%
基礎実技科目	78.5%	86.6%	87.5%	90.5%	90.4%	97.3%	92.4%	93.6%	92.4%	96.4%
専門科目	82.9%	77.5%	84.3%	77.7%	84.9%	94.5%	86.0%	91.5%	90.0%	92.0%

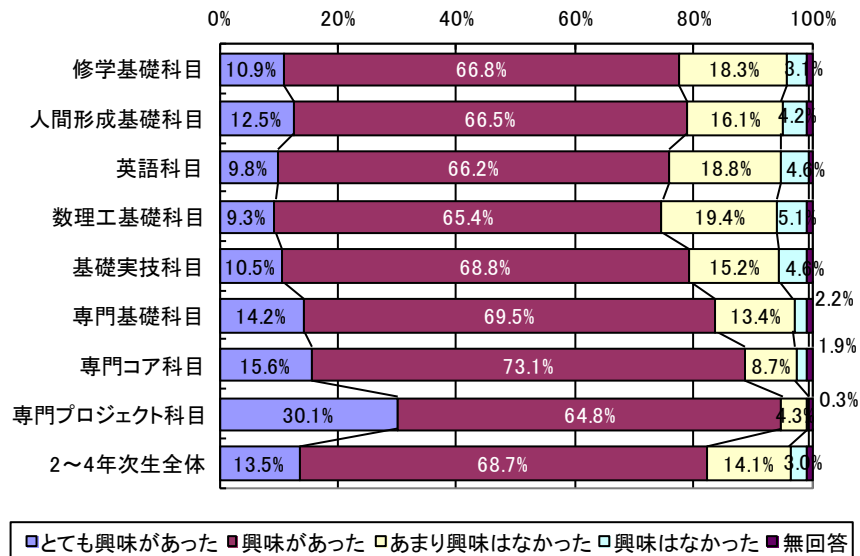
<5-3>科目区分別の比較(2~4年次生)

- 2~4年次生の科目区分は共通であるため、合わせて分析を行った。
- 「A:事前の興味」で肯定的な意見の合計で比較すると、「専門プロジェクト科目」「専門コア科目」「専門基礎科目」の専門系科目に興味を持っている様子がうかがえた。特に「専門プロジェクト科目」では「とても興味があった」が30.1%と突出しており、興味の強さが感じられた。
- 「B:事前の内容理解」で「よく理解できた」と「理解できた」の合計で比較すると、それほど差は大きくないが「専門プロジェクト科目」が最も高く、事前に内容の理解が進んでいるようであった。一方、「数理工基礎科目」「専門基礎科目」で事前の理解がやや低めであった。
- 「C:自分の熱意と努力」は科目区分による差はあまり大きくなく、肯定的な意見の合計では「専門プロジェクト科目」と「基礎実技科目」がやや高い程度であったが、「努力した」だけを見ると「専門プロジェクト科目」が38.8%と非常に高く、熱意を持って取り組んでいる様子がうかがえた。

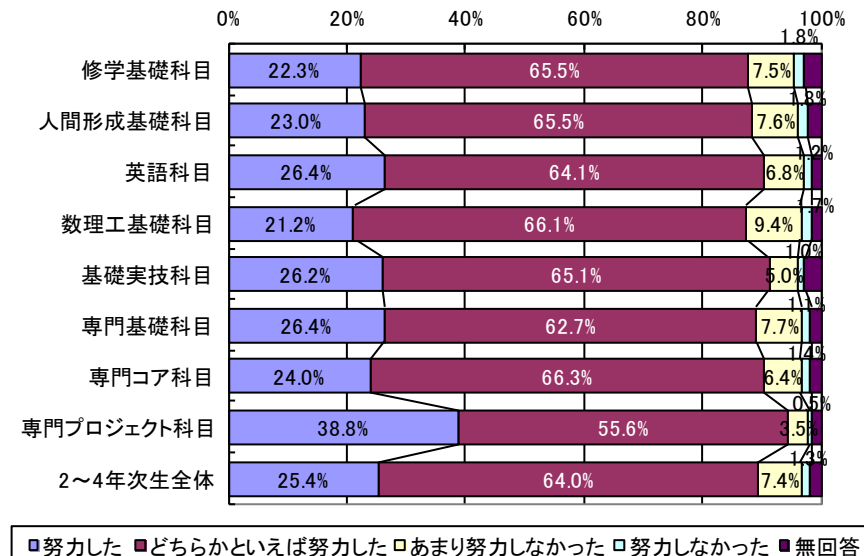
■B:事前の内容理解(学習支援計画書)



■A:事前の興味

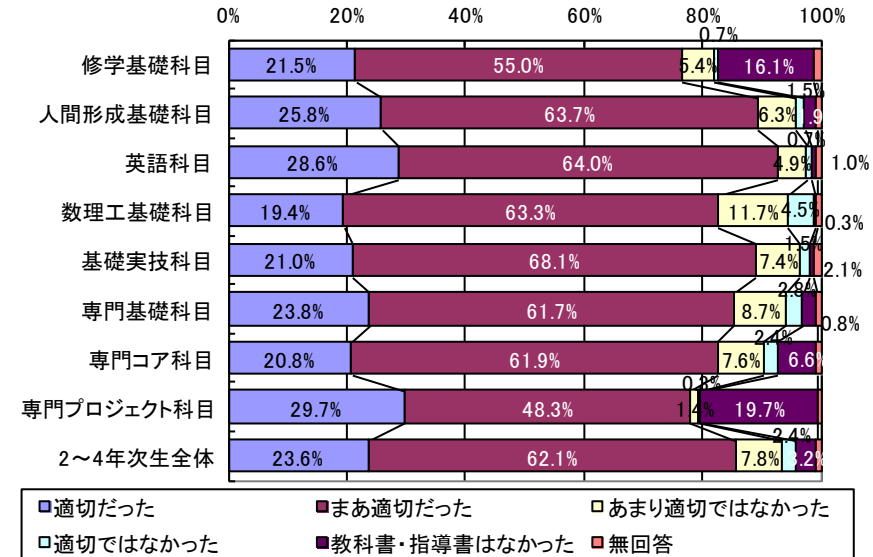


■C:自分の熱意と努力

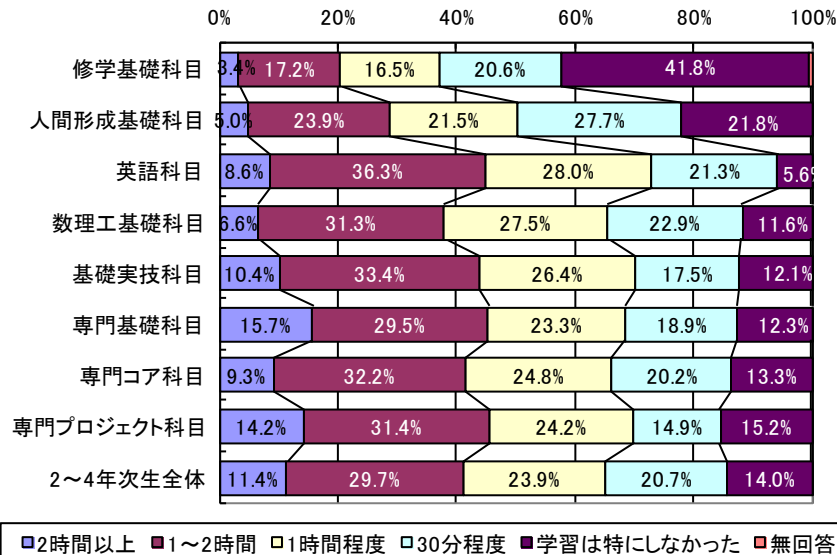


- 「D:予習・復習、課外学習活動」は科目区分による大きな特徴が見られたが、「学習は特にしなかった」だけを見ると「修学基礎科目」が非常に多く、「人間形成基礎科目」もそれに次ぐ多さであった。一方、「学習は特にしなかった」が最も少なかったのは「英語科目」であった。また、「2時間以上」だけを見ると「専門基礎科目」「専門プロジェクト科目」が多く、これらの科目には時間を割いて取り組んでいる様子がうかがえた。そして、それ以外の科目には大きな差は見られなかった。
- 「E:教科書・指導書の適切さ」で特徴的であったのは、「専門プロジェクト科目」と「修学基礎科目」で「教科書・指導書はなかった」という回答が多い点であり、「適切だった」と「まあ適切だった」を合わせると「英語科目」「人間形成基礎科目」「基礎実技科目」の評価が高かった。
- 「F:課題・レポートの適切さ」は科目区分による差が少なく大きな特徴は見られなかったが、「修学基礎科目」で肯定的な意見がやや少なかった。一方、「専門プロジェクト科目」では「十分役立った」という回答が33.3%と多く、評価が高かった。

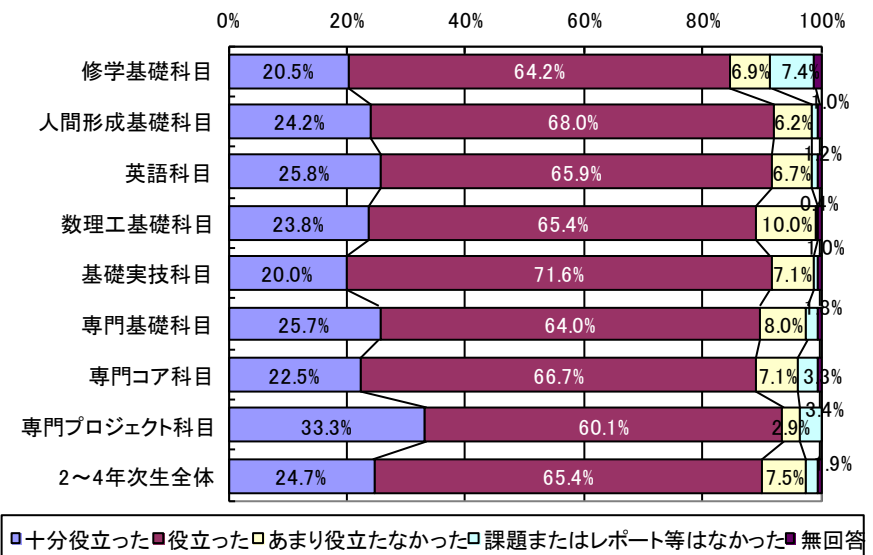
■E:教科書・指導書の適切さ



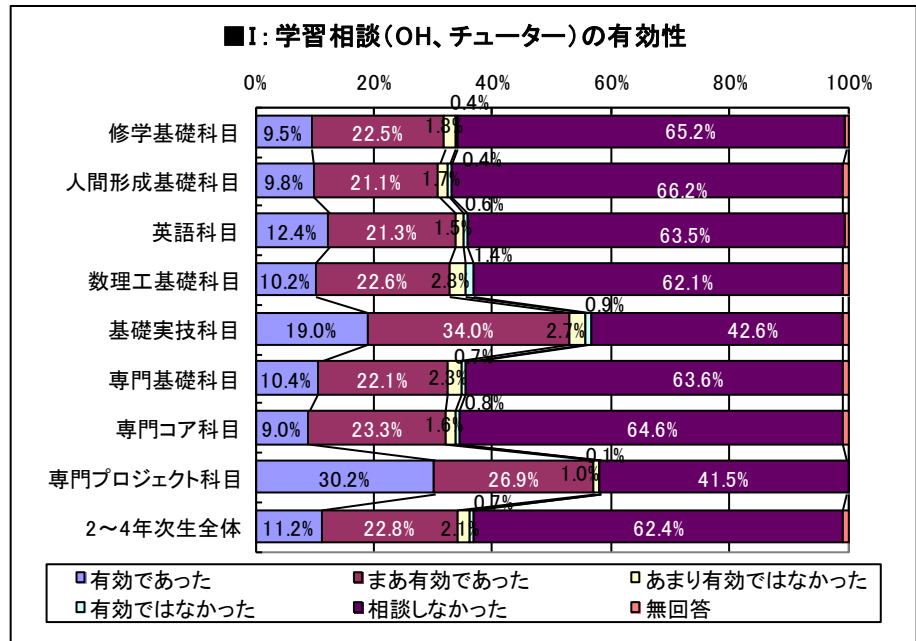
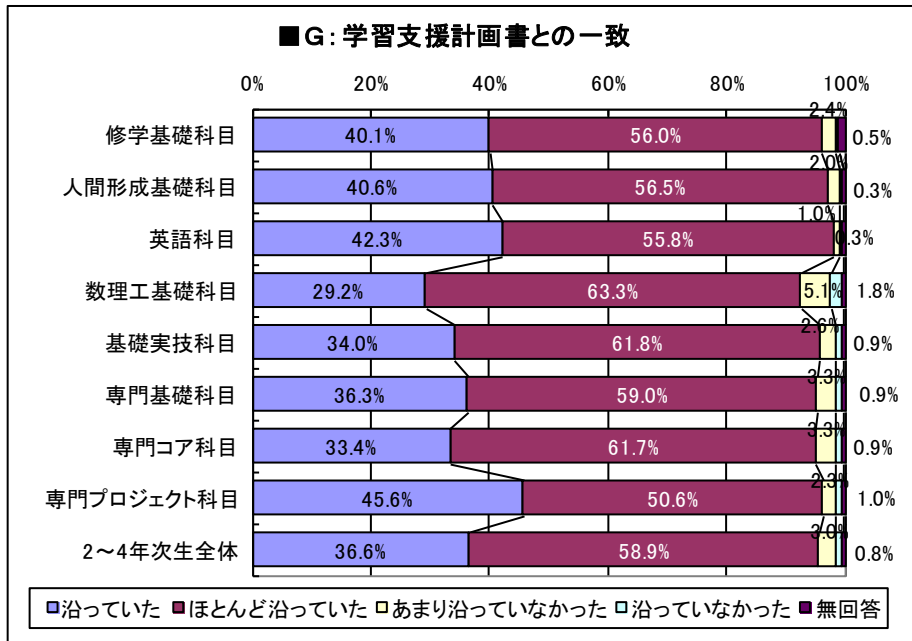
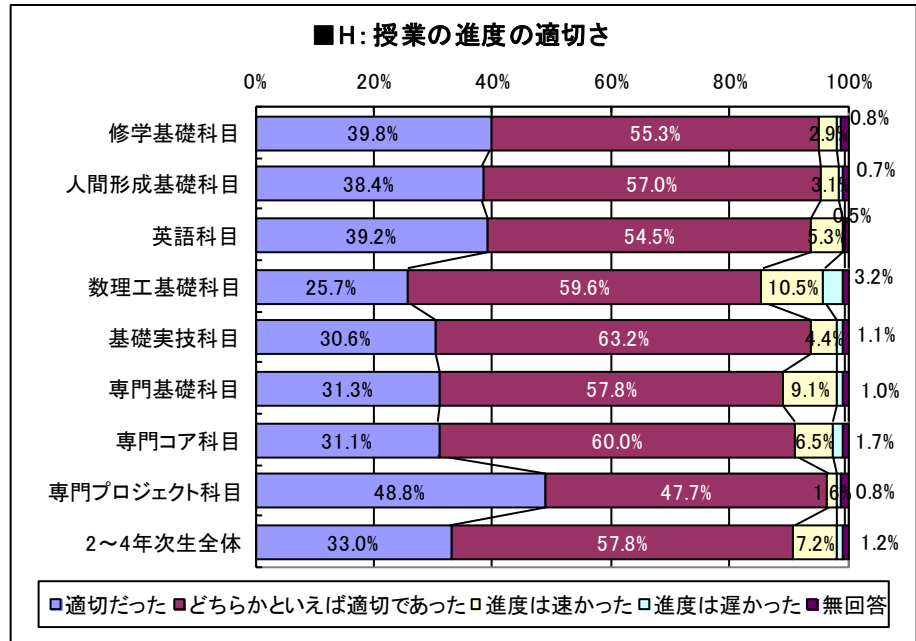
■D:予習・復習、課外学習活動



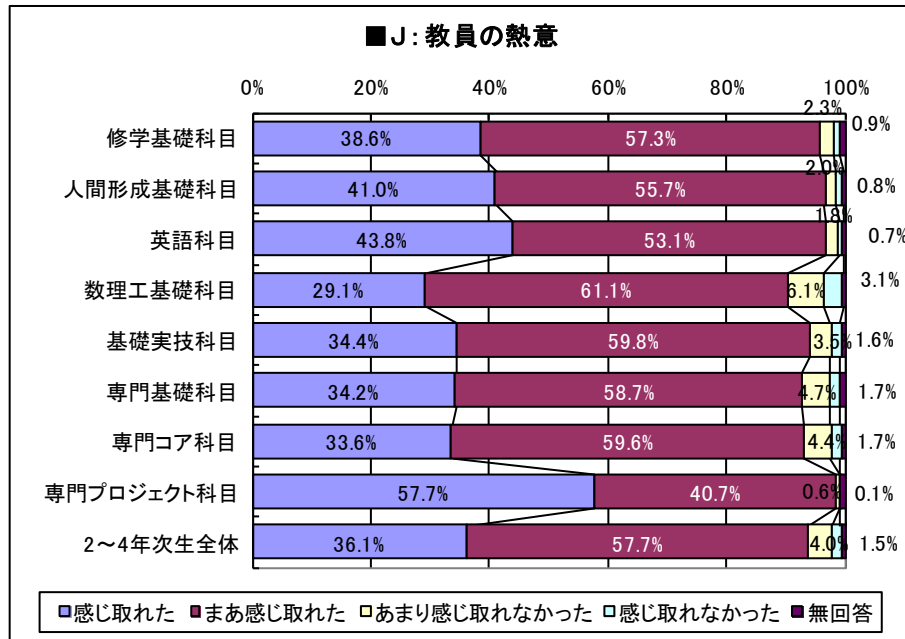
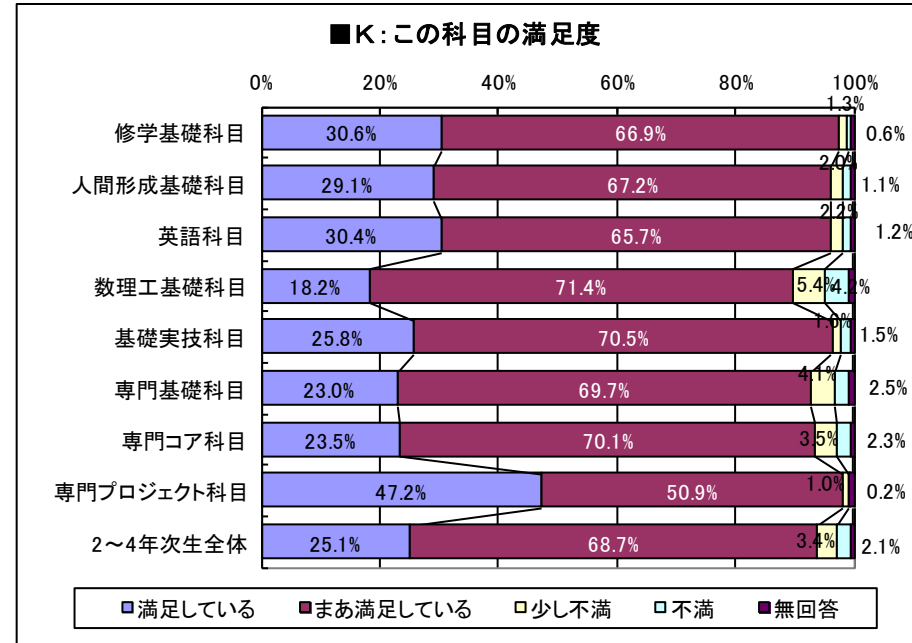
■F:課題・レポートの適切さ



- 「G:学習支援計画書との一致」で肯定的な意見の合計を見ると、いずれの科目区分でも非常に評価が高く、ほとんど差は見られなかった。ただし、「沿っていた」だけを見ると「専門プロジェクト科目」が45.6%と高く、「英語科目」「人間形成基礎科目」「修学基礎科目」もやや高めであった。一方、最も低かったのは「数理工基礎科目」の29.2%であった。
- 「H:授業の進度の適切さ」は「専門プロジェクト科目」で肯定的な意見が非常に多く、「適切だった」という回答が48.8%と突出していた。その他では「修学基礎科目」「人間形成基礎科目」「英語科目」などの一般科目で評価が高く、最も低かったのは「数理工基礎科目」であった。
- 「I:学習相談の有効性」では「基礎実技科目」と「専門プロジェクト科目」が特徴的であり、いずれも「相談しなかった」が4割程度と少なく、学習相談をよく活用している様子がうかがえた。この2科目以外の傾向はほぼ同じであり、「相談しなかった」が6割程度を占めていた。

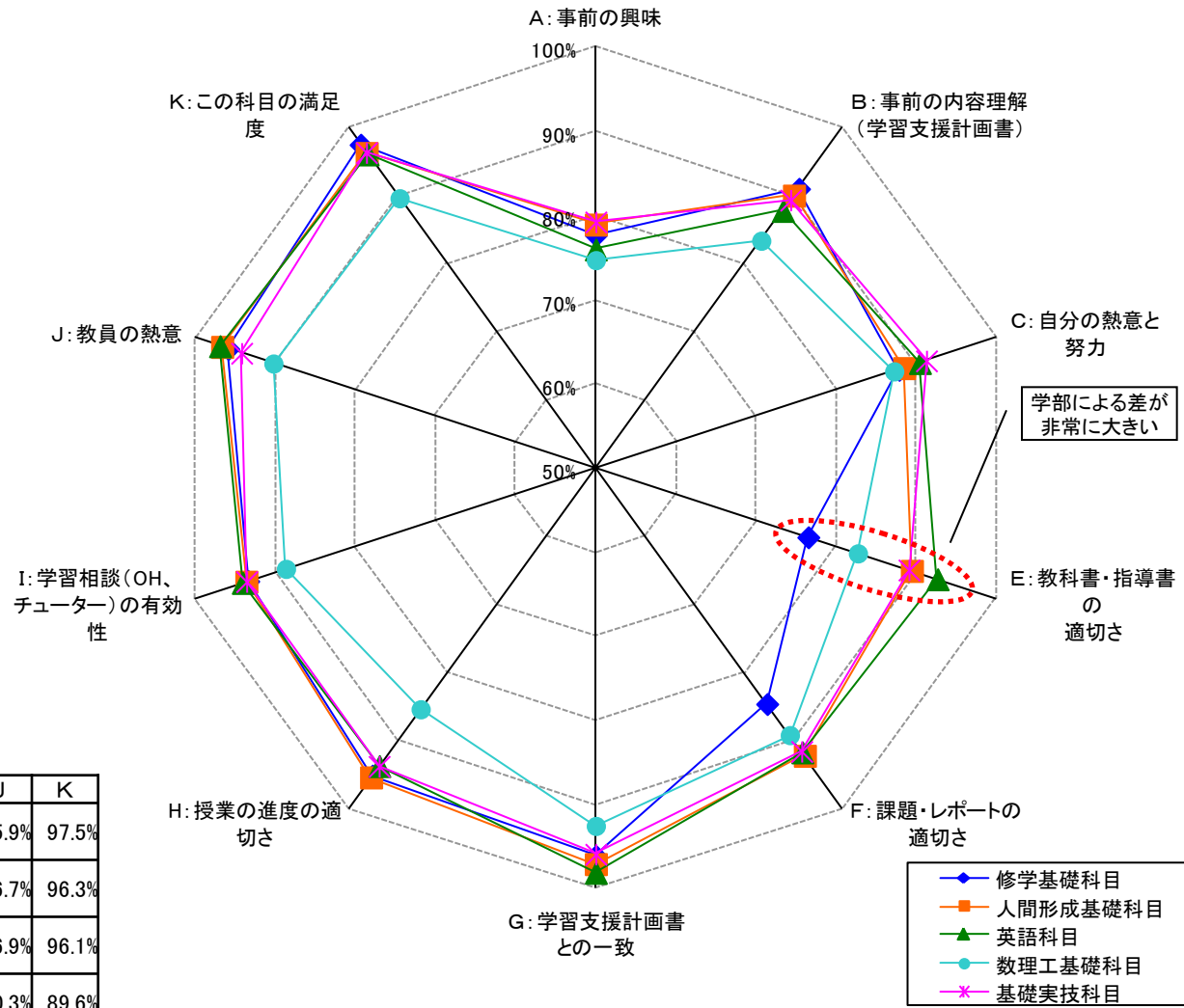


- 「J:教員の熱意」について肯定的な意見の合計で比較すると、「専門プロジェクト科目」が非常に高く、「感じ取れた」だけを見ても57.7%と突出していた。「修学基礎科目」「人間形成基礎科目」「英語科目」でも教員の熱意を感じている傾向が見られた。また、「数理工基礎科目」が最も低かった。
- 「K:この科目の満足度」で「満足している」と「まあ満足している」の合計を見ると、すべての科目区分ではほぼ9割を超えており、満足度は高いと言える。「満足している」だけで見ると「専門プロジェクト科目」が47.2%と突出しており、非常に満足度が高かった。次いで「修学基礎科目」「英語科目」「人間形成基礎科目」がやや高めであり、「数理工基礎科目」の満足度が最も低かった。



- すべての科目区分を比べると数が多いため、一般系の5科目と専門系の3科目に分けて比較を行った。
- 一般系の5科目の肯定的な意見は右のレーダーチャートのように、「E:教科書・指導書の適切さ」は科目区分ごとの差が非常に大きかったが、他の項目では「数理工基礎科目」を除くとそれほど大きな差は見られなかった。
- 「数理工基礎科目」は「E:教科書・指導書の適切さ」と「F:課題・レポートの適切さ」を除くとすべての項目で最も低い評価となっており、その低さが目立っていた。
- 「修学基礎科目」では「E:教科書・指導書の適切さ」と「F:課題・レポートの適切さ」は非常に低かったが、それ以外は全体的に高く、「B:事前の内容理解」と「K:この科目の満足度」は最も高かった。
- 上記の2つの科目区分以外では大きな特徴は見られなかったが、「英語科目」は「E:教科書・指導書の適切さ」の評価が高い点が目立っていた。

■ 科目区分別比較レーダーチャート①(一般系科目)

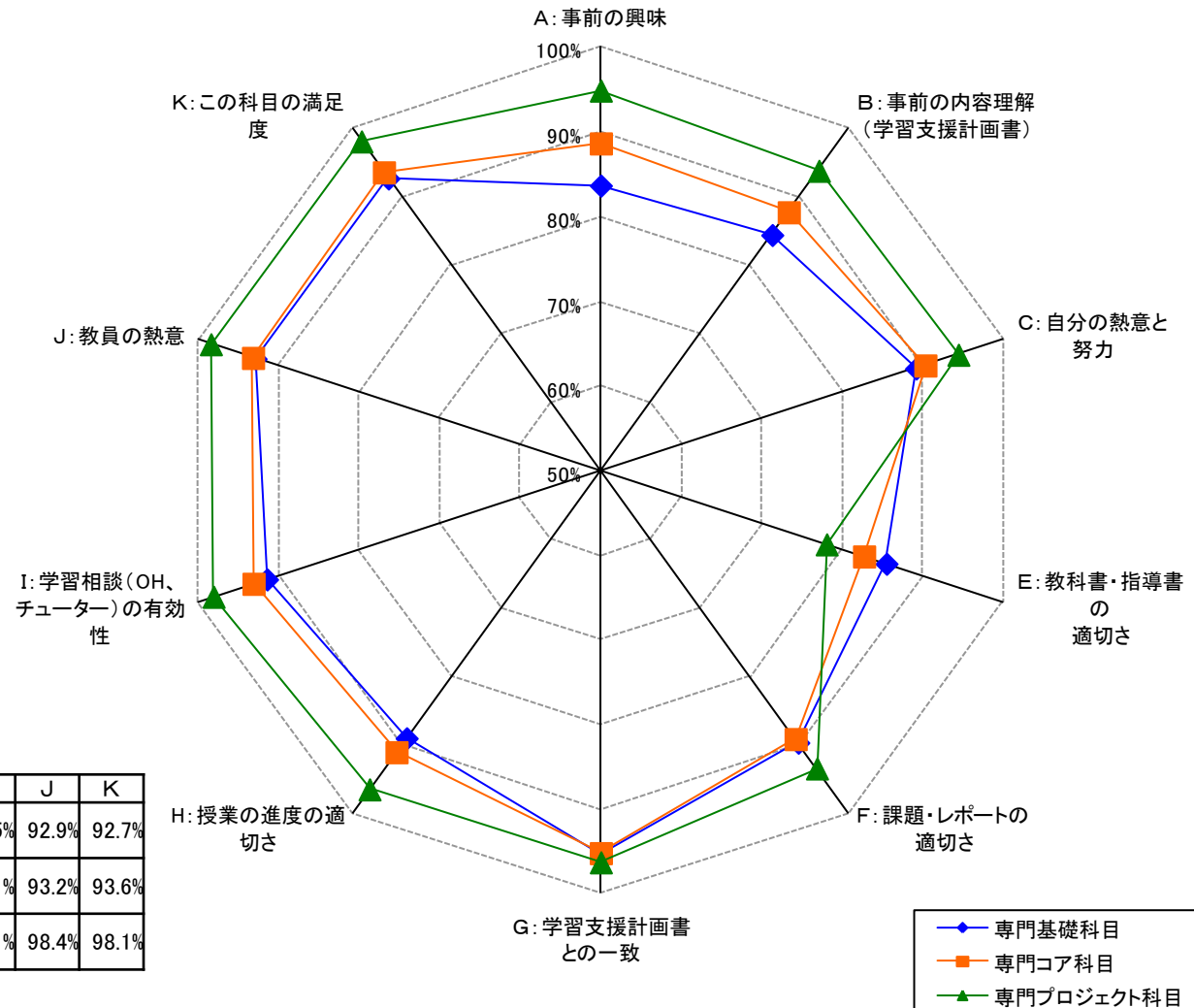


■ 一般系科目の評価比較

	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
修学基礎科目	77.7%	91.0%	87.9%	76.5%	84.6%	96.1%	95.1%	93.4%	95.9%	97.5%
人間形成基礎科目	78.9%	90.0%	88.5%	89.5%	92.2%	97.0%	95.4%	93.6%	96.7%	96.3%
英語科目	76.0%	87.8%	90.5%	92.7%	91.7%	98.1%	93.7%	94.1%	96.9%	96.1%
数理工基礎科目	74.7%	83.4%	87.3%	82.7%	89.2%	92.5%	85.4%	88.7%	90.3%	89.6%
基礎実技科目	79.3%	89.4%	91.3%	89.1%	91.6%	95.9%	93.8%	93.6%	94.2%	96.3%

- 「専門系」の3つの科目区分では、特徴がハッキリと出ていた。
- 「専門プロジェクト科目」はほとんどの項目で肯定的な意見が最も多く、「J:教員の熱意」「K:この科目の満足度」では、100%近くが肯定的な意見で、授業の評価は非常に高かった。ただし、「E:教科書・指導書の適切さ」だけは最も低い評価であった。
- 一方、「専門基礎科目」はほとんどの項目で最も評価が低かった。特に「A:事前の興味」「B:事前の内容理解」という、授業の前段階の項目の評価の低さが目立っていた。「E:教科書・指導書の適切さ」だけは最も高い評価であった。
- 「専門コア科目」はほとんどの項目で中間的な評価であり、大きな特徴は見られなかったが、「F:課題・レポートの適切さ」「G:学習支援計画書との一致」はわずかではあるが最も低い評価であった。

■ 科目区分別比較レーダーチャート②(専門系科目)

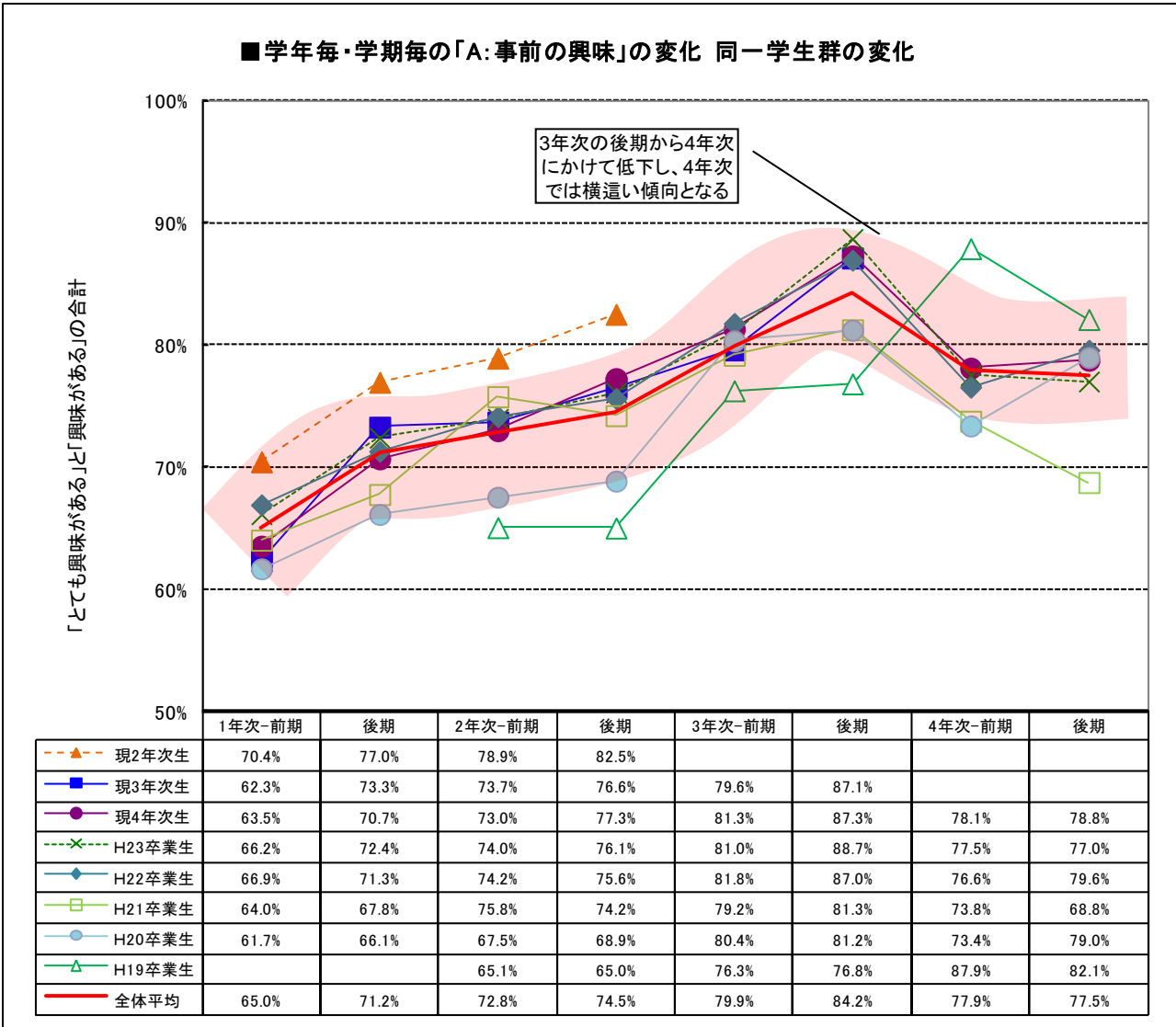


■ 専門系科目の評価比較

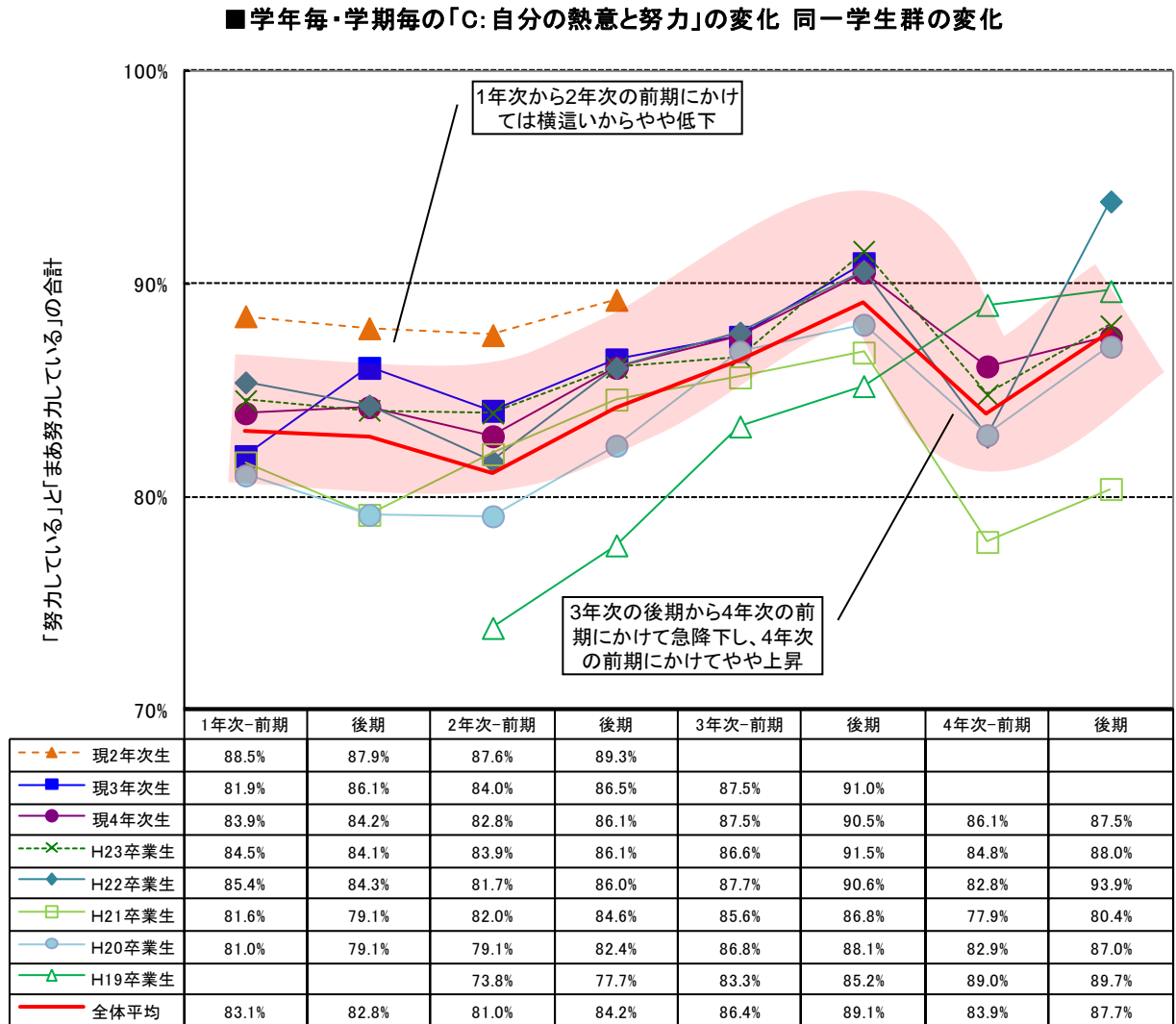
	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
専門基礎科目	83.7%	84.4%	89.2%	85.5%	89.7%	95.3%	89.0%	91.5%	92.9%	92.7%
専門コア科目	88.7%	87.8%	90.3%	82.7%	89.2%	95.2%	91.1%	93.1%	93.2%	93.6%
専門プロジェクト科目	94.9%	93.8%	94.4%	78.1%	93.4%	96.2%	96.5%	98.1%	98.4%	98.1%

<6> 同一学生群の分析

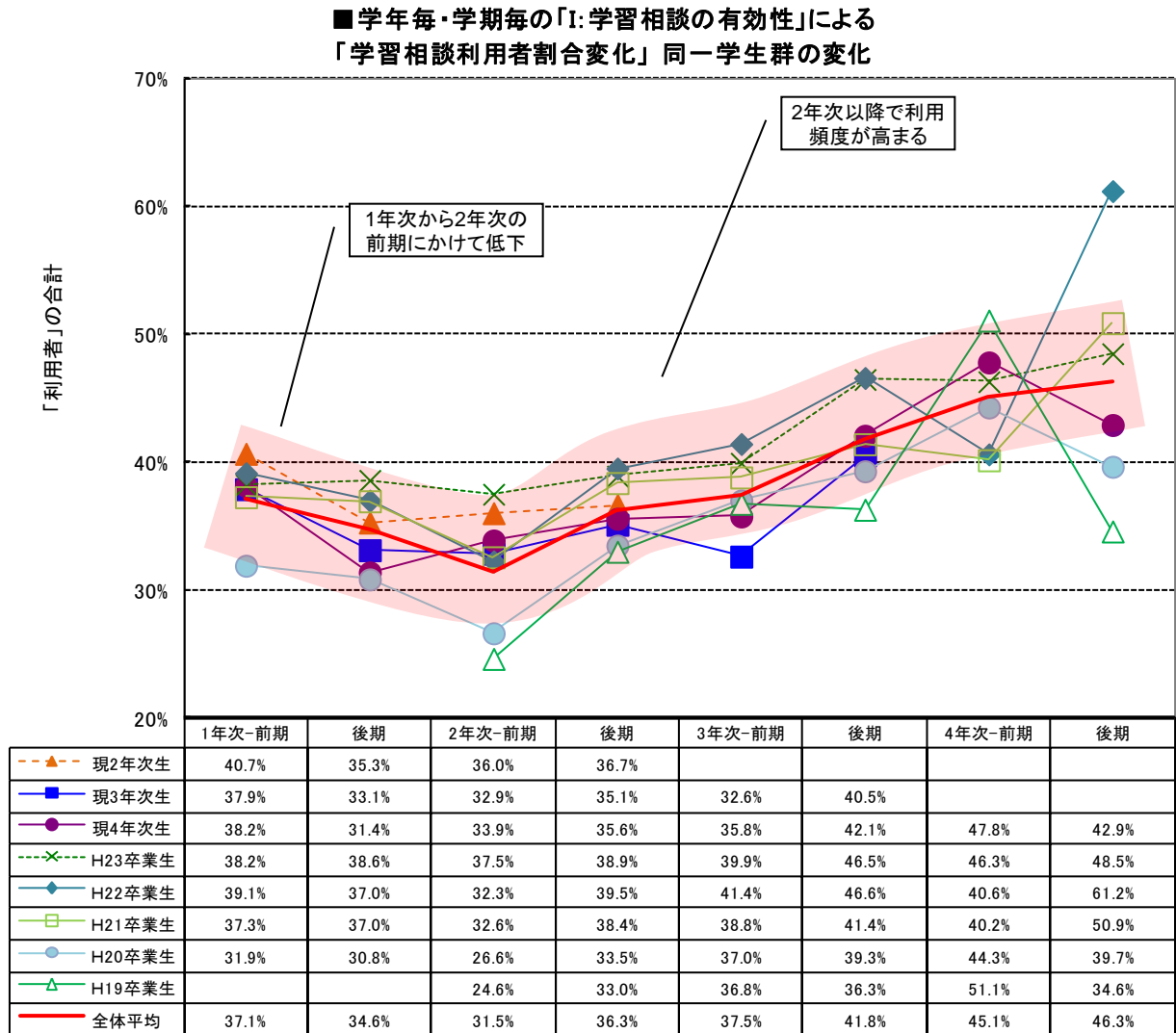
- この調査はH15年から実施しているが、その中で同一学生群として経年変化を追跡できる学生群をピックアップし、意識の変化を確認した。
- 学期の制度は「H21卒業生」の段階で3学期制から2学期制に変わっており、前回まではそれも含めて比較をしていたが、2学期制の学生群も増えたため、今回から2学期制で推移を見ている。「H21卒業生」以前の学生群は「秋学期」を「後期」として集計し、「冬学期」のデータは除外している。
- 「A:事前の興味」に関しては、すべての学生群で「1年次-前期」から「3年次-後期」にかけて肯定的な意見が増加しており、授業に対する興味の変化がよく現れていた。しかし、その後「4年次生-前期」にかけて興味が急速に低下し、「4年次生-後期」にかけては横這いとなっていた。
- 「4年次生」で授業アンケートに回答している学生は少数であり、大多数は卒業研究に取り組んでいるため、それらが「授業に対する興味の低下」につながっているのではないかとと思われる。
- 学生群として特徴的であったのは「H19卒業生」「H20卒業生」などであり、これらの学生群は授業に対する興味が低めであったが、この傾向は最近の学生群には見られない。
- 「現2年次生」は入学直後の「1年次-前期」から「2年次-後期」にかけて、授業に対して非常に強い興味を持っており、今後の変化がどうなるか気になる点と言える。



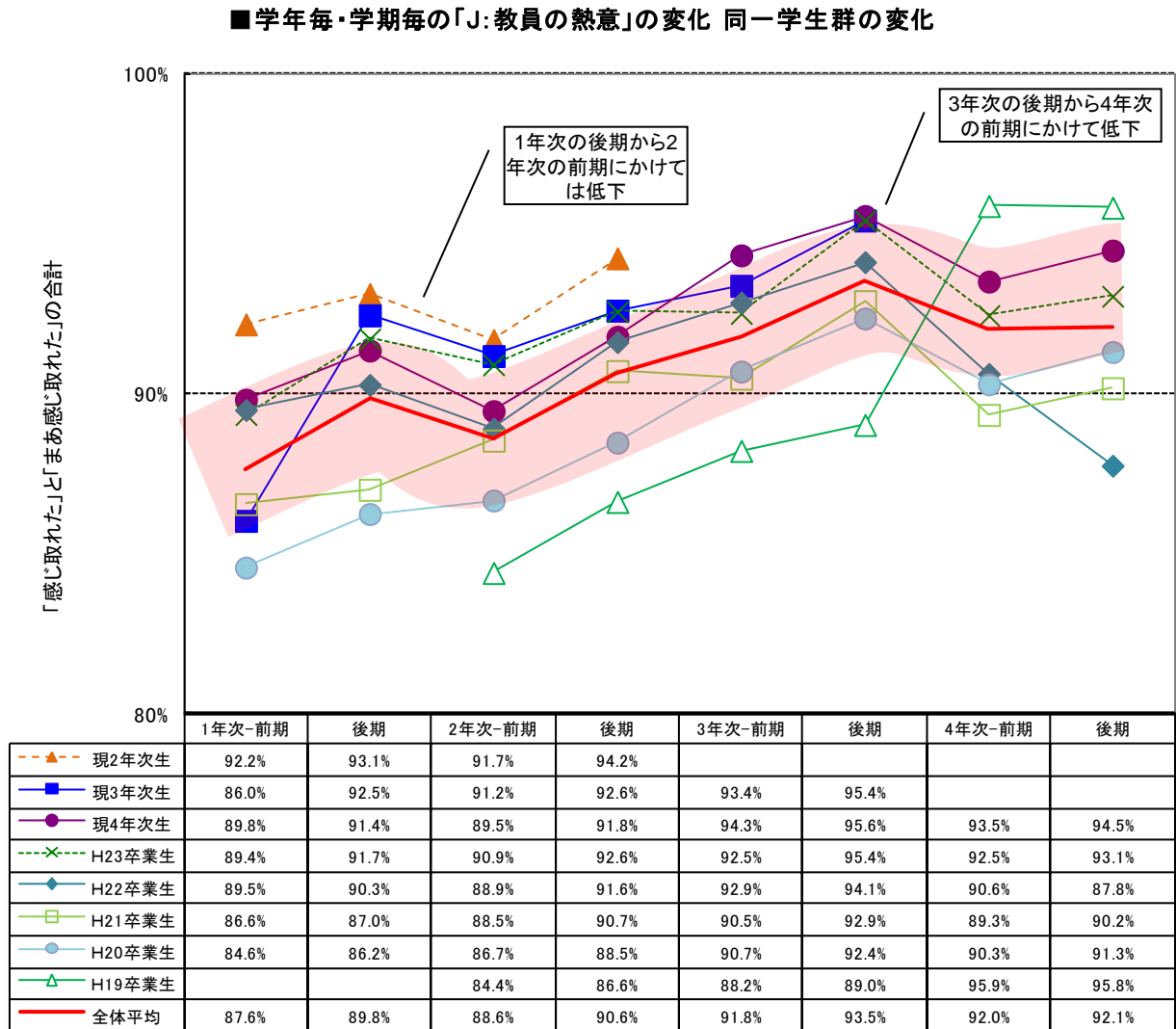
- 「C:自分の熱意と努力」の全体の平均を見ると、「1年次-前期」から「2年次-前期」にかけてはわずかに低下していたが、その後は「3年次-後期」まで上昇が続いており、積極性は大きく下がることなく推移していた。
- 前項で見たように「4年次生」は対象者が少ないため、それほど重視する必要はないと思われるが、「3年次-後期」から「4年次-前期」にかけては大きく積極性が低下し、「4年次-前期」から「後期」にかけては積極性が増加する傾向が見られた。
- 学生群の特徴としては「H19卒業生」「H20卒業生」「H21卒業生」など、以前の卒業生では積極性が低かったり、大きく変化するケースも見られたが、ここ数年は安定しており、大きな低下は見られない。
- 「現2年次生」は入学直後より強い積極性を持っており、今後が期待できる。



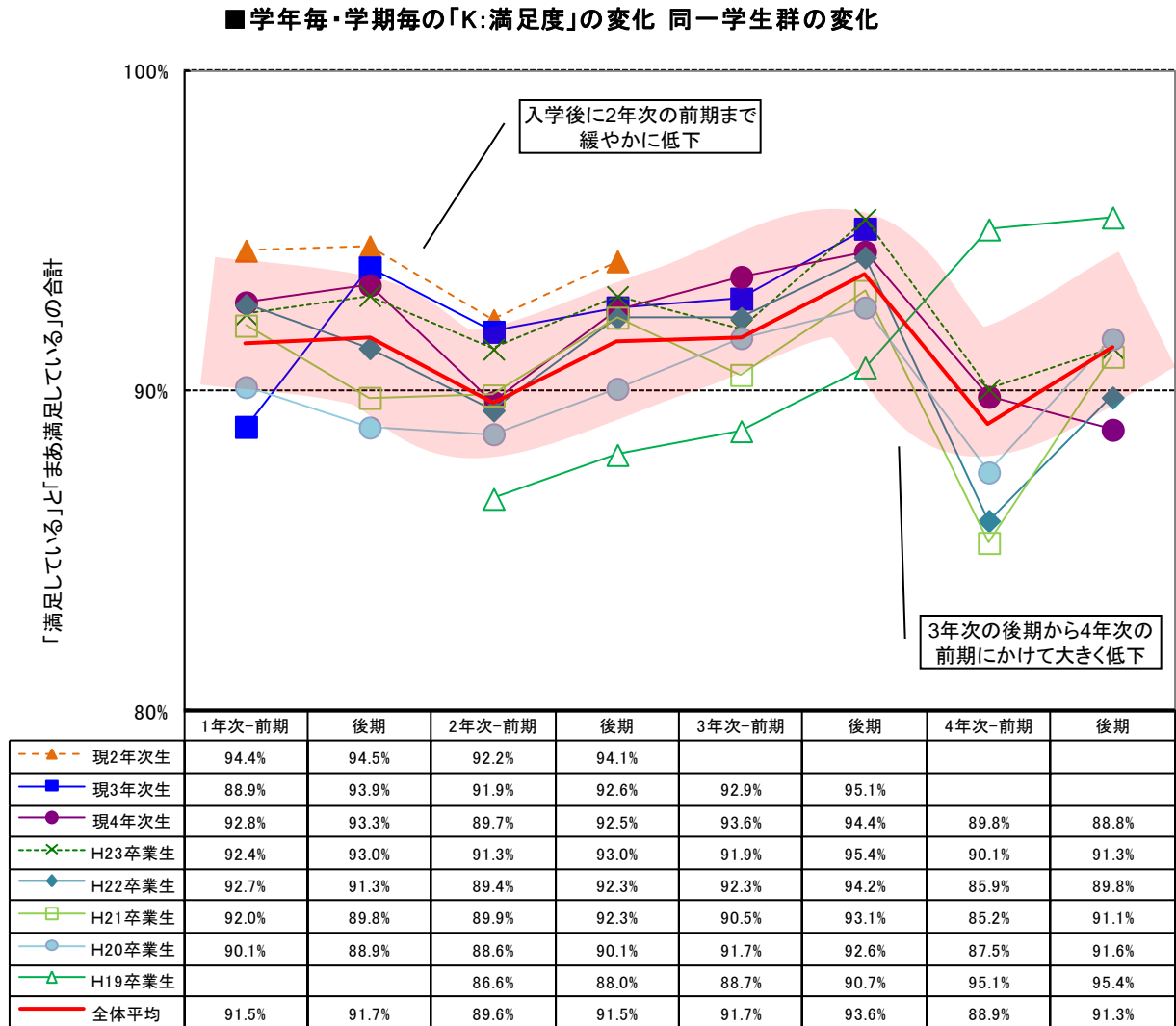
- 「I:学習相談の有効性」に関しては、内容の評価ではなく、「学習相談利用者割合」の変化を確認した。
- 全体の平均を見ると、「1年次-前期」から「2年次-前期」にかけて低下傾向が続き、その後は「4年次-後期」にかけて継続的に利用者割合は増加していた。他の指標で見られるような「4年次生」での低下傾向が見られない点が特徴と言える。
- 学生群の特徴を見ると、以前は「2年次」で利用率が大きく低下したり、変動幅が大きいこともあったが、最近では安定しており、利用者割合の学生群による差は小さいと言える。
- 他の指標では「現2年次生」の意識の高さが目立っていたが、ここでは特徴は見られなかった。



- 「J:教員の熱意」についての全体平均を見ると、「1年次-後期」から「2年次-前期」と、「3年次-後期」から「4年次-前期」の2つの時点で低下が目立っていたが、大きな流れとしては学年が上がるほど教員の熱意を感じるようになってきている様子がうかがえた。
- 学生群によって差は見られるものの、いずれの学生群でも9割前後は肯定的な意見であり、多くの学生が教員の熱意を感じていることが分かった。
- 学生群の特徴を見ると、「現3年生」は「1年次-後期」で肯定的な意見が急増し、その後安定している傾向が見られた。また、「現2年次生」は入学直後から肯定的な意見が非常に多く、「現2年次生」に関しては他の主要な指標との連動性が感じられた。
- 「現2年次生」「現3年次生」「現4年次生」など、最近の学生群を見ると、肯定的な意見が非常に多くなってきており、学生と教員の関係にも変化があるのではないかとと思われる。



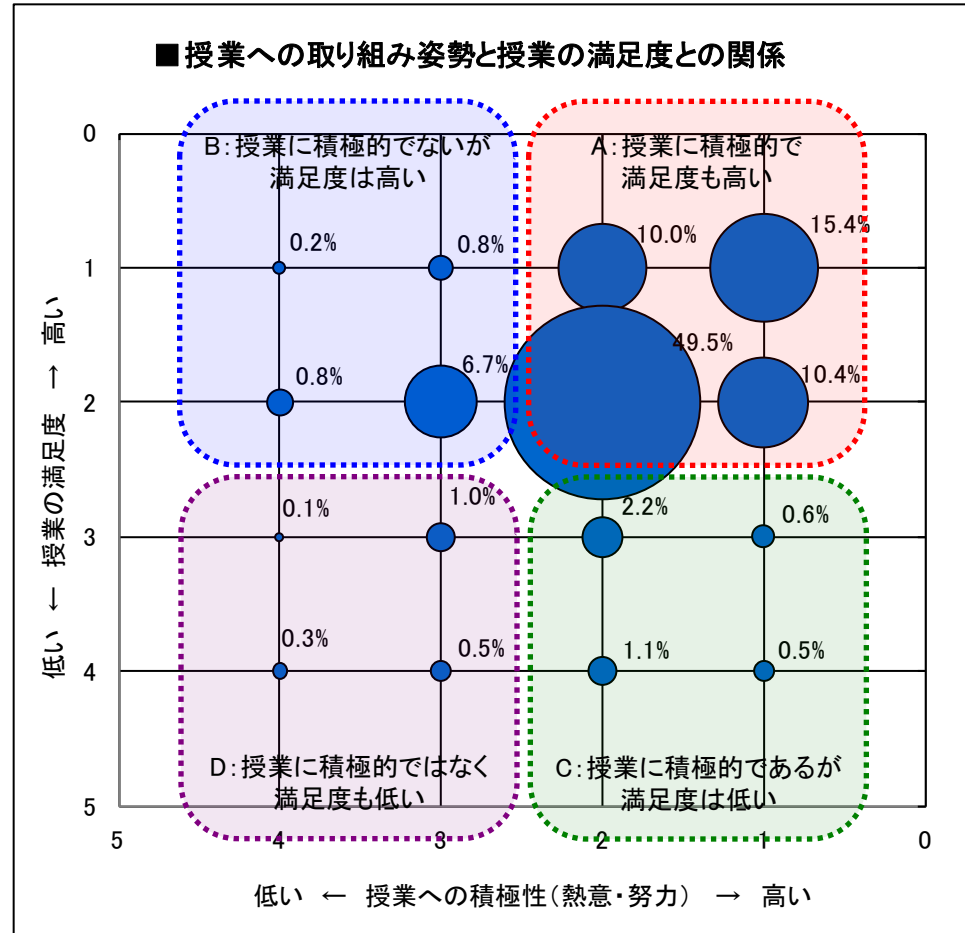
- 「K:この科目の満足度」は入学後から「3年次-後期」にかけて、それほど大きな変化はなく、継続的に90%以上が満足しており、良い状況が続いているようであった。
- 変化はわずかではあるが、「1年次-後期」から「2年次-前期」にかけて満足度が低下しており、このあたりに中だるみがあるのではないかと思われる。
- 他の多くの指標と同様に「3年次-後期」から「4年次-前期」にかけて満足度が大きく低下しているが、これは回答者の減少や単位の取り損ねなどの要因が大きいと思われる、大きな課題にはならないのではないかと思われる。
- 学生群の特徴を見ると、他の項目と同様にここ数年はいずれの学生群も満足度が高い状況にあり、特に「現2年次生」は入学直後から非常に高い満足度を維持しており、今後が気になる学生群と言える。



<7> 授業への取り組み姿勢と授業の満足度の分析

<7-1> 授業への取り組み姿勢と授業の満足度との関係

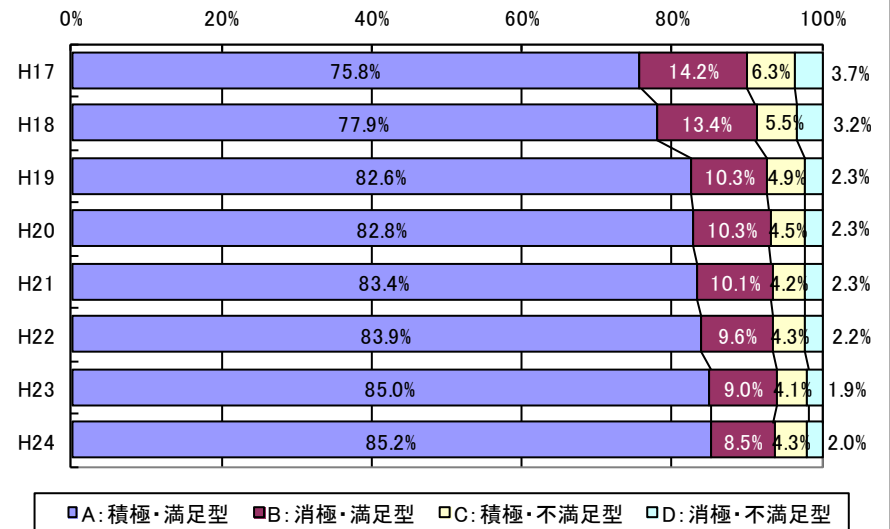
- 「C:自分の熱意と努力」と「K:この科目の満足度」の2つの指標を掛け合わせ、学生を4つのグループに分けて比較を行った。
- 「A:授業に積極的で満足度も高い」層は全体の85.2%を占めており、これらの学生群は良い状態で授業に取り組んでいると言える。この中で「満足度」も「積極性」も共に最も高かった学生は15.4%で、共に「まあまあ」という学生は49.5%であり、全体の半数を占めていた。
- 「B:授業に積極的でないが満足度は高い」層は8.5%と少なく、これは授業に対して積極性を持っていないが満足はしているという学生群となる。
- 「C:授業に積極的であるが満足度は低い」層は全体の4.3%であった。これは授業に対して積極的に取り組んだものの満足感を得られていないという学生群であり、「期待はずれ」「物足りない」「授業が分からない」といった意識があるのではないかと思われる。
- 「D:授業に積極的ではなく満足度も低い」という学生は全体の2.0%と非常に少なかったが、4つのグループの中で最も大きな課題を抱えている学生群であると言える。



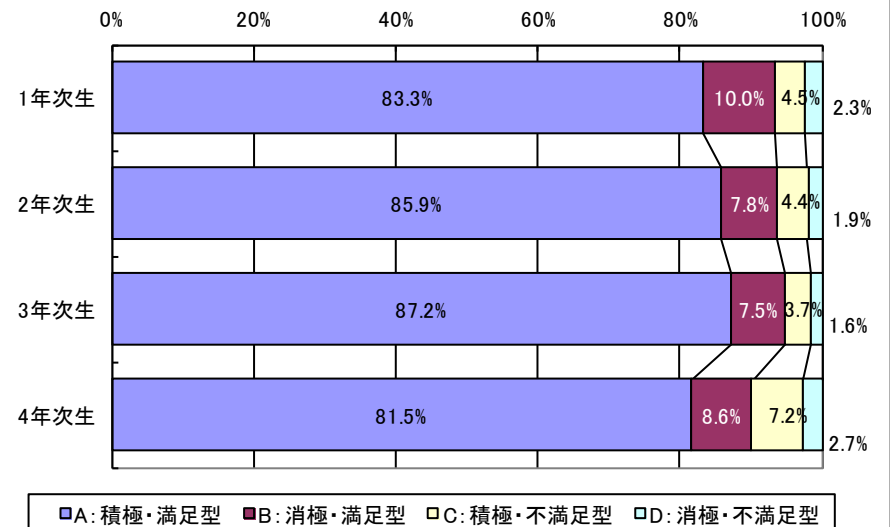
領域	割合	取り組み姿勢	略号
A	85.2%	授業に積極的で満足度も高い。 良い状態にある学生群であり、このグループが増えることが望ましい。	積極・満足型
B	8.5%	授業に積極的でないが満足度は高い。 教員の指導によって引っぱられているものと思われる。 積極性を持ってもらいたいが、無理強いをする必要まではないと思われる。	消極・満足型
C	4.3%	授業に積極的であるが満足度は低い。 頑張っているのに満足が得られないグループであり、注意が必要。 「期待はずれ」「ついていけない」といった理由が考えられる。	積極・不満足型
D	2.0%	授業に積極的ではなく満足度も低い。 最も大きな課題であり、学生自身の自主性もないものと思われる。	消極・不満足型

- 「積極性」と「満足度」による4グループの割合の経年変化を見ると、「A:積極・満足型」は前回より0.2ポイント増加し、これまでで最も多くなっていた。「A」グループはこの指標を見始めたH17から継続的に増加を続けており、良い状態の学生が増えていると言える。
- 上記以外では、「C:積極・不満足型」が0.2ポイント、「D:消極・不満足型」が0.1ポイントとわずかに増加し、「B:消極・満足型」だけが0.5ポイント減少していた。
- 学年別に「A:積極・満足型」の割合を比較すると、「3年次生」で87.2%と最も多く、次いで「2年次生」が85.9%、「1年次生」が83.3%、「4年次生」が81.5%で、最も多かった「3年次生」と最も少なかった「4年次生」の差は5.7ポイントであった。
- この他に目立っていたのは「C:積極・不満足型」であり、「4年次生」では7.2%と、他の学年の倍近い割合となっていた。これには『一生懸命頑張ったのに成績が良くなかった』といった「4年次生」の不満などが含まれているのではないと思われる。

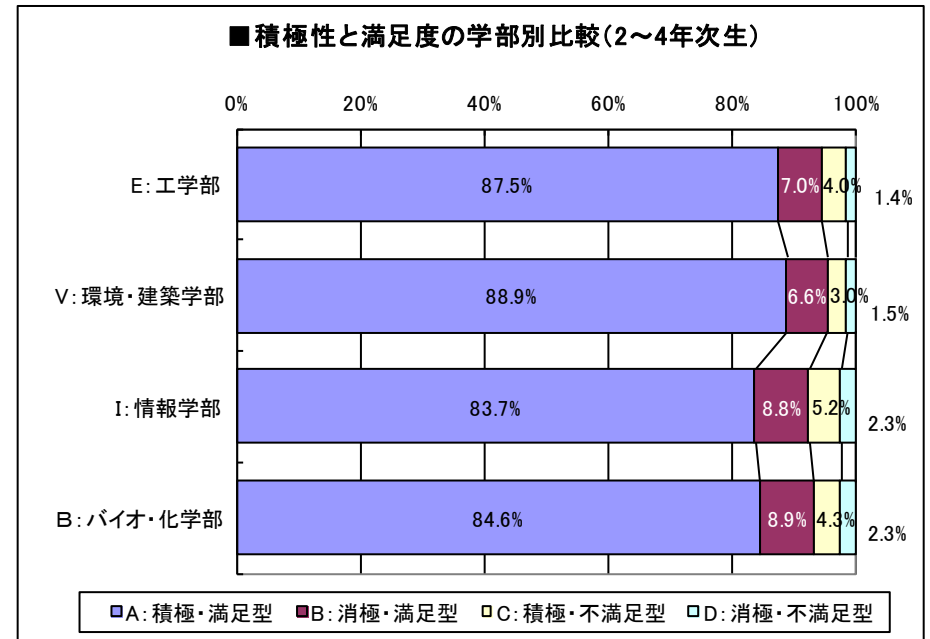
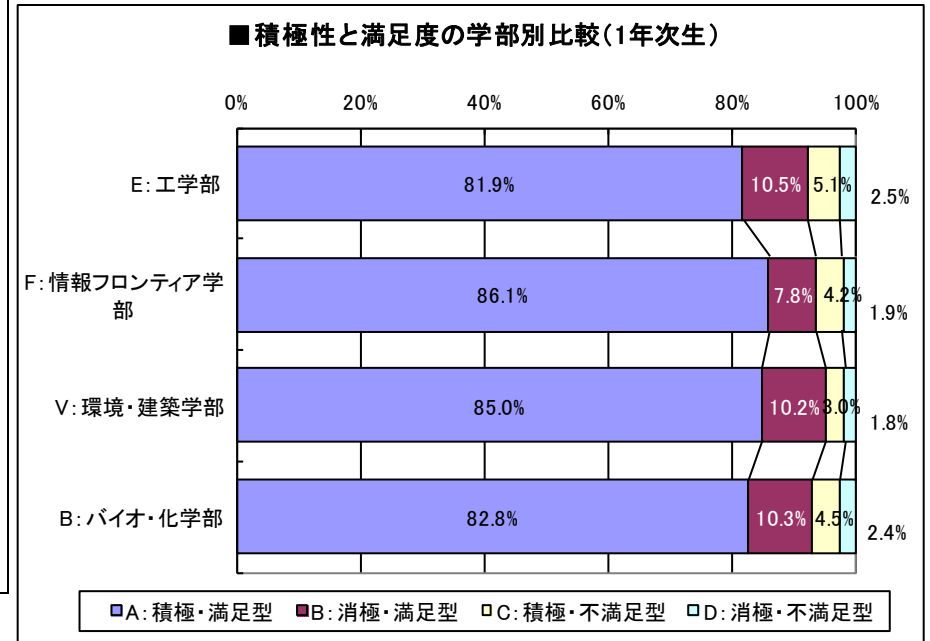
■ 積極性と満足度の経年変化



■ 積極性と満足度の学年別比較



- 学部別の比較は、「1年次生」と「2～4年次生」で学部構成が異なるため、グラフを別にした。
- 「1年次生」で「A:積極・満足型」が最も多かったのは「F:情報フロンティア学部」の86.1%であった。次いで「V:環境・建築学部」で85.0%、「B:バイオ・化学部」で82.8%、「E:工学部」で81.9%と続いており、いずれの学部でも充実していると回答した学生が8割以上を占めていた。
- 「2～4年次生」では「V:環境・建築学部」で「A:積極・満足型」が88.9%であり、「1年次生」の4学部を合わせたすべての学部の中でも最も多く、充実している様子がうかがえた。
- 次いで「E:工学部」で87.5%、「B:バイオ・化学部」で84.6%、「I:情報学部」が83.7%と続いており、全体的に「1年次生」より良い状態にあると言えそうであった。
- その他の特徴を見ると、「I:情報学部」で「C:積極・不満足型」が5.2%であり、「1年次生」を含めても最も多かった。



<8> 全体のまとめ

<8-1> 全体の分析で分かったこと

今回の集計、分析から分かったことは下記の通り。

【全体傾向で確認できた事】

93.2%という大多数が授業に満足しており、教員の熱意を感じている割合も92.9%と多かった。学生自身も87.9%が熱意を持って授業を受けており、全体的に良い状況であると言える。

- ◆ 総合的な指標である「授業の満足度」を見ると、全体の93.2%が満足と答えており、満足度は非常に高かった。
- ◆ 事前に授業に興味を持っていたという回答は79.6%と非常に多く、内容を理解していたという回答も84.8%であり、事前の意識は高かった。
- ◆ 学生の受講態度としては、全体の87.9%が熱意を持って授業を受けており、1回の授業に対して1時間以上の自宅学習をしている割合は59.4%であった。
- ◆ 授業の進め方に関する評価も概ね高く、92.9%が授業を通して教員の熱意を感じると答えていた。

【経年変化で確認できた事】

「事前の興味」はこれまでで最も高くなっており、「自分の熱意と努力」も高くなり、学生の積極性は増していた。一方、「満足度」はわずかに前回は下回っていたが、課題になるほどでなかった。

- ◆ いくつかの項目は前回は下回っていたが、主要な項目はこれまでで最も高くなり、非常に良い状態になってきていると言える。
- ◆ 「事前の興味」は前回は2.8ポイント上回ってこれまでで最も高くなっていた。他に「課題・レポートの適切さ」が0.9ポイント、「学習相談の有効性」が0.8ポイント、「自分の熱意と努力」が0.6ポイント前回は上回っていた。
- ◆ 「この科目の満足度」は残念ながら前回は0.3ポイント下回っていたが、満足度としては高いものであった。また、「教科書・指導書の適切さ」「学習支援計画書との一致」「教員の熱意」も前回はわずかに下回っていたが、いずれも評価自体は高いため、課題にはならないと思われる。

【学年別比較で確認できた事】

「3年次生」と「2年次生」は「事前の興味」「事前の内容理解」の高さが授業自体の満足度につながっている傾向が見られた。一方、「1年次生」は「事前の興味」をはじめとして全体的に低めであった。

- ◆ 全体的に「3年次生」で肯定的な意見が多かった。「授業の満足度」も「3年次生」が94.0%で最も高く、次いで「2年次生」「1年次生」「4年次生」と続いていた。
- ◆ 「3年次生」は特に「事前の興味」と「事前の内容理解」の高さが目立ち、この事前の意識の高さが満足度の高さにつながっていると思われる。同様に「2年次生」も事前の意識の高さが満足度の高さにつながっている様子が見えられた。
- ◆ 「4年次生」は「授業の満足度」は低かったものの、他はそれほど低くなく、「1年次生」は「事前の興味」「教科書・指導書」「学習相談」をはじめとして、全体的に低めとなっていた。

【同一学生群で確認できた事】

2年次の前期にやや中だるみが見られるものの、学年が上がるほど充実している様子が見えられた。ただし、「4年次生」までに単位取得ができなかった学生は不満を感じているようであった。

- ◆ 「授業の満足度」の全体平均は、「1年次-後期」から「2年次-前期」にかけて低下した後には上昇しはじめ、「3年次-後期」に最も高くなり、「4年次-前期」に向けて大きく低下している。
- ◆ 「事前の興味」は入学後に継続的に上がって「3年次-後期」で最大となり、「自分の熱意と努力」「教員の熱意」は「2年次-前期」で最低、「3年次-後期」に最高となる。大きな流れとしては「2年次-前期」に中だるみがあるものの、学年が上がるにつれて充実しているようであった。
- ◆ 多くの指標で「4年次」に低下する傾向が見られたが、これは3年次で単位を取得できなかったことへの不満などが要因だと思われる、大きな課題にはならないものと思われる。

【1年次生の学部別・学科別比較で確認できた事】

「環境・建築学部」は「事前の興味」の高さが目立っており、「バイオ・化学部」は「課題・レポートの適切さ」が低かった。「情報フロンティア学部」は積極的に授業に取り組んでいるようであった。

- ◆ 「1年次生」では学部の差はそれほど大きくはなかったが、「事前の興味」でやや差が見られ、「環境・建築学部」の高さが目立っていた。また、「課題・レポートの適切さ」では「バイオ・化学部」がやや低かった。
- ◆ 「情報フロンティア学部」は「事前の内容理解」「自分の熱意と努力」などが高く、積極的に授業に取り組んでいる様子がうかがえた。
- ◆ 「工学部」では「航空システム工学科」が全体的に高く、特に「事前の興味」「事前の内容理解」が高かった。「情報フロンティア学部」は学科の差が少なかったが、全体的に「経営情報学科」がやや高めであった。そして、「環境・建築学部」では「環境土木工学科」が全体的に高かった。

【科目区分別比較で確認できた事】

「1年次生」では「修学基礎科目」に対する事前の興味は低かったものの、満足度を含めて評価は非常に高かった。「2～4年次生」では「専門プロジェクト科目」の評価が高かった。

- ◆ 「1年次生」では「修学基礎科目」に対する「事前の興味」が非常に低かったが、「満足度」を含めて他の項目の評価は非常に高かった。「英語科目」も同じような傾向となっていた。一方で「数理基礎科目」は全体的に低く、「満足度」も最も低かった。
- ◆ 「2～4年次生」の「一般系科目」では差はそれほど大きくなかったが、「理工基礎科目」は全体的に低かった。また、「教科書・指導書」の評価には差が見られ、「英語科目」の評価が高く、「修学基礎科目」が低かった。
- ◆ 「2～4年次生」の「専門系科目」では全体的に「専門プロジェクト科目」の評価が高く、「専門基礎科目」がやや低めであった。

【2～4年次生の学部別・学科別比較で確認できた事】

すべての項目で「環境・建築学部」が最も高く、特に「事前の興味」が高かった。一方、「情報学部」は全体的に低く、「バイオ・化学部」も低めであった。

- ◆ 「2～4年次生」では「環境・建築学部」がすべての項目で最も高く、非常に充実しているようであり、特に「事前の興味」の高さが目立っていた。
- ◆ 一方、「情報学部」は全体的に低く、特に「事前の興味」の低さが目立っていた。そして、「バイオ・化学部」も全体的に低めであった。
- ◆ 「工学部」ではすべての項目で「航空システム工学科」が最も高かった。「環境・建築学部」は3学科共に全体的に高く、学科の特徴は見られなかった。「情報学部」では「情報工学科」が全体的に高く、特に「事前の興味」「事前の内容理解」などが高かった。「バイオ・化学部」は2学科だが、いくつかの項目で「応用化学科」の方が高かった。

【積極性と満足度の指標から確認できた事】

「積極・満足型」は継続的に増加が続き、85.2%と、これまでで最高となった。学年では「3年次生」で「積極・満足型」が最も多く、低学年ほど減少し、学部では「2～4年次生」の「環境・建築学部」で多かった。

- ◆ 「積極・満足型」は85.2%と非常に多かったが、その中で「満足度」も「積極性」も「まあまあ」という学生が49.5%と、全体の半数を占めていた。一方、「消極・不満足型」は2.0%とわずかであった。
- ◆ 「積極・満足型」はH17より継続的に増加傾向にあり、前回からも0.2ポイントとわずかではあるが増加しており、これまでで最も多くなっていた。
- ◆ 学年別には「3年次生」から「1年次生」にかけて「積極・満足型」が減少していたが、高学年でも「4年次生」は最も少なかった。
- ◆ 「1年次生」では「情報フロンティア学部」で「積極・満足型」が多く、「2～4年次生」では「環境・建築学部」で多かった。

ここまでの分析から分かったことをまとめると下記のようになる。

- 93.2%という大多数が授業に満足しており、教員の熱意を感じている割合も92.9%と多かった。学生自身も87.9%が熱意を持って授業を受けており、全体的に良い状況であると言える。
- 「事前の興味」はこれまでで最も高くなっており、「自分の熱意と努力」も高くなり、学生の積極性は増していた。一方、「満足度」はわずかに前回を下回っていたが、課題になるほどでなかった。
- 「3年次生」と「2年次生」は「事前の興味」「事前の内容理解」の高さが授業自体の満足度につながっている傾向が見られた。一方、「1年次生」は「事前の興味」をはじめとして全体的に低めであった。
- 2年次の前期にやや中だるみが見られるものの、学年が上がるほど充実している様子が見えてきた。ただし、「4年次生」までに単位取得ができなかった学生は不満を感じているようであった。
- 「1年次生」では「環境・建築学部」の「事前の興味」の高さが目立っており、「バイオ・化学部」は「課題・レポートの適切さ」が低かった。「情報フロンティア学部」は積極的に授業に取り組んでいるようであった。
- 「2～4年次生」ではすべての項目で「環境・建築学部」が最も高く、特に「事前の興味」が高かった。一方、「情報学部」は全体的に低く、「バイオ・化学部」も低めであった。
- 「1年次生」では「修学基礎科目」に対する事前の興味は低かったものの、満足度を含めて評価は非常に高かった。「2～4年次生」では「専門プロジェクト科目」の評価が高かった。
- 「積極・満足型」は継続的に増加が続き、85.2%と、これまでで最高となった。学年では「3年次生」で「積極・満足型」が最も多く、低学年ほど減少し、学部では「2～4年次生」の「環境・建築学部」で多かった。



- ❖ 93.2%が授業に満足し、92.9%は教員の熱意を感じており、学生自身も87.9%が熱意を持っているなど、非常に良い状態にあり、いくつかの指標はこれまでで最も良い結果となっていた。
- ❖ 同一学生群の変化を見ると、「2年次生」の前期にやや中だるみが見られるものの意識の低下は少なく、その後は「3年次生」の後期に向けて徐々に充実していく様子が見えてきた。ただし、「4年次生」までにしっかりと単位が取得できなかった学生には不満があるのではないかとと思われる。
- ❖ 「1年次生」では、「環境・建築学部」が「事前の興味」が強く、「情報フロンティア学部」が積極的に授業に取り組んでいる傾向が見られたが、「2～4年次生」ではすべての項目で「環境・建築学部」が最も高く、特に「事前の興味」の強さが目立ち、充実している様子が見えてきた。